

# 授業要覧

## 2023

### 情報理工学部

情報科学科 (DI)

コンピュータ応用工学科 (DA)

情報メディア学科 (DN)

## 目 次

序章 はじめに	3
東海大学の建学の精神・本学が養成する人材像及び3つのポリシー、アセスメント・ポリシー	4
I 章 総 説	10
II 章 学部教育研究上の目的及び養成する人材像	31
III 章 現代文明論・現代教養科目・英語科目の教育目標と講義構成	33
区分Ⅰ 現代文明論の教育目標と講義構成	34
区分Ⅱ 現代教養科目の教育目標と講義構成	35
区分Ⅲ 英語科目の教育目標と講義構成	37
IV 章 学科教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー、カリキュラム表、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー	39
情報科学科	40
コンピュータ応用工学科	50
情報メディア学科	61
V 章 自己学修科目カリキュラム表	71
VI 章 資格取得等	82
1. 教職課程	83
2. 司書課程	94
VII 章 諸 制 度	97
1. 副専攻	98
2. 東海大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム	98
3. キャンパス間留学	99
4. 大学院授業科目の先行履修制度	99
5. 留学による単位認定	99
6. 派遣留学による単位認定	99
7. 資格取得等による単位認定	99
8. 海外研修航海	100
《副専攻一覧》	101
《副専攻認定不可一覧》	103
《副専攻科目》	104
《海外派遣留学制度による単位認定》	148
《2023年度資格取得等による単位認定一覧表》	150

## はじめに

### 授業要覧とは

本学では、大卒での学修体系こそ定められていますが、一部科目を除いて、授業科目及び履修する学期の選択は学生自身に委ねています。学生は、自ら履修する科目を決め、履修計画を立て、自分だけの時間割を作っていきます。そのために、大学では積極的に“学ぶ”姿勢が大切となります。

この「授業要覧」は、大学において“学ぶ”ことに関する情報をまとめたものです。卒業するための要件を始め、履修方法や履修計画を立てるためのポイント、試験に関すること等を掲載しています。

例えば、「学科の特色を知りたい」「用語を知りたい」「卒業するためにはどう履修したらよいのかを知りたい」「教員免許を取りたい」等、学生の知りたい情報を掲載しています。この「授業要覧」と、授業の内容を示す「シラバス」を活用し、卒業要件や資格取得要件を満たす履修計画を立て、卒業を目指してください。

### 構成及び使い方

授業要覧は、学部・学科を基本に構成されています。この授業要覧の内容に変更が生じた場合は、カレッジオフィスよりお知らせします。

最初に、大学の建学の精神・本学が養成する人材像及び3つのポリシー、アセスメント・ポリシーを説明していますので、よく理解し、授業に臨んでください。

#### I. 総説

授業の履修方法、成績評価方法やそれに関連して理解しておく必要のある用語や制度、卒業要件等を説明しています。学生生活を有意義に過ごすためには、この「総説」の内容を十分理解しておく必要があります。

#### II. 学部の教育研究上の目的及び養成する人材像

本学では、学則第1条の2において、人材の養成に関する目的を定めています。その目的を達成するために、学部で定めた教育研究上の目的及び養成する人材像を説明しています。

#### III. 現代文明論・現代教養科目・英語科目の教育目標と講義構成

本学における“学び”の基礎である全学共通の科目について、それぞれの科目区分（区分Ⅰ～Ⅲ）の教育目標と講義構成を説明しています。

#### IV. 学科の教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、カリキュラム表

学科での専門的な学修を進めるにあたり、学科で定めているこれらの内容をよく理解してください。

#### V. 自己学修科目カリキュラム表

区分V自己学修科目のうち、全学を対象に開講している「全学共通科目」のカリキュラム表を掲載しています。

#### VI. 資格取得等

教員免許や司書資格を取得する等、「教職課程、司書・司書教諭、学芸員等に関する資格」を中心として、その資格の内容、履修方法、資格申請等に至るまで、詳細に説明しています。その他、社会教育主事等も掲載しています。

なお、これらの資格は法令に基づいて取得する必要があるため、熟読しても不明な場合は、個人的な判断を避け、湘南校舎はティーチングクオリフィケーションセンター、湘南校舎以外は各カレッジオフィスに必ず確認してください。

#### VII. 諸制度

「副専攻」「キャンパス間留学生制度」等、本学の特徴ある教育プログラム等について説明しています。是非、これらの諸制度を活用し、有意義な学生生活を送ってください。

# 東海大学の建学の精神・本学が養成する人材像 及び3つのポリシー、アセスメント・ポリシー

## 1 建学の精神

創立者松前重義は、青年時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、内村鑑三の研究会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになりました。特にデンマークの教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意して「望星学塾」を開設しました。ここに東海大学の学園の原点があります。

創立者松前はこの「望星学塾」に次の四つの言葉を掲げました。

若き日に汝の思想を培え  
若き日に汝の体躯を養え  
若き日に汝の智能を磨け  
若き日に汝の希望を星につなげ

ここでは、身体を鍛え、知能を磨くとともに、人間、社会、自然、歴史、世界等に対する幅広い視野をもって、一人ひとりが人生の基盤となる思想を培い、人生の意義について共に考えつつ希望の星に向かって生きていこうと語りかけています。

本学園は、このような創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てることにより、「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を高く掲げ、歩み続けていきます。

## 2 松前重義と建学の精神

私学は創立者の教育に対する情熱と理想を基に創設されたもので、その心が「建学の精神」であり、いかなる時代においても変わることなく継承されるべきものです。本学園の建学の精神は、創立者松前重義（1901～1991）の思想と人生に深い関わりを持っています。

### 生い立ち

松前重義は熊本県上益城郡大島村（現在の嘉島町）に生まれ、小学校5年生のとき熊本市に移り住みます。生まれ育った農村と違って、市内では夕方になると一斉に電灯がともり、少年時代の松前はその美しさに驚き、「なぜつくのだろう」とその不思議さに素朴な疑問を抱きました。後に松前は、この少年時代の体験が「電気」の分野を学ぶきっかけになったと語っています。

そして県立熊本中学校（現・熊本高校）から熊本高等工業学校（現・熊本大学工学部）、東北帝国大学（現・東北大学）工学部へと進みますが、松前の青春時代は、中学時代に兄の影響から始めた柔道などのスポーツに熱中する日々でした。その一方で、大学では電気工学を学び、卒業研究は電磁気学の権威である抜山平一教授のもとで、後のトランジスタやICへと発展する真空管の特性などについて研究しました。

### 日本の科学技術発展のために～ 技術者運動を展開

大学を卒業した松前は、国の事業に携わりたいと希望して通信省（後に郵政省と現在のNTTに分かれる）に技官として入省しました。しかし、役所の生活は無味乾燥で事なかれ主義が蔓延していました。当時の日本の社会は指導者として法学部出身者を最優先する風潮が根強く、一般的に文科系と理科系の人との間には理解のうえで深い溝がありました。松前はこうした社会の現実を憂え、国家の正常な発展のためには文科系と理科系の相互理解が不可欠であるとの思いを強くします。同時に、世界や社会の動向に無関心になりがちな技術者の意識改革と地位の向上を訴える技術者運動を展開しました。

また、松前は当時の日本の科学技術が外国の技術に多くを依存していることに対し、国産技術開発の重要性を説き、自らもその研究に努めました。

### 情報化時代への曙～ 無装荷ケーブル通信方式の発明

20世紀はじめの通信技術の課題は、より遠くへ、より速く、より大量に情報を送ることにありました。電話通信の分野では、アメリカ・コロンビア大学のピューピン教授が開発した装荷ケーブル方式が世界の主流でした。これは、電流の減衰を防ぐため電話ケーブルの途中に装荷コイルを挿入するものでしたが、この方式は音声は不明瞭、一回線で一通話しかできず不経済であるなど、様々な欠点がありました。

そこで松前は、篠原登らとの研究成果をもとに、既成概念にとらわれることなく装荷コイルを使わない新しい通信方式を開発します。これは、長距離ケーブルの途中に増幅器を設置して電流を増幅させ、高周波の電流に音声を乗せて送る搬送方

式で、装荷ケーブル方式の欠点を一気に解決し、しかも一回線で複数の通話ができる多重通信を可能とするものでした。これが世界的にも有名な無装荷ケーブル通信方式です。

やがて国と民間企業が協力する国産プロジェクト研究によって実用化が進み、1939年日本と中国、約2,700キロの間が無装荷ケーブル通信方式で結ばれました。その後、この通信方式は世界の主流となり、今日の情報化時代を開ききっかけとなりました。

## ■教育への志を立てる～ 内村鑑三との出会いとデンマーク体験

通信省時代に松前重義は、新しい通信技術の開発に従事するなかで「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、内村鑑三（1861～1930）が主宰する聖書研究会や講演会などに通いました。内村は無教会主義を唱えたキリスト教思想家で、その『デンマルク國の話』、『後世への最大遺物』などの著書は当時の青年たちに大きな影響を与えました。

そこにおいて松前は、内村の思想と人類の救済を説く情熱的な訴えに深く感銘しました。また、そのなかで松前はプロシアとの戦争に敗れ、疲弊した国を教育によって再興させた近代デンマークの歩みを知ります。とくに、その精神的支柱となった N. F. S. グルントヴィ（1783～1872）が提唱する国民高等学校（folk high school、国民大学とも訳す）の姿を知り、そこに教育の理想の姿を見出します。

「生きた言葉による学校」「民衆のための大学」といわれた国民高等学校の教育は、教師と学生が生活を共にし、自由に社会を論じ、哲学を語り合う活気に満ちた学校でした。1934年に松前は、その教育事情を視察するため、デンマークを訪れています。そこで得たものは、後に松前が述べているように、学校とは「歴史観、人生観、使命感を把握せしめ、以て個々の完成に努力することにある」べきだということでした。そして、この教育こそが豊かな酪農王国デンマークを築く原動力になっていることを目の当たりにしたのです。この体験を通して松前は「国づくりの基本は教育にあり、教育を基盤として平和国家日本を築こう」と決意しました。

## ■東海大学の原点～ 望星学塾の開設

松前がかねてから妻信子や松前の理想に共鳴する友人の篠原登、大久保真太郎など数人の同志とともに教育研究会という小さな集まりをもち、シュバイツァーやペスタロッツなどの人生・思想を研究していました。そして松前は、無装荷ケーブル通信方式の発明により、電気学会から「浅野博士奨学祝金」を受けると、これを基金の一部として念願の教育事業を開始するため、1936年に東京・武蔵野に望星学塾を開設したのです。そこでは、デンマークの国民高等学校の教育を範としながら、対話を重視し、ものの見方・考え方を養い、身体を鍛え、人生に情熱と生き甲斐を与える教育をめざすもので、聖書の研究を中心として日本や世界の将来を論じ合う、規模は小さくとも理想は大きく、活気ある学習の場でした。この塾が今日の学校法人東海大学の母体となったのです。

## ■平和への信念を貫く～ 二等兵として激戦地へ

やがて第二次世界大戦が始まると、松前はわが国の生産力などの様々な科学的データをもとに戦争の早期終結を唱えたため、通信院工務局長（当時のわが国における通信部門の最高責任者）という国の要職にありながら、42歳で兵隊の位で一番低い二等兵として南方の激戦地に送られました。そのため望星学塾の活動も停止せざるを得なくなりました。

しかし九死に一生を得て帰国すると、やがて技術院参議官となり、原爆投下の翌日には広島の実地調査に入って、原爆の惨状を目の当たりにしました。そして終戦後すぐ通信院総裁に就任し、廃墟となった日本の通信事業の復興に努めます。一方、1943年に開設した航空科学専門学校を前身とし、文科系と理科系の相互理解と調和を基本に掲げて東海大学（1946年旧制東海大学、1950年新制東海大学となる）を開設しました。

## ■世界の中の日本を思う～ 科学技術立国をめざして

松前は、日本の科学技術政策の貧困を憂え、技術者の地位向上や国産技術の開発を訴え続けてきました。その成果の一つが戦前の無装荷ケーブル通信方式の発明であり、また、戦後の科学技術庁の設立です。

松前は、天然資源に恵まれない日本が世界に貢献していくには、独創的な技術開発による科学技術立国の道を歩むほかはない、と考えていました。しかもその科学技術は人類の幸福のためにあるべきものだ、との思いは広島の実地調査などの体験からますます強くなっていました。もはや科学技術は、扱い方を間違えれば人類を破滅に導くほどの力を持つに至ったのです。

そして、国の行方も人類の将来も、これに携わる人間の思想に左右されることを身をもって体験した松前は、かねてからめざしていた「思想を培う教育、文科系と理科系の相互理解をめざした教育」を東海大学のなかで実践していきます。

## ■新しい出発～ 公職追放など様々な苦難のなかで

戦後の松前の歩む道は多難でした。当時日本を占領していた連合国総司令部（GHQ）の命令で、戦時中に国の要職にあ



ったという理由で1946年には公職追放（重要な公職から除外する処置）になります。このため、発足したばかりの大学の運営に携わることもできなくなりました。ここに至り東海大学は、戦後の価値観や社会的・経済的・思想的混乱のなかで松前という柱を失い、一時は廃校の危機に瀕するほどになりました。しかし、松前の理想に共鳴する多くの人々によって大学は支えられ、再建への努力が続けられます。そして1950年追放から解除されるや、松前は直ちに学園に復帰すると、獅子奮迅の活躍で理想の学園づくりに邁進し、今日の総合学園を築き上げてきたのでした。

希望を星につなぐ

松前が教育に託したものは、人類の幸福と平和の実現に向かって、明日の歴史づくりを担う人材の育成にありました。そして松前はすべての若人に向かって語りかけます「若き日に汝の希望を星につなげ」と。この希望とは、高い理想や大志を表しています。そしてこの言葉は、内村鑑三の心の師であるクラーク博士の有名な「少年よ大志を抱け」と同じ精神の表現であり、若人への時代を超えたメッセージです。

現代社会の変化は激しく、私たち人類の未来にも様々な難問が横たわっています。だからこそ松前が示した高い理想をもって未来をみつめていくことが、いま私たちに最も求められているのです。

3 本学が養成する人材像及び3つのポリシー、アセスメント・ポリシー

教育研究上の目的及び養成する人材像

『若き日に汝の思想を培え、若き日に汝の体軀を養え、若き日に汝の智能を磨け、若き日に汝の希望を星につなげ』という創立者の精神に基づき、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を養成します。さらに、グローバル化し、価値観が多様な現代社会にあっては「常に未来を見据え自らが取り組むべき課題を探究する力（自ら考える力）」、「多様な人々の力を結集する力（集い力）」、「困難かつ大きな課題に勇気をもって挑戦する力（挑み力）」、「失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していく力（成し遂げ力）」を身につけた自主的・創造的人材の輩出をもって、調和のとれた文明社会を建設することを本学の使命・目的とします。

ディプロマ・ポリシー【学位授与の方針】

本学では、専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解し、文理融合の幅広い教養を身につけ、学則に定める修了要件を満たすとともに、自らの考えをもち、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく自主性や創造性を身につけたと認められるものに学位を授与します。

上記の学位授与の方針を、本学の学修を通して身につけるべき社会的実践力「4つの力（12構成要素）」として下表のとおり設定しています。

社会的実践力「4つの力（12構成要素）」

4つの力	12構成要素	定義	キーワード
『自ら考える力』  対象を見据え、その本質を掘り下げ、可能性を広げる力	学習力	対象を適切に捉え、本質を理解し、知識を自らのものとする。	本質理解 知識習得
	思考力	対象とその存在基盤にじっくり向き合い、論理的かつ創造的に推論する。	論理的思考 創造的考察
	探求力	対象の現状に問を見いだし、それを解くための方法や手段となる情報の在在を求める。	本質追求 情報収集

『集い力』  多様な人々の中で生き、その集団の形成・維持に寄与する力	関係構築力	既存の文化・関係性を理解し、適応・維持する。	多様性理解
	コミュニケーション力	他者に働きかけ、意味解釈のやり取りを行い、合意や調停に近づける。	受容・共感 自己表現
	アイデンティティ獲得	他者の価値観を理解し、集団の中で自己や他者の役割を理解し、信頼を構築する。	役割理解 連携行動
『挑み力』  困難な問題に主体的に向き合い、解決・達成に向け踏み出す力	問題発見力	困難と思える問題・課題を自分のこととして捉え、向き合う。	問題発見 問題提起
	構想力	問題解決に向け目標および行動計画を立て、準備する。	企画立案 行動準備
	行動力	ゴールイメージを明確にし、目標に向かって踏み出す。	決断 主体的行動
『成し遂げ力』  目標達成の途中で生じる失敗や挫折を乗り越えて、目標に近づく力	セルフマネジメント	困難な状況においても、自己や他者の心身の状態の安定に努める。	自己管理 感情制御 ストレスコーピング
	継続力	目標の実現に向けて、常に現状を分析し、取り組み続けるための条件・環境を整える。	工程管理 現状分析
	改善・修正力	現状の変化に対応して、計画の修正や改善を試みる。	修正・調整 自信創出

## カリキュラム・ポリシー【教育課程編成・実施の方針】

本学が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

### 『教育課程・学修成果』

#### ■ 区分Ⅰ ■ 「現代文明論」（全学共通必修）（2単位）

文系・理系の領域を融合した幅広い知識と国際性豊かな視野を育成し、教養ある現代市民として調和のとれた文明社会の建設に大きな役割を果たせる人材育成の基盤となる、本学教育課程の核となる科目です。

#### ■ 区分Ⅱ ■ 「現代教養科目」（全学共通必修）（12単位）

現代教養科目は、基礎教養科目（「入門ゼミナールA・B」）、発展教養科目（「シティズンシップ（現代社会と市民）」「シティズンシップ（社会参画の意義）」「地域理解」「国際理解」「現代教養講義」）、健康スポーツ科目（「健康・フィットネス理論実習」「生涯スポーツ理論実習」）で構成されています。基礎教養科目は大学での主体的な学び方や学科の専門への導入を目的とし、発展教養科目は市民としての教養につながる授業を展開します。健康スポーツ科目は健全な心身の保持増進を目的とします。

#### ■ 区分Ⅲ ■ 「英語科目」（全学共通必修）（4単位）

英語によるコミュニケーション力を培うため、英語コミュニケーション科目（「英語リスニング&スピーキング」「英語リーディング&ライティング」）を設定し、グローバル社会に対応し、国際的視野を獲得するための基礎となる英語力を育成します。

#### ■ 区分Ⅳ ■ 「主専攻科目（専門科目）」（学部学科設定）（76単位）

学部学科の専門科目です。大学で専門分野を修めるためには、順序立てた学修を行い、しっかりとした土台の上に高度な専門知識を積み上げていくことが大切です。そのため、高校と大学との橋渡しを行う初年次教育科目から卒業論文・卒業研究までの全ての科目にグレードナンバーを設定するとともに、カリキュラム・マップ及び履修モデルを示すことにより、授業内容のレベルと自分の学修状況とを照らしながら段階的・系統的に学べるようにしています。

## ■ 区分Ⅴ ■ 「自己学修科目」(全学共通・学部学科設定)(30単位)

多様な知識と複眼的な思考能力を修得することを目的として、全学共通科目、留学による単位認定科目、海外研修航海が設定されています。また、グローバル人材の育成を目的とした「英語グローバル・コミュニケーション副専攻」や6か国語(中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語、ロシア語、スペイン語)を体系的に学ぶことができる副専攻、高度デジタル社会に対応するスキルを培う「社会 ICT 副専攻」など各種の副専攻も設定されています。

### 『学修成果の評価方法』

本学のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、コンピテンシーとリテラシーに関する客観的評価等により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、本学のアセスメント・ポリシーに基づき、FD 活動等をととして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

## ■ アドミッション・ポリシー【入学者受け入れの方針】

本学の「建学の精神」と教育理念に共鳴する以下の者を国内外から広く受け入れます。

1. 大学で学ぶに相応しい学力を有し、明日の歴史を担う強い使命感のある者
2. 豊かな心と健やかな体の育成に努めると共に、自分の個性を伸ばす意志のある者
3. 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、社会に貢献する志のある者

さらに、大別された入学試験種別ごとのアドミッション・ポリシーは以下のとおりです。

### ■ 総合型選抜 ■

総合型選抜の入学試験は、「建学の精神」「アドミッション・ポリシー」を十分に理解していただき、学ぶ意欲や姿勢、入学後の対応力を評価する入学試験です。

この入学試験では、受験生の皆さんが今もっている知識や学力を学科試験だけで評価するのではなく、むしろ、皆さんが大学で教育を受けるのにふさわしい能力を備えているか、また、そのための準備ができているかについて、入学後の皆さんへの期待度とともに総合的に判断したいと考えています。そのために、各学科が面接を行い、皆さんの思考力、柔軟性、表現力、発信力などの可能性と基礎学力を含めた志望学科への適性を評価して入学者を選抜します。

### ■ 学校推薦型選抜 ■

学校推薦型選抜の入学試験は、「建学の精神」「アドミッション・ポリシー」を十分に理解していただき、学ぶ意欲や姿勢、入学後の対応力を評価する入学試験です。

この入学試験では、学校長等よりの推薦をうけて、本学を第一志望とし、志望する学部・学科・専攻・課程に対する理解と興味をもち、強い目的意識を有すると認められ、志望する学部・学科・専攻・課程に関連する学力に優れているかについて、入学後の皆さんへの期待度とともに総合的に判断して入学者を選抜します。

### ■ 学力選抜 ■

一般選抜、文系・理系学部統一選抜、大学入学共通テスト利用選抜など学力選抜の入学試験は、「建学の精神」「アドミッション・ポリシー」を十分に理解していただき、基礎学力を評価する入学試験です。

この入学試験では、志望する学部・学科・専攻・課程に関連する学力に優れているかについて、文理融合教育を行う建学の精神を踏まえて、英語・国語・数学・理科・社会等の多様な基礎学力を身につけているかを判断して、入学者を選抜します。



## ■アセスメント・ポリシー【3つのポリシーに関する評価の方針】

本学では、ディプロマ、カリキュラム、アドミSSIONの3つのポリシーに基づき、大学全体レベル、学部・学科レベル、授業科目レベルにおいて、人材・能力育成目標及び学修成果等に関する評価を行います。

評価結果に基づき、教育の質向上に向けた各レベルにおける PDCA サイクルにつなげていきます。

各ポリシー及び各レベルにおける具体的な評価の方法は、以下のとおりです。各評価方法を単独あるいは組み合わせることにより、適切な評価を行います。

	アドミSSION・ポリシー に関する検証評価	カリキュラム・ポリシー に関する成果評価	ディプロマ・ポリシー に関する達成評価
大学全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学力系入試での学力考査及び面接・適正試験</li> <li>●推薦、AO 系入試での面接、口述試験、調書、小論文、課題発表等</li> <li>●入学直後のジェネラルスキルテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外部英語力テスト</li> <li>● GPA</li> <li>●修得単位数</li> <li>●学生支援システム</li> <li>●授業についてのアンケート</li> <li>●退学・除籍率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●卒業前のジェネラルスキルテスト</li> <li>●学位授与数</li> <li>●卒業時アンケート</li> <li>●キャンパスライフアンケート</li> <li>●就職進路先調査</li> <li>●就職率</li> </ul>
学部・学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学力系入試での学力考査及び面接・適正試験</li> <li>●推薦、AO 系入試での面接、口述試験、調書、小論文、課題発表等</li> <li>●入学前事前学習課題</li> <li>●入学前 e-learning</li> <li>●入学前事前面接指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●履修指導面接</li> <li>●外部英語力テスト</li> <li>● GPA</li> <li>●修得単位数</li> <li>●学生支援システム</li> <li>●授業支援システム</li> <li>●授業についてのアンケート</li> <li>●退学・除籍率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●卒業研究等ゼミナール指導成果</li> <li>●卒業研究等成果</li> <li>●卒業率</li> <li>●卒業時アンケート</li> <li>●キャンパスライフアンケート</li> <li>●就職進路先調査</li> <li>●就職率</li> </ul>
授業科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外部英語力テスト（入学前プレースメントテスト）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●シラバス記載の成績評価基準</li> <li>●シラバス記載の到達目標</li> <li>●授業についてのアンケート</li> </ul>	



# I 章

## 総 説

この総説は、「東海大学学則」及び「東海大学学修に関する規則」等に定める条項やその他の補足事項について、より詳細に説明しています。具体的には、授業科目の履修方法に関すること、試験や成績に関すること、卒業単位等の学修に関する重要な事柄について掲載していますので、入学時に先ず熟読、理解し、在学中に何か疑問が生じた際は、必ずこの総説をひもとく習慣をつけてください。

なお、「東海大学学則」及び「東海大学学修に関する規則」等は、Tokai Information Portal Site（以下、TIPS と表記）に掲載しています。

## 1 学位（卒業単位）

授業科目は、「東海大学学則第21条」に定める基準により単位数が定められ、その「単位」は授業科目を履修し、所定の試験に合格すること等によって修得することができます。これらの単位を卒業に必要な単位数として学科・専攻に示しているのが「卒業単位数一覧」です。8セメスター（4年間）以上在学し、所属する学科・専攻に定める「卒業単位数一覧」の「修得すべき単位数」を修得した者に卒業が認められ、学士の学位が授与されます。

修得すべき単位数とは、卒業するために必要な「最低単位数」です。修得単位数が124単位以上あっても、所定の要件を満たさなければ卒業することはできませんので、十分注意してください。

## 2 セメスター制度

### ■学期（セメスター）

本学のセメスター制度は、4～9月を「春学期」、10～3月を「秋学期」といい、原則として授業が1学期（6か月間）で完結します。セメスター制度では、1学期（6か月間）を「1セメスター」といい、通常、入学時は第1セメスターとなり、6か月在学する毎に第2セメスター、第3セメスター、・・・とセメスターが進みます。卒業するためには8セメスター（4年間）以上在学し、卒業に必要な単位数を修得しなければなりません。この卒業要件を満たすためのセメスターを「履修セメスター」と称します。（休学期間は履修セメスターには加算されません。）

### ■セメスター制度の特徴

- ① 1セメスターという半年間で集中的に、かつ効果的に学習を進めます。1年を通して授業を受ける学年制と比べ、授業の進行が速くなるため、授業を休んだり、学修を怠ったりすると、授業についていけないことになります。セメスター制度における授業は、自学自習を前提に進みますので、十分注意してください。
- ② 6か月間で授業が終了し、成績評価を受けることができるため、履修の機会が増え、リカバリー（単位数の充足や不合格科目の再履修）を早期にし、機動的に学修計画を進めることができます。
- ③ 学年制（1年間で4回）ではなく、4年間で8回のセメスターに分割することにより、履修の自由度が広がり、自己設計を容易にすることができます。
- ④ 卒業までの履修計画は、学生自身で立てます。その指標として、後述する「グレードナンバー」や「先修条件」を参考にし、系統のかつ段階的に履修できるよう、学問体系や履修の順序が分かり易く示されています。
- ⑤ 履修しないセメスターを設定することができます。その期間を集中的に、留学、ボランティア活動、各種資格取得、課外活動等に使うことができ、多様な体験や広い領域の知識を得ることができます。

なお、この場合は「履修無登録届」を提出する必要があります。

## 3 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリー

本学では、大学全体レベルと学位プログラム（学科等）レベルで、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（DP）」）を定めています。大学全体レベルのDPでは、本学の学修を通して身につけるべき社会的実践力「4つの力（12構成要素）」を示しています。学位プログラム（学科等）レベルのDPでは、「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」の3つの観点に分けて学位授与の方針を具体的に示しています。

これら2つのDPに基づいた学修成果を得るために、学科・専攻で定めた教育体系を「カリキュラム」といい、カリキュラムは各授業科目によって構成されています。したがって、カリキュラムの構成要素である各授業科目は、DPに基づくいずれかの学修成果を得るために設定されています。この大学全体レベル及び学位プログラム（学科・専攻）レベルにおけるDPと、カリキュラム体系との関係を示したものが「カリキュラム・ポリシー（CP）」です。

また、DPと各授業科目のカリキュラム上の位置付け、目的や意義を一覧的に示したものが「カリキュラムマップ」、設置する科目の役割や科目間の連携を体系的に示したものが「カリキュラムツリー」となります。

これらをよく理解したうえで、学科ガイダンスの指導内容に従い、自身の学修計画を立ててください。

## 4 卒業単位数一覧及びカリキュラム表

学科・専攻毎の卒業までに修得すべき単位数を定めたものを「卒業単位数一覧」といいます。「卒業単位数一覧」に基づき、科目区分毎に定められた単位数を修得してください。また、学科・専攻の各授業科目を掲載したものを「カリキュラム表」といいます。入学時に発表され、原則、卒業までは入学時に提示されたカリキュラム表に基づき履修を行います。カリキュラム表には、区分・科目区分・構成授業科目、グレードナンバー、授業科目名、必選別、単位数、開講期間、先修条件が表記されていますので、履修要件を考慮し、8つのセメスターで卒業要件を満たすことができるよう、履修計画を立ててください。

カリキュラム表の各項目についての説明を以下に記載します。

### 区分（科目区分）

区分・科目区分は、下表の構成授業科目に分類されます。

区分	科目区分	構成授業科目
I	現代文明論	現代文明論
II	現代教養科目	基礎教養科目、発展教養科目、健康スポーツ科目
III	英語科目	英語コミュニケーション科目
IV	主専攻科目	学部共通科目、学科開講科目
V	自己学修科目	全学共通科目及び他学部・他学科科目（副専攻科目を含む）、区分IVの余剰科目
VI	卒業単位に含まれない科目	教職に関する科目（教員免許取得のために指定された科目） 司書・司書教諭に関する科目（司書・司書教諭の資格取得のために指定された科目） 学芸員に関する科目（学芸員の資格取得のために指定された科目） 社会教育に関する科目（社会教育主事の資格取得のために指定された科目） その他所定の法令に基づき設置された科目

### グレードナンバー

授業科目は、学問の体系に沿った位置づけがなされています。科目の難易度や先修条件の関連性等を表すため、全ての科目に科目の授業内容のレベルを表すグレードナンバーが付けられ、下表のように意味づけられています。学科等のカリキュラムツリーでは、学問の体系を図示しながら、授業科目のグレードナンバーも示していますので、参考にしてください。

なお、カリキュラム表では、グレードナンバーの先頭に区分番号を加えて表記しています。

百 の 位	十 の 位	一 の 位
100番台：基礎標準レベル 200番台：基礎発展レベル 300番台：専門標準レベル 400番台：専門発展レベル	科目間の関連を表します。	0：先修条件に関係ない科目 1～9：先修条件科目または被先修条件科目

## 授業科目名

授業科目名が類似する授業科目がありますので、履修する際は、授業科目名及びその科目の担当教員名を「授業時間割表」にて必ず確認してください。

また、他学部・他学科にある同一名称の授業科目でも、別表「同一名称科目一覧表」に掲載されている授業科目以外は、授業内容や性格が異なるため、別科目として取り扱います。その科目を誤って履修し修得すると、卒業要件に算入されない場合や、算入される区分が異なる場合がありますので、特に注意してください。

なお、入学後、カリキュラム変更等によって授業科目が変更される場合があります。この場合はカリキュラム表の改訂版や振替科目表等の資料が配付されますので、必ず確認してください。

## 必選別

授業科目は、下表のとおり分類されます。

記号	分 類	内 容
卒業単位に含まれる科目		
○	必修科目	卒業するまでに、必ず修得しなければならない科目
◇	選択必修科目	指定された単位数を満たすように、適宜科目を選択し、修得する科目
×	選択科目	定められた科目区分から、指定された単位数を満たすように、適宜科目を選択し、修得する科目
☆	他学部・他学科科目	他学部・他学科科目、他コース科目等、在籍学科・年度のカリキュラムにはない科目を修得し、卒業要件に含める科目
卒業単位に含まれない科目		
※	随意科目	在籍学科・年度のカリキュラムに「ある」卒業要件に含まれない科目
	自由履修科目	在籍学科・年度のカリキュラムに「ない」卒業要件に含まれない科目

## 単位数

授業は、1時限（1コマ）につき100分間行われます。「東海大学学則第21条」に定められているとおり、単位数は次の基準により計算されています。

- ①講義・演習科目は、1週1コマの授業（試験を含む）を15週行うことを以て2単位とする。ただし、医学部看護学科の演習科目は、30時間の授業を以て1単位とする。
- ②外国語科目は、1週2コマの授業（試験を含む）を15週行うことを以て2単位とする。
- ③実験・実習・実技科目は、1週2コマの授業（試験を含む）を15週行うことを以て2単位とする。ただし、医学部看護学科専門教育科目の実験、実習、実技科目は、45時間の授業を以て1単位とする。
- ④個人指導による実技科目は、内容に応じて定める時間を以て1単位とする。
- ⑤卒業論文・卒業研究・卒業制作等の科目は、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。



## 開講期間

各授業科目は、開講される期間（セッションを含む）が指定されています。下表の例のとおり、カリキュラム表には、開講される学期及び1週間に開講される授業コマ数（セッションの場合は総コマ数）が掲載されています。セッションとは、春学期は「サマーセッション」、秋学期は「ウィンターセッション」といい、それぞれ夏期・冬期に集中授業で開講します。

なお、数字の左側に「同」の表記があるものは、同一曜日に2コマ以上時限続きで行われる授業を意味します。

また、セッション開講科目の開講日・授業場所等については、カレッジオフィスより TIPS にてお知らせしますので、履修希望者は必ず確認してください。

[例]	開講期間 (1週あたりのコマ数)				先修 条件	備考
	春学期	サ マ ー セ ッ シ ョ ン	秋学期	ウ ィ ン タ ー セ ッ シ ョ ン		
	① 1		2			[例] の意味 ①春学期に週1コマ開講 ②春学期の別の曜日・時限に週2コマ開講 ③春学期及び秋学期の別の曜日・時限に週2コマ開講 ④秋学期の同曜日に時限続きで2コマ開講 ⑤サマーセッションで集中的に14コマ開講 ⑥春学期またはサマーセッションで開講 (「別開講」＝どちらかを選択可能) ⑦春学期とサマーセッションで開講 (両方とも履修して単位が <sup>3</sup> 付与される)
	② 2					
	③ 2					
	④ 同2					
	⑤ 14					
	⑥ 1	14			「別開講」	
⑦ 1	14					

## 先修条件

各学科等のカリキュラムを、体系的、段階的に進めるために、授業科目によっては履修に際して、必要な条件がつく科目があります。この必要な条件を「先修条件」といい、下表のとおり3種類の先修条件があります。これらの先修条件がついている科目は、原則、その条件を満たさなければ履修することはできません。

なお、先修条件がある科目を「先修条件科目」、先修条件の対象になっている科目を「被先修条件科目」といいます。ただし、他学部・他学科科目（副専攻科目を含む）を履修する場合は、先修条件に関係なく履修することができます。

種 類	内 容
科目先修条件	その科目を履修（登録）するには、指定された科目（1科目または複数科目）の単位を修得済みであることが必要です。ただし、過去に履修（登録）し、不合格となった科目は、同時履修が認められます。（ただし、教職等資格に関する科目の場合、先修条件科目は同時履修できません。）
セメスター先修条件	その科目を履修（登録）するには、指定されたセメスター以降でなければ履修することができません。
単位数先修条件	その科目を履修（登録）するには、指定された単位数を修得済みであることが必要です。

先修条件は、単独もしくは上表の3種類による組み合わせでつけられる場合があります。組み合わせで付けられる場合、and 条件と or 条件があり、カリキュラム表上では、それぞれ「&」「or」で表しています。全ての条件を満たしていなければ

ばならない場合を「&」、どちらかの条件を満たしていればよい場合を「or」となります。（ ）で条件がつけられているものについては、and 条件と or 条件が組み合わされている授業科目です。

## 他学科履修

カリキュラム表の「他学科生受講」の欄に「×」印がついている授業科目は、原則として他学部・他学科の学生は履修することができません。「×」印がついていない授業科目は、他学部・他学科の学生も履修することはできますが、履修が制限される場合もあります。

## 備考

前述以外に、履修上注意が必要な事項が掲載されていますので、必ず確認してください。

# 5 シラバス

シラバスとは、学生が授業科目の履修を決める際の参考資料や準備学習を進めるために用いられる各授業科目の詳細な授業計画を示したものです。各授業科目における科目の目的・学修内容、学修成果の目標、成績評価基準・方法、担当教員への連絡方法及び授業スケジュール（予習・復習含む）が記載されていますので、履修計画時だけでなく授業期間中も常に確認し、内容を把握してください。

# 6 履修

## 履修計画

履修は、カリキュラム表に従い、卒業に必要な単位数及び各科目区分の修得すべき単位数（卒業単位数一覧を参照）を充足するように計画を立ててください。その際、カリキュラムツリー等に掲載されている学問系統や先修条件、科目のグレードナンバー等を参考に、どの科目を、どのセメスターに履修するのか、入学時にまず4年間の計画を立て、その後、修得状況等に応じて履修計画の修正や変更を行ってください。

なお、履修を決定（登録）した後、学期途中で授業に出席することを断念し、その授業科目が不合格評価となった場合は、後述する GPA に影響します。よって、履修を決定した科目は、授業に出席し、単位修得を目指す必要があります。そのためにも、自身の履修計画はしっかり立て、履修する科目に対して十分な学習時間が確保できるように配慮し、学期中の健康管理にも留意してください。履修計画の立案と授業科目の決定には、シラバスの内容を熟読したうえで、指導教員やカレッジオフィス職員からの指導・助言を積極的に受け、授業内容の情報を収集してください。

## 履修相談

各学期の始めに「履修登録期間」（春学期：4月上旬～中旬、秋学期：9月中旬～下旬）が設けられます。履修登録にあたり、指導教員に履修について相談し、指導・助言を受けてください。

履修登録や授業、成績に関する疑問や不安な点は、友達同士の噂や口コミ等で広まった情報を基にせず、指導教員やカレッジオフィス職員に相談し、必ず正確な情報を得たうえで判断するように心がけてください。

## 授業時間割表

カリキュラム表を学期毎に更に具体化したものが「授業時間割表」です。所属する学部・学科・専攻・クラスを指定して配付されますので、原則、配付された授業時間割表を基に履修してください。授業時間割表には、科目別に時間割番号、開講曜日・時限、担当教員名、授業教室、授業形態が示されています。自ら履修計画を立てた科目が開講されているか確認し、曜日・時限が重複しないように履修登録を行ってください。原則、授業時間割表はガイダンス時に提示されます。

なお、授業時間割表に掲載されている曜日、時限、担当教員、教室等は変更される場合があります。変更された内容は、TIPS のキャビネット等にて公開されますので、必ず確認してください。

## 授業形態

本学では、下表に示す4つの授業形態で授業を行います（授業時間割表に掲載されます）。

授業形態	授業方法
面接	全ての回の授業を面接授業のみで行う科目
ブレンド型：面接	面接授業と遠隔授業を組み合わせる科目で、すべての授業時間数のうち、少なくとも半分の時間数が「面接授業」で実施される科目
ブレンド型：遠隔	面接授業と遠隔授業を組み合わせる科目で、すべての授業時間数の半分以上を「遠隔授業」で実施される科目
遠隔	全ての回の授業を遠隔授業のみで行う科目

2022年度より各学科等のカリキュラムにおいて、①学部ならではの特色ある科目を学ぶ機会を全キャンパスの学生に提供する②ICTを活かした授業方法によって、これまでよりも多彩でダイナミックな授業を展開する③日本各地や世界各国からのゲスト講師を招くなど、他大学の教員・学生との交流を積極的に取り入れる④区分Ⅴ副専攻科目を全キャンパスから履修可能とすることなど目的として、遠隔方式を積極的に活用した授業を展開しています。シラバスに示されている各回の授業形態や授業の方法、定期試験の有無等、必ず確認するようにしてください。

### 授業形態

## 他学部・他学科履修

所属する学部・学科等以外の科目を履修することを「他学部・他学科履修」といいます。

卒業単位数一覧の「区分Ⅴ：他学部・他学科科目（副専攻科目も含む）」は、所属する学科等のカリキュラム表にない科目を他学部・他学科のカリキュラムから修得した場合に算入される区分です。

### 他学部・他学科科目を履修し、単位修得した場合の認定方法

①履修科目の必選別が「○（必修科目）」、「◇（選択必修科目）」、「×（選択科目）」の場合は、「☆（他学部・他学科科目）」で認定されます。

②履修科目の必選別が「※（随意科目）」の場合は、「※（自由履修科目）」で認定されます。

### 他学部・他学科科目履修の取り扱い

カリキュラム表及び授業時間割表の「他学科生受講」欄に「×」印がある科目については、原則、他学部・他学科の学生は履修することができません。特別な許可を得て履修し、単位を修得した場合は、「☆（他学部・他学科科目）」として卒業単位に含めることになります。

## 他校舎履修

所属校舎以外で開講している授業科目を履修する場合は、履修制限のルール等について、授業時間割表やシラバスで必ず確認してください。また、授業形態が「遠隔授業」以外の場合は、前後の授業との移動時間を考慮し、履修してください。

## 副専攻履修

「副専攻」として指定する授業科目群の中から16単位を修得した場合（日本語教育法副専攻は26単位）は、「副専攻」として修了認定されます。認定した副専攻の情報は、成績証明書に掲載します。就職活動や卒業後の社会においても有益ですので、多くの学生が認定を目指すことを期待します。

副専攻履修の詳しい説明は、「諸制度」に掲載されていますので、必ず確認してください。

## 履修制限

授業科目には、教室等の授業定員や教育的効果から履修者数に限りがあります。履修制限を行う場合は、原則、以下の順序で判断しますが、授業の実施方法等の理由により、履修制限方法は授業科目によって異なる場合がありますので、予めシラバスを確認するとともに、必ず初回授業・ガイダンスに出席し、説明を受けてください。

①初回授業・ガイダンスに「欠席した学生」を制限します。

②当該授業科目の開講学科の所属ではない「他学部・他学科所属の学生」を制限します。

③「低セメスターの学生」を制限します。

④複数回制限を受けた学生ではない「初めて履修を希望する学生」を制限します。

なお、履修制限された場合は、他の科目に履修を変更し、履修制限を受けた科目は翌学期以降に履修するよう、計画を立ててください。

### ■ 同一名称科目（同一授業内容科目） ■

同内容の授業が複数学科にまたがり開講される「同一名称科目」は、別表「同一名称科目一覧表」により指定された科目及び学科等が対象になります。所属する学科等が掲載されていない場合は、他学部・他学科扱いとなりますので、注意してください。

## 7 履修登録

授業科目を履修する際は、学期毎に指定された期間に、履修する科目を必ず登録する必要があります。これを「履修登録」といいます。履修登録をしなかった場合、授業に出席し、試験を受けても、成績評価はされません。よって、単位は修得できませんので、注意が必要です。

### ■ 履修登録単位数の上限 ■

1 セメスター（学期）に履修登録できる単位数は、原則として、通常授業期間20単位、1 セッション期間4単位をあわせて24単位が上限です。ただし、第2セメスター以上で前学期の通算 GPA が3.80以上（GPA の計算方法については後述します）の場合は、通常授業期間24単位、1 セッション期間4単位をあわせて28単位が上限となります。また、児童教育学部児童教育学科、工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻及び医工学科、医学部医学科及び看護学科においては別途上限単位数が設定されています。なお、「卒業単位に含まれない科目（※印）」、「D評価（試験のみ）科目」、海外研修航海実習、協定留学及び資格取得等に伴う認定科目は履修登録の上限から除外されます。

### ■ 履修登録の時期と方法 ■

授業科目を履修する際は、各学期の始めに設定される「履修登録期間」（春学期：4月上旬～中旬、秋学期：9月中旬～下旬）に、その学期に履修する科目の登録が必要です。履修登録は、原則として TIPS「履修登録・登録状況照会」から自分自身で行います。大学院科目の先行履修等、自分自身で履修登録できない科目を履修登録する際は、カレッジオフィス等の案内に従ってください。

履修登録期間後、授業科目を「取消」「追加」することができる期間（履修登録追加取消期間）も設定されています。履修登録追加取消期間終了後に履修科目を変更することはできませんので、必ず履修登録追加取消期間で自身が登録した授業科目を確認してください。

具体的な履修登録期間は、学期・カレッジ毎に設定され、TIPS にて連絡しますので、必ず確認してください。

### ■ 履修登録の方法 ■

履修登録は、カリキュラム表、シラバス、授業時間割表、前学期の成績情報等（新入生は除く）を用いて、TIPS にて行ってください。以下に履修登録の基本的な登録方法を掲載しますが、TIPS のキャビネットに掲載している「履修登録マニュアル」も必ず確認してください。

なお、疑問や不安な点は、履修登録期間内に必ずカレッジオフィス等に質問し、解消するようにしてください。

#### 授業科目の検索・登録の方法

##### ① 時間割番号から登録

授業時間割表に掲載されている「時間割番号」を直接入力し、登録してください。

##### ② セッション授業の登録

「サマーセッション・ウィンターセッションに開講される科目」を検索し、登録してください。

##### ③ 曜日・時限から登録

自由に「曜日・時限」を設定して検索し、登録してください。

##### ④ 試験のみ科目の登録

前学期（前々学期）に「D評価を受けた学生」だけが登録できます。

⑤科目から登録

「科目名」を部分一致にて検索し、登録してください。

⑥カリキュラムから登録

自分の所属する学科等の「カリキュラム表」から検索し、登録してください。

⑦副専攻から登録

「副専攻指定授業科目群」にある科目の時間割を閲覧し、登録してください。

※上記①～⑦の初期画面は、自分の所属する学科等の授業科目を表示していますが、他の学部・学科等を指定することにより、他学部・他学科の科目も検索・登録することができます。

※「授業時間割表」を利用し、履修登録する「授業科目名」と「時間割番号」を予め調べておくと、①の方法でスムーズに登録することができます。

登録エラー・ワーニングについて

履修登録の際に、エラーやワーニングのメッセージが出る場合があります。

エラーメッセージが表示された場合は、その内容を確認し必ず修正してください。



登録エラーの種類	メッセージ	対応方法
先修条件エラー	あなたは、この科目の先修条件を満たしていないため、履修できません。	あなたは、この科目の先修条件を満たしていないため、履修できません。 科目先修条件がある科目の場合、被先修条件の科目を修得してから履修してください。また、同時履修できる科目の場合は、先修条件の最初の科目から順に登録してください。
前提条件エラー	あなたは、この科目の履修前提条件を満たしていないため、履修できません。	あなたは、この科目の前提条件を満たしていないため、履修できません。 この科目の前提条件を満たしたうえで、登録してください。
留学生カリキュラムエラー	あなたには、留学生カリキュラムが適用されていないため、履修できません。	この科目は、留学生カリキュラム適用者のみ、履修できます。
他学部・他学科エラー	この科目は、他学部・他学科生の履修を認めていないため、履修できません。	カリキュラム表等を確認し、受講できる授業科目を追加登録してください。
重複履修エラー	同じ科目を既に履修登録しているため、この時間割は登録できません。	今学期、この科目をすでに履修登録しているため、登録できません。 登録済みの時間割を確認してください。
時間割番号エラー	該当データが見つかりませんでした。正しい時間割番号で検索してください。	授業時間割表で時間割番号を確認し、正しい時間割番号で検索してください。
時限重複エラー	この時間割の曜日・時限には、既に別の科目が登録済みです。	同一曜日・時限に複数の科目を登録しようとしています。既に登録している科目を取り消してから新しい科目を登録するか、別の曜日・時限から選択し、追加登録してください。
上限単位数エラー	この学期の通常科目またはセッション科目の履修登録上限単位数を超えるため、登録できません。	登録上限単位数を超えて登録しようとしています。登録できる範囲内で、どの授業科目を履修するかを再考してください。登録しなおす必要がある場合は、既に登録した授業科目を取り消し、希望の授業科目を追加登録してください。
対象カリキュラムエラー	この時間割は、あなたのカリキュラム年度（入学年度）と異なりますので履修できません。	この時間割は、履修可能である学生が指定されています。 履修登録できないため、他の時間割を登録、または担当カレッジにご相談ください。
学籍クラスエラー	この時間割は、あなたの所属しているクラス等と異なりますので履修できません。	この時間割は、履修可能である学生が指定されています。 履修登録できないため、他の時間割を登録、または担当カレッジにご相談ください。
履修クラスエラー	あなたは、この時間割に指定された履修クラスに所属していないため、履修できません。	この時間割は、履修可能である学生が指定されています。 履修登録できないため、他の時間割を登録、または担当カレッジにご相談ください。

ワーニングメッセージが表示された場合は、その内容を確認し、登録する場合には「はい」を押してください。

登録ワーニングの種類	メッセージ	対応方法
開講クラスワーニング	この時間割は、あなたの履修クラスではありません。履修制限を受ける可能性があります。登録しますか？	この時間割は、あなたの履修クラスではありません。履修制限を受ける可能性がありますので、注意してください。
校舎間ワーニング	同日に異なる校舎の授業科目を履修しようとしています。面接授業の場合、前後の移動が間に合わない可能性があります。登録しますか？	同日に異なる校舎の授業科目を履修しようとしています。面接授業の場合、前後の移動が間に合わない可能性があります。 時間割表で前後の授業形態を確認したうえで、登録してください。
既修得ワーニング	この科目は、過去に合格評価を修得済です。再履修すると、過去の合格評価は失われます。登録しますか？	この科目は、過去に合格評価を修得済です。再履修すると、過去の合格評価は失われますので、注意してください。 詳細は「10. 再履修」を参照してください。

### 履修登録に際して

- 履修登録期間内は、登録した内容は何度でも修正することができます。期間内は開始日、最終日を除き24時間操作可能です。
- インターネット接続環境があれば、パソコン、スマートフォンどちらからでも TIPS から履修登録が可能です。
- シラバスに記載されている授業の要旨、授業スケジュール、成績評価の基準等を参照し授業内容を理解したうえで登録してください。
- 登録した内容は、自分の計画どおりに登録できているかを確認するために、必ず「履修登録・登録状況照会」画面及び「自己判定／結果」画面にて履修登録した授業科目やその単位数の集計が反映されているか確認してください。また、「履修登録・登録状況照会」の PDF 出力にて自分で登録した内容をダウンロードし、印刷することも可能ですので活用してください。履修登録状況は、履修登録期間後も閲覧することができます。
- 履修登録した後に「授業時間割表」の内容（曜日・時限、授業科目の追加・取消等）が変更される場合があります。（変更内容は TIPS にてお知らせします。）授業科目の曜日時限変更により、変更後の曜日時限で他科目の登録が重複した場合、どちらの科目を履修するか選択して登録を修正してください。登録した科目が開講取り止めになった場合も、画面に登録されたままになっていれば、削除してください。
- 履修登録後、履修を放棄した（授業に出席することをやめた等）授業科目は、必ず「履修登録追加取消期間」に「履修登録・登録状況照会」画面より履修登録を「削除」してください。履修登録を「削除」することができるのは、その学期の「履修登録追加取消期間」までであり、履修を放棄した授業科目をそのまま登録しておくと、GPA は低くなりますので、注意してください。

### ■ 現代教養科目（発展教養科目）の履修登録 ■

区分Ⅰ現代文明論・区分Ⅱ現代教養科目の発展教養科目（シティズンシップ（現代社会と市民）、シティズンシップ（社会参画の意義）、地域理解、国際理解、現代教養講義）は、大学が学生の履修すべき授業科目及びクラスを設定し、予め履修登録します。よって、「履修登録・登録状況照会」では、既に科目が登録されている状態となっています。自分の出席すべきクラスを必ず確認してください。

### ■ セッション開講科目の履修登録 ■

セッション開講科目の履修登録は、「履修登録期間」及び「履修登録追加取消期間」に履修登録することが基本です。さらに、セッション開講科目のみを対象とした「セッション履修登録修正期間」も設定されています。具体的な登録期間、登録方法等については、TIPS にてお知らせします。

### 「セッション履修登録修正期間」の取り扱い

1 セッションの履修登録上限単位数は4単位です。

- ①履修登録した単位数が上限単位数（4単位）に満たない場合は、上限単位数までの範囲で、セッション開講科目を追加登録することができます。
- ②上限単位数（4単位）までの範囲で、登録済みであったセッション開講科目を取り消して、別のセッション開講科目を追加することができます。
- ③登録済みのセッション開講科目を取り消すことができます。

### セッション履修登録に際して

- ①登録済みの通常授業期間に開講されている授業科目を取り消して、セッション開講科目を追加することはできません。その場合、上限単位数（4単位）までの範囲であっても認められません。
- ②セッション開講科目のうち、通常授業期間内に「事前ガイダンス」や「事前学修」等があり、出席等を義務付けている科目については、これらに出席していなければ、履修登録は認められません。

## 8 試験

試験には「定期試験」「臨時試験」「追試験」があります。受験に際しては、「東海大学学修に関する規則」に定められている事項を熟読し、周到な準備と厳正な態度で臨むことが必要です。また、健康管理には十分注意し、万全の体調で受験できるように心がけてください。

各試験を受験する際は、学生証の持参及び提示が必要です。忘れずに持参してください。

また、遅刻しないためにも、試験開始の15分前までには試験教室に入室し、学生証を机上に提示のうえ、試験開始まで待機してください。

### ■ 定期試験 ■

定期試験は、通常の授業期間終了後、引き続いて約1週間の期間で行われます。原則、通常授業期間と同様の曜日・時限で行われますが、試験日・時限・試験教室等の詳細は、試験開始約1週間前までに定期試験時間割として公開され、TIPS「定期試験時間割照会」にて確認ができます。場合によっては、通常授業期間とは異なる曜日・時限・教室等で行われることもありますので、必ず確認してください。

なお、定期試験時間割は公開後に変更される場合がありますので、試験の前日に再度確認することを心がけてください。

### ■ 臨時試験 ■

臨時試験は、学期の途中で授業時間内に行われます。実施の有無は、授業科目の担当教員によって異なりますので、臨時試験の実施日や方法等については、授業科目の担当教員の指示に従ってください。

### ■ 追試験 ■

追試験は、「定期試験を正当な理由で受験できなかった者」にのみ受験資格が与えられます。追試験の受験資格を得るには厳しい基準が設けられており、例えば、入院を要しない程度の感冒（風邪）、頭痛、腹痛等の病気を理由で定期試験を欠席した場合は、追試験の受験資格は認められません。定期試験時間割公開時、併せて追試験に関する事項をお知らせしますので、必ずTIPS等を確認してください。

なお、追試験を受験するためには、追試験を申し込む際に「追試験受験料」を納付する必要があります。

## 9 成績評価

### ■ 評価方法 ■

授業科目の単位修得の可否は、履修登録した授業に出席し、試験及びそれに準ずるもの（レポート等）によって、学期終了後、評価を受け決定されます。授業科目の成績評価方法はシラバスに記載されていますので必ず確認してください。

成績評価においては、出席状況、臨時試験、平常の勉学状況等も考慮されますので、日頃の学修状況に万全を期す必要があります。特に、出席については、「東海大学学修に関する規則第17条の2」に定められているとおり、出席回数が当該授

業に定められた授業回数（試験を含む）の2／3に満たない場合、原則として単位は認定されません。

なお、授業出席回数2／3は、必要最低限の条件であり、原則、全ての授業に出席しなければなりません。

### ■ 評価基準 ■

授業科目の評価は、「東海大学学修に関する規則第18条」に定められているとおり、評点60点以上を合格とし、59点以下は不合格です。評価基準は以下のとおりです。

判 定	評 価	評 点
合 格	S	90点 ～ 100点
	A	80点 ～ 89点
	B	70点 ～ 79点
	C	60点 ～ 69点
	合 格 認 定	
不 合 格	D	59点以下
	E	59点以下
	／	履修登録しているが評価できないもの
成績保留	H	成績保留

### ■ 成績発表 ■

修得した授業科目、単位数ならびに成績評価は、TIPS「単位修得状況照会」にて表示されます。「単位修得状況照会」には、過去に修得した成績及び不合格になった授業科目の全成績評価が記載されていますので、次学期の履修計画を立てる際に、参考にしてください。保護者の方にも TIPS「単位修得状況照会」にて成績情報が公開されます。

### ■ 成績質問 ■

試験を受けたにもかかわらず成績評価がなされていない場合や、成績評価及び出欠席回数に関して疑問がある場合は、成績発表後、定められた期間内に、直接、授業担当教員に質問することができます。

なお、当該学期に担当教員が出講しない場合や退職した場合等、授業担当教員に連絡する手段がない場合は、所属カレッジオフィスに申し出てください。

## 10 再履修

過去に履修した科目を再度履修することができます。これを「再履修」といいます。再履修の具体的な方法は、以下のとおりです。

### ■ 合格判定の場合 ■

合格判定の場合は、修得済みの合格評価を「放棄する」ことで、翌学期以降に再履修することができます。放棄した成績評価は、再履修した際の評価に関わらず保持されませんので注意してください。

### ■ 「D」評価の場合 ■

成績評価が「D」評価の場合は、翌学期（翌年度）に授業に出席せず、大学が指定する試験のみによって単位の修得を試みることができます。これを「D評価措置」といいます。措置を受ける場合は、授業担当教員にその学期の講義内容、テキスト、試験の方法について十分に指導を受ける必要があります。

#### D評価措置

D評価措置を受ける対象者には、学期開始時にD評価措置対象者であることを通知します。TIPS「履修登録・登録状況照会」の「試験のみ科目の登録」というメニューから履修登録を行ってください。原則として、前学期に「D」評価を付与した授業担当教員が試験等の措置を行います。が、学科等の指導上及び教員の都合等で措置する教員が変更される場合があります。担当教員の変更については、カレッジオフィスにて確認してください。



## D評価の有効期限

「東海大学学修に関する規則第18条の3」に定められているとおり、D評価の有効期限は「翌学期（翌年度）まで」です。D評価の授業科目が、翌学期に開講されない場合は翌々学期に開講されますので、授業時間割表でいつ開講されるか必ず確認してください。原則、春学期または秋学期のどちらかに開講されます。

なお、有効期限内に措置を受けなかった場合は、D評価の科目は全てE評価に書き換わりますので、D評価措置を希望する場合は、必ず通知された学期に履修登録を行ってください。

## D評価を受けた学生が授業に出席する場合

D評価措置は、授業に出席せず、大学が指定する試験を受けて単位の修得を試みる方法ですが、D評価措置を受けることを辞退し、再履修（授業に出席し、定期試験を受験）することもできます。その際は、授業時間割表で確認し、履修登録を行ってください。

## 「E」評価及び「／」評価の場合

成績評価が「E」評価及び「／」評価の場合は、翌学期以降に再履修することができます。授業時間割表及び振替科目表（カリキュラム変更があった場合のみ配付）を確認し、各自、履修計画を立て直し、履修登録を行ってください。

また、原則、必修科目は毎学期開講されていますが、選択必修科目及び選択科目は、毎学期開講されるとは限りませんので、必ずカリキュラム表及び授業時間割表で開講学期を確認してください。

## 「H」評価の場合

「東海大学学修に関する規則第18条の7」に定められているとおり、H評価は大学の指定する科目において、一時的に評価を保留とする場合に付与されます。

## H評価措置について

当該通常授業期間直後のセッション期間に補習等を行い、最終評価としてS、A、B、C、E、／、合のいずれかに確定されます。補習等を受講するにあたって履修登録は不要ですが、受講しなければ、最終評価は不合格となりますので、必ず受講してください。

## H評価の有効期限について

H評価の有効期限は、当該学期までとします。

# 11 GPA制度・成績ランク

本学では、各科目の成績平均値（Grade Point Average、以下「GPA」）を用いて、学修の「量」だけでなく「質」を重んじる教育を行っています。この数値を活用することにより、学修の到達度が明確となり、学修意欲の向上や履修計画の見通しにつながることをねらいの一つとしています。

なお、GPAは、奨学金の選抜、就職推薦における選抜、大学院推薦入学試験への推薦基準ならびに大学院授業科目の先行履修許可基準等、様々な場面で活用されています。毎学期の成績評価に基づいて発表される自身のGPAを必ず確認し、学修成果を振り返り、履修計画の指標としてください。

また、成績ランクは、学科・専攻等を一つのまとまりにして、学期毎に成績の順位付けをしたものです。この順位付けにもGPA（通算GPA）が用いられています。

セメスター制度においては、履修できる上限単位数を定め、数多くの科目を履修するよりも、予習・復習を行う時間を適切に確保し、学修を進める必要があります。適切な学生生活を過ごし、学修の「質」を向上させることにより、GPA及び成績ランクの向上が見込まれます。学期毎の結果を必ず確認し、自身の学修成果の指標として活用してください。

## GPAの算出方法

①以下のとおり、「S」「A」「B」「C」「D」「E」「／」の成績評価に、グレードポイント（Grade Point、以下「GP」）を付与します。

成績評価	S	A	B	C	D・E・／	H・合・認
グレードポイント	4.3	4.0	3.0	2.0	0	対象外



- ・当該授業科目の必選別が「※（随意科目、自由履修科目）」の場合は、算出対象から除外します。
- ・成績評価が、「合」・「認」・「H」の場合は、算出対象から除外します。
- ・当該科目が単位認定され、「S・A・B・C」の場合は、算出対象に含まれます。
- ・GPA 算出時、成績が付与されていない（授業担当教員の成績評価提出が未完了）場合や、授業が終了していない（通常授業期間外に行われる実習やセッション開講科目）場合等は、当該授業科目は算出対象から除外します。

なお、成績評価が付いた後は、算出対象に含まれ、GPA は計算し直されます。

②各授業科目の GP を確認し、当該授業科目の単位数を乗じ、各授業科目の「ポイント」を算出し、総和します。[ア]

③履修登録した全ての授業科目の「履修登録単位数」を総和します。[イ]

④総ポイント数 [ア] を総履修登録単位数 [イ] で除して GPA を算出します。[ウ]

※ GPA 算出（④の計算）の際は、小数点第3位以下は切り捨て、小数点第2位まで表示します。

#### 計算例

履修授業科目	単位	評価	GP	ポイント
科目 a	4	A	4.0	$4 \times 4.0 = 16.0$
科目 b	4	B	3.0	$4 \times 3.0 = 12.0$
科目 c	1	S	4.3	$1 \times 4.3 = 4.3$
科目 d	2	A	4.0	$2 \times 4.0 = 8.0$
科目 e	2	S	4.3	$2 \times 4.3 = 8.6$
科目 f	2	C	2.0	$2 \times 2.0 = 4.0$
科目 g	4	E	0	$4 \times 0 = 0$
科目 h	1	A	4.0	$1 \times 4.0 = 4.0$
総履修登録単位数 [イ]	20	総ポイント [ア]		56.9

$$\text{GPA} = \frac{\text{[ア]} 56.9}{\text{[イ]} 20} = 2.84$$

### GPA の種類

#### 学期 GPA

学期 GPA は、各学期に履修した授業科目のみを対象に算出します。

#### 通算 GPA

通算 GPA は、入学後から履修した全ての授業科目を対象に算出します。

なお、再履修した科目が合格（S・A・B・C・合）した場合は、以前に不合格となっていた同科目は GPA の算出対象から除外します。

### 成績ランクの決定方法

成績ランクは、以下の方法で順位付けがされます。

- ①毎セメスター終了時点で、卒業要件の対象となる科目の単位数が、以下の「最低修得単位数」を満たした学生について、通算 GPA の高い順に順位を付けます。

#### 最低修得単位数

セメスター	1 セメ	2 セメ	3 セメ	4 セメ	5 セメ	6 セメ	7 セメ	8 セメ以降終了時
単位数	16単位	32単位	48単位	64単位	80単位	96単位	112単位	124単位＋卒業可

- ②通算 GPA が同じ数値の際は、同じ順位とします。

- ③順位の分母には、各セメスター終了時の最低修得単位数を満たしていない学生も含まれます。（学科・専攻毎、セメスター毎）

- ④各セメスター終了時の最低修得単位数は、GPA の対象科目と「合」「認」評価科目の合計単位数です。

⑤最低修得単位数を満たしていない学生は、正式な「通算 GPA」としての順位付けは行いません。

ただし、指導上の参考資料として、各セメスターの最低修得単位数を満たしていない学生の中で、通算 GPA による順位付けを行います。その際は、順位の後に＊マークをつけ、正式な通算 GPA と区別します。（例：100人中 98位＊）

## ■ TIPS「単位修得状況照会」の GPA 及び成績ランクの表示 ■

TIPS「単位修得状況照会」の「GPA・成績順位」欄に、「学期 GPA」と「通算 GPA」を掲載します。

また、成績ランクも併記します。

（例：2022年度春学期 GPA：学期 3.02 通算 2.79 順位 100人中 28位）

## ■ GPA に基づく学修指導等 ■

本学は、学科等において指導教員を中心として、学生生活や学修に関する指導を行う制度が設けられています。各学科等で指導教員体制は異なりますが、学生一人ひとりの履修登録や成績修得状況等を常に把握し、指導や助言を行います。学期毎の学修指導対象となる基準は、原則、以下のとおりです。

①学期 GPA が「2.00未満」の学生

②最低修得単位数を満たしていない学生

対象者の具体的な学修指導の方法は、指導教員との面談を実施し、基準に達しなかった原因を探るとともに、その問題の解決に向けて指導を行います。

また、今後の履修計画を見直し、より良い学生生活が送れるよう助言を行います。

## 12 その他

### ■ 欠席確認届 ■

「学校保健安全法施行規則第18条」に定められているインフルエンザ等の感染症に罹患した場合や、忌引き等の理由で授業を欠席する場合は、「欠席確認届」の提出を申請することができます。所定の用紙に必要事項を記入し、カレッジオフィス等にて認められた場合に限り、当該授業を「欠席扱いにしない」としてしています。欠席確認届を提出された授業担当教員は、本来行うべき授業内容をレポートや課題等で可能な限り補う措置を行います。

なお、欠席確認届の申請手続きは、欠席の前後1週間を目安に行ってください。

また、欠席確認届の提出が認められる理由は、以下のとおりです。

①学校保健安全法施行規則第18条に規定されている感染症

②忌引き

③授業の重複（補講を含む）

④教育実習・介護等体験・博物館実習・社会教育実習

⑤公認団体における課外活動（招聘や依頼による活動・大会等を含む）

⑥その他、大学が認める場合

### ■ 早期卒業制度 ■

早期卒業制度とは、本学大学院に進学を予定する者で、学生本人が学部を早期に卒業することを希望した場合に利用できる制度です。早期卒業の条件は、以下のとおりです。

①本学に3年以上在学していること

②卒業に必要な単位数を全て修得済みであること

③各学部が定める早期卒業時の優秀な成績の基準を満たしていること

④所定の学費を完納していること 等

なお、早期卒業を希望する場合は、早期卒業する学期の2セメスター前に申請し、各学部が定める申請時の優秀な成績の基準を満たす必要があります。必ず指導教員に相談し、計画的に履修する必要があります。

また、再入学、編入学、転入学及び転学部・転学科した学生は、早期卒業制度は利用できませんので注意してください。

### ■ 卒業延期制度 ■

卒業延期制度とは、本学の卒業要件を満たす者が引き続き在学を希望する場合、卒業を延期し、在学の延長を認める制度

です。卒業延期の条件は、以下のとおりです。

- ① 本学に第8セメスター以上在学していること（医学部医学科を除く）
- ② 東海大学学則第23条に規定する卒業の要件を満たしていること
- ③ 引き続き在学することにより、在学期間が東海大学学則第31条に規定する修業年限を超えていないこと
- ④ 所定の学費を滞納していないこと

なお、卒業延期制度により在学の延長を申請できる期間は、1セメスターです。

また、卒業延期制度の適用を受けた学生が、引き続き卒業延期制度の適用を希望する場合は、最大1年間（2セメスター）まで、在学の延長を申請することができます。

## 別表 同一名称科目一覧表

※「主専攻科目」の同一科目の一覧表です。

表に記載されている場合でも、他学科履修不可の場合は、履修登録することができません。

### 湘南校舎

同 一 科 目 名	グ ル ー プ
基礎情報処理 1	文学部全学科 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
日本史概説A	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
日本史概説B	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
東アジア史A	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
東アジア史B	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
西洋史概説A	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
西洋史概説B	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
人文地理学概論A	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
人文地理学概論B	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
自然地理学概論A	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
自然地理学概論B	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
地誌A	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
地誌B	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
哲学概論A	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
哲学概論B	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
宗教学概論A	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
宗教学概論B	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
法律学概論	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
政治学概論	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
社会学概論	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
国際政治学	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア
地域と文明	文明 考古学専攻
地域文明論	文明 考古学専攻
文明論の諸相	文明 考古学専攻
文明論の展開	文明 考古学専攻
考古学概説A	日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻
考古学概説B	日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻
歴史の見方	日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻
ヨーロッパ・アメリカ実地研修	西洋史専攻 ヨーロッパ・アメリカ
北欧史概説	西洋史専攻 北欧
中華文明	考古学専攻 アジア
インドス文明	考古学専攻 アジア

古代メソポタミア文明	考古学専攻 アジア
古代エジプト文明	考古学専攻 アジア
アジア考古学講義A	考古学専攻 アジア
アジア考古学講義B	考古学専攻 アジア
アジア考古学講義C	考古学専攻 アジア
アジア考古学講義D	考古学専攻 アジア
プロジェクト研究	人間環境 芸術
社会科・公民科教育法1	文明 広報メディア 心理・社会
社会科・公民科教育法2	文明 広報メディア 心理・社会
社会科・地理歴史科教育法1	日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ
社会科・地理歴史科教育法2	日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ
社会科教材論	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
社会科教育実践論	文明 日本史専攻 西洋史専攻 考古学専攻 アジア ヨーロッパ・アメリカ 広報メディア 心理・社会
数学科教育法1	数学 情報数理
数学科教育法2	数学 情報数理
数学科教材論	数学 情報数理
数学科教育実践論	数学 情報数理
理科教育法1	物理 化学 生物工 応用化
理科教育法2	物理 化学 生物工 応用化
理科教材論	物理 化学 生物工 応用化
理科教育実践論	物理 化学 生物工 応用化
海外アウトドアスポーツ理論及び実習1	体育学部全学科
海外アウトドアスポーツ理論及び実習2	体育学部全学科
アウトドアスポーツ 理論及び実習A	体育学部全学科
アウトドアスポーツ 理論及び実習B	体育学部全学科
アウトドアスポーツ 理論及び実習C	体育学部全学科
アウトドアスポーツ 理論及び実習D	体育学部全学科
生理学	体育学部全学科
運動生理学	体育学部全学科
衛生学（労働衛生を含む）	体育学部全学科
公衆衛生学	体育学部全学科
学校保健概論（小児保健・精神保健・学校安全を含む）	体育学部全学科
救急処置法	体育学部全学科
情報処理	体育学部全学科
情報処理1	政治 経済
情報処理2	政治 経済
政治学原論A	政治 経済
政治学原論B	政治 経済
財政学A	政治 経済
財政学B	政治 経済
都市政策論1	政治 経済
都市政策論2	政治 経済
国際経済学A	政治 経済
国際経済学B	政治 経済
情報処理	機械工 機械システム
プログラミング	機械工 機械システム
メディア社会論	情報数理 情報科
情報と職業	情報数理 情報科
情報科教育法1	情報数理 情報科
情報科教育法2	情報数理 情報科
地学概論1	物理 化学 生物工 応用化
地学概論2	物理 化学 生物工 応用化



地学実験（コンピュータ活用を含む）	物理 化学 生物工 応用化
生物学概論 1	物理 化学 応用化
生物学概論 2	物理 化学 応用化
生物学実験（コンピュータ活用を含む）	物理 化学 応用化
物理学実験（コンピュータ活用を含む）	化学 生物工 応用化
建築デザイン入門	建築都市学部全学科
空間計画	建築都市学部全学科
建築計画 A	建築都市学部全学科
日本建築史 1	建築都市学部全学科
西洋建築史 1	建築都市学部全学科
建築法規	建築都市学部全学科
建築計画 B	建築都市学部全学科
都市デザイン	建築都市学部全学科
公共政策学	建築都市学部全学科
地域マネジメント	建築都市学部全学科
建築構造製図	建築都市学部全学科
航空機システム工学	航空宇宙学専攻 航空操縦学専攻
航空機整備	航空宇宙学専攻 航空操縦学専攻
航空産業論	航空宇宙学専攻 航空操縦学専攻
機械のための数学	機械工 機械システム
機械のための力学	機械工 機械システム
機械材料基礎	機械工 機械システム
機構学	機械工 機械システム
材料力学基礎	機械工 機械システム
機械力学基礎	機械工 機械システム
機械加工基礎	機械工 機械システム
熱力学基礎	機械工 機械システム
設計学	機械工 機械システム
機械力学	機械工 機械システム
流れ学基礎	機械工 機械システム
材料力学	機械工 機械システム
システム制御のための数学	機械工 機械システム
トライボロジー	機械工 機械システム
シミュレーション工学	機械工 機械システム
システム制御基礎	機械工 機械システム

### 熊本校舎

同 一 科 目 名	グ ル ー プ
情報リテラシー	経営 地域社会 人間情報工 農学 動物科 食生命科
情報処理入門	経営 地域社会 人間情報工 農学 動物科 食生命科
自然災害と暮らし	経営 地域社会 人間情報工 農学 動物科 食生命科
人工知能概論	経営 地域社会 人間情報工 農学 動物科 食生命科
基礎生物学	農学 動物科
基礎化学	農学 動物科
果物の科学	農学 食生命科
作物生産生理学	農学 食生命科
植物バイオテクノロジー	農学 食生命科
農業科教育法 1	農学 動物科
農業科教育法 2	農学 動物科
動物生理学	動物科 食生命科
生体物質の化学	動物科 食生命科
生化学	動物科 食生命科
動物生殖生理学	動物科 食生命科
動物衛生学	動物科 食生命科

実験動物学	動物科 食生命科
食品衛生学	動物科 食生命科
コンピュータ概論	経営 地域社会 人間情報工
プログラミング入門	経営 地域社会 人間情報工
工学概論	経営 地域社会 人間情報工
生命科学概論	経営 地域社会 人間情報工
微積分学	経営 地域社会 人間情報工
線形代数	経営 地域社会 人間情報工
応用数学	経営 地域社会 人間情報工
社会学概論	経営 地域社会 人間情報工
心理学概論	経営 地域社会 人間情報工
経営学概論	経営 地域社会 人間情報工
経済学概論	経営 地域社会 人間情報工
会計学概論	経営 地域社会 人間情報工
政治学概論	経営 地域社会 人間情報工
倫理学概論	経営 地域社会 人間情報工
職業指導A	人間情報工 農学 動物科
職業指導B	人間情報工 農学 動物科

#### 札幌校舎

同 一 科 目 名	グ ル ー プ
アジアの社会A	地域創造学科、国際コミュニケーション学科
アジアの社会B	地域創造学科、国際コミュニケーション学科
欧米の社会A	地域創造学科、国際コミュニケーション学科
欧米の社会B	地域創造学科、国際コミュニケーション学科
心理学	地域創造学科、国際コミュニケーション学科
化学A	生物学科、海洋生物科学科
化学B	生物学科、海洋生物科学科
生物学A	生物学科、海洋生物科学科
生物学B	生物学科、海洋生物科学科
地学A	生物学科、海洋生物科学科
地学B	生物学科、海洋生物科学科
物理学A	生物学科、海洋生物科学科
物理学B	生物学科、海洋生物科学科
数学A	生物学科、海洋生物科学科
数学B	生物学科、海洋生物科学科
化学実験	生物学科、海洋生物科学科
生物学実験	生物学科、海洋生物科学科
物理学実験	生物学科、海洋生物科学科
地学実験	生物学科、海洋生物科学科
理科教育法1	生物学科、海洋生物科学科
理科教育法2	生物学科、海洋生物科学科
理科教材論	生物学科、海洋生物科学科
理科教育実践論	生物学科、海洋生物科学科

## Ⅱ章

# 学部における教育研究上の目的 及び養成する人材像

## ■ 教育研究上の目的及び養成する人材像 ■

情報理工学部在教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、情報に関する幅広い基礎知識と高度な専門知識と技術を備え、現代の情報社会が抱える多様な課題を正しく理解し、それらの課題に対する解決策を的確に導き出せる創造力及び実践力をもった人材を養成することです。

以上の目的を達成するために、情報理工学部では3学科に学士（工学）の学位プログラムを設置し、各々に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」を定めています。

## Ⅲ章

# 現代文明論・現代教養科目・ 英語科目の教育目標と講義構成



## ■ 区分Ⅰ 現代文明論

東海大学は、現実世界で遭遇する様々な課題に挑み、問題解決に向けて積極的に立ち向かう人材の育成を目指している。人間は長い歴史の中で対立や戦いを繰り返してきた。教育が果たす大切な使命は、それらを克服し、人々が互いの存在を認め合いながら平和に生きていけるようにするために、「調和のとれた文明社会の建設」に寄与できる人材を育成することにある。現代文明論は、こうした教育の使命を果たすべく、学生諸君に学ぶことの意義を伝え、「人生にとって大切なものは何か」「我々はいかに生きるべきか」を考えさせ、しっかりとしたものの方、考え方を養うことを目的とする。

本学の創立者松前重義は、今日に至る文明のあり方とそのゆえをめぐって、学生自らが深い思慮や豊かな洞察力を養い、自らの人生を有意義に過ごすための思想を培うことを目的として現代文明論を開講した。以来半世紀を越えて、この授業では、専門分野の知識修得に偏ることなく、幅広い視野と明確な達成目標を持って、試行錯誤を重ねつつも、常に前進しようとする意欲や態度を高めていくべきことを学生諸君に訴え続けてきた。知識は、人や世界をよりよき方向に導く財産として活用できなければならない。また知識を有効に活かすためには、人間の生き方、世界のあり方、歴史の重みに目を向けて、考え、悩みながら、未来を選択する力を養っていかなければならない。創立者は、こうした精神の礎を、学生一人ひとりに身につけさせることを目指して、東海大学の「建学の精神」を具現化する教育の中核に現代文明論を位置づけたのである。

「自分の進むべき道を定めようとしたら、自分がいまどこにいるのかを知らなくてはならない。自分がどこにいるのかを知るためには、自分がどこから来たかを知らなくてはならない」とは、創立者松前重義の言葉である。この授業では、まさしく「自分の進むべき道」「自分がいまどこにいるのか」「自分がどこから来たか」を考え、自らの立ち位置を見定めて、「今後どうあるべきか、何をすべきか」を認識し、人生の基盤となる自らの思想を培い、「人間力」を陶冶し、人道的立場を確立するための素養を身につけることを目指している。

まず「自分の進むべき道」をどのように考えるか。現代社会に生きる私たちは、富や科学技術水準の高さを追求することで物質的な豊かさを手に入れた反面、ともすれば精神面がないがしろにされ、「心の豊かさ」を見失いつつある。私たちは、「物質文明と精神文明とが共に調和のとれた」あるべき文明社会を建設していかなければならない。

次に「自分がいまどこにいるのか」をどのように考えるか。あるべき文明社会を構築するためには、いま世界規模で生じている深刻な現実的諸問題を受け止めながら、それらの現実が私たちの日常生活とどのように関連しているのかを見通していく力が必要になる。しかし、現代の世界規模で前例のない深刻な諸問題は、様々な要因が複雑に絡まり合って発生しているため、ある一つの学問領域からの視点だけで一ましてやいわゆる「文系」「理系」どちらか一方のアプローチのみから一その問題の本質を理解することや解決策を見出すことは非常に難しくなっている。特定の学問分野にとらわれない柔軟で、学際的・複眼的な思考が待ち望まれている。

さらに「自分がどこから来たか」をどのように考えるか。私たちが直面する深刻な現実を理解し、解決策を見出すためには、先人たちが現代社会をどのように築き上げてきたのかを歴史的に捉えることが不可欠である。なぜならば、過去からの連続性を認識しない限り、私たちが直面している現実とは本質的に理解できないからである。例えば現代社会は、地球環境、資源・エネルギー、科学技術、経済格差と貧困、異文化理解、人権、平和などの側面において、実に多様で深刻な諸問題に満ちている。しかしこれらも、過去から現在への連続性を認識する歴史的な視点に立つことによって、はじめてその問題の根が見えてくるのである。

この授業を通して、学生一人ひとりが、細分化された専門分野の枠組みにとらわれない幅広い視野と柔軟な思考によって、厳しい現実や現代文明社会の困難な課題を直視し、学生生活の様々な場で自らいかに生きるべきかを考え、有意義な人生を送るための学びを継続されることを期待したい。

## ■ 区分Ⅱ 現代教養科目

### ■ 基礎教養科目

#### 教育目標と講義構成

現代教養とは、人々が現在の複雑化した社会を生きるために必要な力です。東海大学の建学の精神から考えてみると、こうした現代社会を生きるためには、自分の生きていく方針を決める力が必要です。すなわち、現代社会の構造を知り、自分をそこに位置づけ、自分の進むべき道を選択するための知の力です。そのためには、さまざまな分野の知識と考え方を身に付け、幅広い文理融合的な視野を得ることが求められます。

基礎教養科目（「入門ゼミナールA」「入門ゼミナールB」）では、自分の進むべき道を選択するための知の力の修得を念頭に置いて、市民としての教養につながる導入的な授業を展開します。

### ■ 発展教養科目

#### 教育目標と講義構成

さまざまな分野の知識が、現代的な教養となるためには、実践の中で活かされなければなりません。したがって、主体的に実践する力、すなわち、行動する力が必要となります。そのためには、それぞれが社会の発展に関与できることを自覚し、実際に自ら決定し、参加・協同し、社会の課題解決を担う力を養っていく必要があります。これをパブリック・アチーブメント型教育と呼びます。

「シティズンシップ（現代社会と市民）」「シティズンシップ（社会参画の意義）」「地域理解」「国際理解」では、さまざまな分野の知識を活かしていくための実践力の修得を念頭に置いて、市民としての教養につながる導入的な授業を展開します。

「現代教養講義」では、様々な問題の解決を迫られている現代社会の中で、多様な学問分野がそれぞれどのように関連しているのかを教員の研究活動を軸に学び、知識を深めます。

教育目標と講義構成

健康スポーツ科目は、“健康とからだ”をテーマに学ぶ「健康・フィットネス理論実習」と“生涯スポーツ”をテーマに学ぶ「生涯スポーツ理論実習」から構成されます。それぞれの授業を通じて、健康と体育・スポーツ活動の意義を学び、将来の人生をより豊かにできるようなライフスタイルを身に付けることが目標です。このことは「広く自らの歴史観、世界観、人生観を培い、社会に対する強い使命感と豊かな人間性を備えた人材を育成する」という東海大学の教育目標に寄与するものです。

生活の中にスポーツ活動を取り入れるとともに、自分自身の健康や体力、人間関係や社会的な行動を適切に認識して、健康で豊かな生活の基礎を確立させることは、現代社会で重要視されている QOL（Quality of life：生活の質）の向上に極めて有効です。

全学必修科目として開講されている健康スポーツ科目は、「若き日に汝の体躯を養え」という建学の精神に則り、心身ともに健康で活発な東海大学生を社会に輩出することを目指して、各キャンパスの特徴を活かしながら生涯スポーツの実践へつながる授業を展開します。

必修科目

区分Ⅱ 現代教養科目（健康スポーツ科目）

健康・フィットネス理論実習

生涯スポーツ理論実習

選択科目

区分Ⅴ 自己学修科目

講義 — 健康スポーツ概論 A・B

実習 — 健康スポーツ 1・2・3・4

海外アウトドアスポーツ 1・2

東海大学生のQOLの向上

## 区分Ⅲ 英語科目

### 教育方針と教育目標

「グローバル化」が加速的に進行している現在、外国語の習得は世界に目を向け、新たな視界を開く窓となり、多様性に対処し、またその豊かさを享受するための道具となります。大学はキャリア形成のための一つの準備期間でもあり、今後さらに進む多文化共生社会の中で、相互理解を育むためのコミュニケーションの在り方を学ぶ貴重な機会となります。国際共通語（リング・フランカ）としての英語能力の習得は、単に言葉の力を身に付けることのみではありません。英語での受信・発信能力を身に付けるとともに、多様な文化や話題に興味・関心を持ち、時事的な問題にも目を向けて、国際的な感覚と視野を備えた国内外の舞台での活躍できる人材となることが社会で求められています。

語学教育センターでは、必修英語科目と選択英語（自己形成）科目に関して、一貫した英語教育方針として、下記の力を育成することを目標としています。

#### <知識・理解>

英語で受信した情報を発信へとつなげ、現実社会の中で英語を統合的に使う基盤となる力

#### <汎用的技能>

国際社会において、他者と協調的に対話しつつ、自ら主体的に考え、自己実現できる力

#### <態度・志向性>

多様な文化や話題に興味・関心を持ち、国際的な感覚と視野を備え、多文化共生社会の中で 相互理解を育もうとする態度

語学教育センターが提供する英語関連科目は、1年次必修英語科目である「英語コミュニケーション科目」が基盤となります。「英語コミュニケーション科目」では「英語リスニング&スピーキング」と「英語リーディング&ライティング」の授業を通して、まずは英語力の基盤を固め、英語での受信・発信能力を統合的に身に付けます。受信（リスニングやリーディング）と発信の能力（スピーキングやライティング）を同時に学ぶことによって、受信した情報を発信へとつなげる英語力を養い、読んだり聞いたりした内容をもとに話したり書いたりできるようになり、現実社会の中で英語を使って日常的話題について自己表現ができ、仕事においても通常業務がこなせるぐらいの力をつけることを目標としています。

必修科目の授業は英語力に応じてクラス分けされ、国際的な英語能力指標であるヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に基づきレベルが設定されています。その上で現在の英語の習熟度（レベル）に合わせて「英語で何ができるか」を示したCan-Do リストによる到達目標を設定しており、自己の目標達成に向けて調整しながら学んでいきます。

語学教育センターでは必修英語科目（区分Ⅲ）に加えて、「自己形成科目」として選択英語科目（区分Ⅴ）も提供しており、1年次の「英語コミュニケーション科目」で学んだ内容を2年次以降に継続してさらに深めていく「英語グローバル・コミュニケーション」と「英語アカデミック・リテラシー」の一連のレベル別科目群（初級・中級・上級・セミナー）が設けられています。これらの科目では、1年次に培った語学力をもとに、国際社会で他者と協調的に対話しつつ、自ら主体的に考え、自己実現できる人材の育成を目指します。

「英語グローバル・コミュニケーション」の科目群では、21世紀型スキルや異文化間コミュニケーション能力の枠組みに基づいて、主に口頭による英語の理解力と発信能力の向上を引き続き目指しつつ、協働性と主体性を養い、将来、英語による問題解決や交渉・折衝へと発展できる力を育みます。「英語アカデミック・リテラシー」の科目群では、低次から高次への思考力の段階的枠組みに基づいて、英語によるリテラシー能力（読解記述力）を伸ばしつつ、情報をもとに多面的な角度から物事を考えることで批判的思考力や判断力を養い、将来、英語で専門的内容を学んでいくための力を育みます。

語学教育センターの提供する選択科目（自己形成科目）としては他にも、基礎力を補うための「リメディアル科目」、専門的な内容を英語で学ぶ「CLIL（内容言語統合型学習）科目」、資格試験や留学準備を目指す「資格試験・留学準備科目」などの様々な特色ある科目が用意されており、個々のニーズに合わせて自律的に学び、力を伸ばしていくことができます。また、これらの科目の単位を一定以上取得することで、副専攻として「英語グローバル・コミュニケーション副専攻」や「英語アカデミック・リテラシー副専攻」も認められます。

なお、公的な資格試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS など）で既定以上のスコアを取得すると「英語コミュニケーション科目」、また、資格試験で一定のスコアをクリアして協定大学に留学すると「自己形成科目」の一部の単位認定を受けることができます。単位認定には所定の手続きが必要です。

外国語の習得は教室の中だけで完結するものではありません。生涯学習として語学に向き合い、活用しながら学んでいき、職業や学術領域またはその他の興味領域での必要性に応じたレベルの力を必要な時に習得して行くための土台となる力を養い、自律的に学習を継続していくためのノウハウやストラテジーを身につけることが期待されています。

注）校舎によって開講される科目や留学プログラムは異なります。

# 語学教育センター英語カリキュラム

Language Education Center (LEC)

国際指標に基づいた  
レベル別クラス編成

英語科目

資格試験で  
単位認定も

区分Ⅲ「必修英語」

英語コミュニケーション科目

1年次

英語リスニング＆スピーキング

English Listening & Speaking

英語リーディング＆ライティング

English Reading & Writing



留学による  
単位認定も

区分Ⅴ「選択英語」

自己形成科目

2年次以降

英語グローバル・コミュニケーション  
(初級・中級・上級)



英語グローバル・コミュニケーション  
セミナー

英語アカデミック・リテラシー  
(初級・中級・上級)



英語アカデミック・リテラシー  
セミナー



1～4年次

スキル科目

リメディアル科目

CLIL 科目

資格試験科目

留学準備科目



英語グローバル・コミュニケーション  
副専攻



英語アカデミック・リテラシー  
副専攻



# Ⅳ章

学科の教育研究上の目的及び養成する人材像

3つのポリシー

カリキュラム表

カリキュラムマップ

カリキュラムツリー

# 情報科学科の教育研究上の目的及び養成する人材像、 3つのポリシー

## ■ 教育研究上の目的及び養成する人材像

情報理工学部情報科学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って普遍的な科学研究と革新的な着想を追求し、情報分野に関するグローバルな視野と新しい情報処理技術を創成する素養を持った国際社会に貢献する人材を養成することです。

## ■ ディプロマ・ポリシー

情報理工学部情報科学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

### 『知識・理解』

理学と工学の両面から情報に関する幅広い基礎知識と人工知能、計算科学、数理工学、情報計測・可視化等に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有している。

### 『汎用的技能』

情報分野の技術を応用し、時代の多様なニーズに対して理学および工学的な立場から解決策を見出すことができる。

### 『態度・志向性』

情報技術者のモラルと使命を理解し、情報分野の理学および工学的な発展に寄与し、社会に貢献することができる。

## ■ カリキュラム・ポリシー

情報理工学部情報科学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

### 『教育課程・学修成果』

主専攻科目は、理工系基礎科目、情報技術者基幹科目、コンピュータ実習科目、情報科学共通科目、AI・計算科学・数理工学分野科目、情報計測・可視化分野科目、自己発展科目、情報科学実験、情報科学ゼミナール、卒業研究1・2と段階付け、徐々にステップアップする構成になっています。

初年次より「基本情報技術者試験」のシラバスを参考にした科目配置を行い、社会が本学科出身者に求める情報理工学分野の幅広い基礎知識を身につけさせます。「情報技術者基幹科目」「情報科学共通科目」の上に、本学科独自の研究分野に関連した「AI・計算科学・数理工学」「情報計測・可視化分野」の科目を配置し、専門的知識を教授します。特に、AI・プログラミング教育に対する社会の大きなニーズに応えるため、「人工知能」「機械学習」「自然言語処理」「確率的最適化」「人工知能プログラミング」「アドバンストプログラミング」を配置し、AI人材に求められる専門的知識を教授します。グローバル人材の育成のため、TOEIC科目を配置し実用英語を身につけさせます。3年次後期には「情報科学ゼミナール」、4年次には「卒業研究1・2」等の実践的教育を通して、新しい情報技術を創成する能力やリーダーシップを育成します。

### 『学修成果の評価方法』

情報理工学部情報科学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

### 『求める学生像』

情報理工学部情報科学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

### 『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

#### (1) 知識・技能

現代社会における情報科学の様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有している。英語では、高校での英語の履修を通して英文法、文章読解、基礎的な英単語や熟語、リスニングを身につけておくことが望ましい。数学では、高校での数学の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な読解力、表現力、文化的な知識を幅広く身につけていることが望ましい。

#### (2) 思考力・判断力・表現力

数学や理科などの高校の科目を通して論理的思考能力を身につけておくことが望ましい。また、歴史や地理、倫理など高校の社会科目を通して物事の良し悪しを判断する力、国語や英語などを通して文章を正しく理解し実験で得た結果や自分の考えを正確に他者に伝えられる表現力があることが望ましい。

#### (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

高校のクラブ活動や委員会活動、ボランティア活動などを通して、他者の考えを聞き、また他者に自分の考えを伝え、ともに1つの目標達成に向けて協力しようとする態度を身につけておくことが望ましい。

卒業単位数一覧

区 分	科 目 区 分	構 成 授 業 科 目		修得すべき単位数
I	現 代 文 明 論	現 代 文 明 論	必 修 科 目	2
II	現 代 教 養 科 目	基 礎 教 養 科 目	必 修 科 目	4
		発 展 教 養 科 目	必 修 科 目	6
		健 康 ス ポ ー ツ 科 目	必 修 科 目	2
III	英 語 科 目	英語コミュニケーション科目	必 修 科 目	4
IV	主 専 攻 科 目	学 部 共 通 科 目	必 修 科 目	—
			選 択 必 修 科 目	—
			選 択 科 目	—
		学 科 開 講 科 目	必 修 科 目	18
			選 択 必 修 科 目	—
			選 択 科 目	58
V	自 己 学 修 科 目	全 学 共 通 科 目		30
		他 学 部 ・ 他 学 科 科 目		
		副 専 攻 科 目		
		区 分 II の 余 剰 科 目（留学生カリキュラムのみ）		
		区 分 IV の 余 剰 科 目		
合 計				124

VI	卒業単位に含まれない科目	0
----	--------------	---

※ 学科開講科目（選択科目）の余剰科目は、自己学修科目（区分V）に算入されます。

# 2023年度 情報理工学部 区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ カリキュラム表

区分・科目区分	学 科 目	グ レ ード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備 考	他 学 科 生 受 講	副 専 攻 科 目 指 定
						春 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	サ マ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)	秋 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	ウ ィ ン タ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)				
I 現代 文明論	現代文明論	I 200	現代文明論	○	2	1		1					
II 現代教養 科目	基礎教養科目	II 100	入門ゼミナールA	○	2	1		1					
		II 100	入門ゼミナールB	○	2	1		1					
	発展教養科目	II 100	シティズンシップ (現代社会と市民)	○	1	0.5		0.5					
		II 100	シティズンシップ (社会参画の意義)	○	1	0.5		0.5					
		II 100	地域理解	○	1	0.5		0.5					
		II 100	国際理解	○	1	0.5		0.5					
		II 200	現代教養講義	○	2	1		1					
	健康スポーツ 科 目	II 100	健康・フィットネス理論実習	○	1	1		1					
		II 100	生涯スポーツ理論実習	○	1	1	14	1	14		別開講		
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	III 100	英語リスニング&スピーキング	○	2	2		2					
		III 100	英語リーディング&ライティング	○	2	2		2					

## 2023年度 情報理工学部 区分Ⅱ 留学生カリキュラム表

区分・科目区分	学 科 目	グ レ ード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備 考	他 学 科 生 受 講	副 専 攻 科 目 指 定
						春 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	サ マ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)	秋 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	ウ ィ ン タ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)				
II 現代教養 科目	発展教養科目	II 200	現代教養講義	×	2	1		1					
		II 100	アカデミックジャパニーズ	×	2	1		1					
	備 考	区分Ⅱ 現代教養科目：留学生は「現代教養講義」の代替科目として「アカデミックジャパニーズ」を履修することができる。											



# 2023年度 情報理工学部 情報科学科 カリキュラム表

No. 1

科目区分	学 科 目	グ レ ード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備 考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
IV 主 専 攻 科 目	情報科学基幹科目	IV371	情報科学実験	○	2	同2				②5セメ		×	
		IV372	情報科学ゼミナール	○	2	1		1		②6セメ		×	
		IV471	卒業研究 1	○	4	2		2		②7セメ&③卒業に必要な 単位数のうち100単位		×	
		IV472	卒業研究 2	○	4	2		2		①IV471		×	
	情報技術者基幹科目	IV110	基本情報処理 1	×	2	1						×	
		IV110	基本情報処理 2	×	2			1				×	
		IV110	情報数学	×	2			1				×	
		IV210	コンピュータシステム	×	2	1							
		IV210	情報科学通論	×	2	1						×	
		IV210	情報技術論	×	2			1				×	
	理工系基礎科目	IV100	線形代数	○	2	1		1					
		IV100	微積分	×	2	1							
		IV200	確率統計	×	2	1							
		IV100	物理学	×	4			同2					
		IV200	基礎化学	×	2	1						×	
		IV200	光学入門	×	2	1							
		IV200	電磁気学基礎	×	2	1							
	コンピュータ実習科目	IV120	コンピュータリテラシー	×	2	1						×	
		IV120	プログラミング実習 1	○	2	同2		同2				×	
		IV220	プログラミング実習 2	○	2	同2		同2				×	
		IV220	人工知能プログラミング	×	2			1				×	
		IV220	コンピュータシミュレーション	×	2			1					
		IV220	アドバンストプログラミング	×	2			1				×	
	情報科学共通科目	IV230	電気回路	×	2	1							
		IV230	信号処理	×	2			1				×	
		IV130	脳科学	×	2			1					
		IV230	人工知能	×	2	1						×	
		IV330	データ構造とアルゴリズム	×	4	同2						×	
		IV230	情報理論	×	2			1					
		IV330	情報通信ネットワーク	×	2	1							
	AI・計算科学・数理工学分野	IV340	機械学習	×	2	1						×	
		IV340	確率的最適化	×	2			1					
		IV340	自然言語処理	×	2			1				×	
		IV340	マルチメディア信号処理	×	2			1					
		IV340	情報数理工学	×	2			1					

# 2023年度 情報理工学部 情報科学科 カリキュラム表

No. 2

科目区分	学科目	グレードNo.	授業科目名	必修別	単位数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
IV 主専攻 科目	情報計画・可視化分野	IV350	メディカルイメージング	×	2	1							
		IV250	環境情報科学	×	2	1							
		IV350	認知科学	×	2			1					
	自己発展科目	IV260	理工系のTOEIC (R) 入門	×	2			1				×	
		IV360	理工系のTOEIC (R) 初級	×	2	1						×	
		IV360	理工系のTOEIC (R) 中級	×	2			1				×	
	教職科目	IV180	情報と職業	×	2			1					
		IV281	情報科教育法 1	×	2	1				①VI101、VI102、VI106、VI107のうち3科目&②5セメ			
		IV282	情報科教育法 2	×	2			1		①VI101、VI102、VI106、VI107のうち3科目&②5セメ			
		IV380	科学と倫理	×	2	1							
		IV380	メディア社会論	×	2	1							
		IV380	知的財産権法	×	2			1					

DI

科 目 情 報						大学DP												学位プログラムDP				
						自ら考える力			集い力			挑み力			成し遂げ力							
科 目 区 分	学 科 目	グ レ ード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	学 習 力	思 考 力	探 求 力	関 係 構 築 力	コ ミュ ニ ケー ション 力	アイ デン ティ ティ 獲得	問 題 発 見 力	構 想 力	行 動 力	セ ル フ マ ネ ジ メント	継 続 力	改 善 ・ 修 正 力	知 識 ・ 理 解	汎 用 的 技 能	態 度 ・ 志 向 性		
IV 主 専 攻 科 目	情報科学基幹科目	IV371	情報科学実験	○	2			◎										◎				
		IV372	情報科学ゼミナール	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		IV471	卒業研究 1	○	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		IV472	卒業研究 2	○	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	情報技術者基幹科目	IV110	基本情報処理 1	×	2	◎													◎			
		IV110	基本情報処理 2	×	2	◎													◎			
		IV110	情報数学	×	2	◎													◎			
		IV210	コンピュータシステム	×	2	◎													◎			
		IV210	情報科学通論	×	2												◎			◎		
		IV210	情報技術論	×	2			○					◎									◎
	理工系基礎科目	IV100	線形代数	○	2	◎													◎			
		IV100	微積分	×	2	◎													◎			
		IV200	確率統計	×	2	◎	○												◎			
		IV100	物理学	×	4	○	◎												◎			
		IV200	基礎化学	×	2	◎													◎			
		IV200	光学入門	×	2			◎											◎			
		IV200	電磁気学基礎	×	2			◎											◎			
	コンピュータ実習科目	IV120	コンピュータリテラシー	×	2	◎														◎		
		IV120	プログラミング実習 1	○	2			◎												◎		
		IV220	プログラミング実習 2	○	2			◎												◎		
		IV220	人工知能プログラミング	×	2			◎												◎		
		IV220	コンピュータシミュレーション	×	2			◎												◎		
		IV220	アドバンストプログラミング	×	2			◎												◎		
	情報科学共通科目	IV230	電気回路	×	2	◎															◎	
		IV230	信号処理	×	2	◎													◎			
		IV130	脳科学	×	2			◎											◎			
		IV230	人工知能	×	2	◎													◎			
		IV330	データ構造とアルゴリズム	×	4			◎											◎			
		IV230	情報理論	×	2	◎													◎			
		IV330	情報通信ネットワーク	×	2	◎													◎			
	AI・計算科学・数理工学分野	IV340	機械学習	×	2				◎												◎	
		IV340	確率的最適化	×	2				◎												◎	
		IV340	自然言語処理	×	2				◎												◎	
		IV340	マルチメディア信号処理	×	2				◎										◎			
		IV340	情報数理工学	×	2				◎										◎			

◎：特に該当するもの ○：該当するもの

科 目 情 報						大学DP												学位プログラムDP			
						自ら考える力			集い力			挑み力			成し遂げ力						
科目区分	学 科 目	グ レード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	学 習 力	思 考 力	探 求 力	関 係 構 築 力	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 力	アイデンティティ獲得	問 題 発 見 力	構 想 力	行 動 力	セルフマネジメント	継 続 力	改善・修正力	知 識 ・ 理 解	汎 用 的 技 能	態 度 ・ 志 向 性	
IV 主 専 攻 科 目	情報計測・可視化分野	IV350	メディカルイメージング	×	2			◎										◎			
		IV250	環境情報科学	×	2		◎											◎			
		IV350	認知科学	×	2		◎											◎			
	自己発展科目	IV260	理工系のTOEIC (R) 入門	×	2					◎											◎
		IV360	理工系のTOEIC (R) 初級	×	2					◎											◎
		IV360	理工系のTOEIC (R) 中級	×	2					◎											◎
	教職科目	IV180	情報と職業	×	2		◎												◎		
		IV281	情報科教育法 1	×	2								◎	○							◎
		IV282	情報科教育法 2	×	2								◎	○							◎
		IV380	科学と倫理	×	2		◎														◎
		IV380	メディア社会論	×	2		◎						○								◎
		IV380	知的財産権法	×	2	◎													◎		

学位プログラムDP	
知識・理解	理学と工学の両面から情報に関する幅広い基礎知識と人工知能、計算科学、数理工学、情報計測・可視化等に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有している。
汎用的技能	情報分野の技術を応用し、時代の多様なニーズに対して理学および工学的な立場から解決策を見出すことができる。
態度・志向性	情報技術者のモラルと使命を理解し、情報分野の理学および工学的な発展に寄与し、社会に貢献することができる。





情報科学科履修モデル

	I・II・III区分科目	理工系基礎科目	情報技術者基礎科目 情報科学基礎科目	コンピュータ実習科目	情報科学共通科目	AI・計算科学・ 数理工学分野科目	情報計測・ 可視化分野科目	自己発展科目	教職課程科目
1 セメ	○生涯スポーツ理論実習 ○英語リスニング&スピーキング ○地域理解 ○国際理解 ○入門ゼミナールA ○健康・フィットネス理論実習 ○シテイズンシップ(現代社会と市民) ○シテイズンシップ(社会参画の意義) ○英語リーディング&ライティング ○入門ゼミナールB	○線形代数 ○微積分	基本情報処理 1	コンピュータリテラシー					
2 セメ		物理学	基本情報処理 2 情報数学	○プログラミング実習 1	脳科学				
3 セメ	○現代文明論	確率統計 基礎化学 光学入門 電磁気学基礎	コンピュータシステム 情報科学通論	○プログラミング実習 2	人工知能 電気回路		環境情報科学		
4 セメ	○現代教養講座		情報技術論	人工知能プログラミング コンピュータシミュレーション アドバンスストプログラミング	信号処理 情報理論			理工系のTOEIC (R) 入門	
5 セメ			○情報科学実験		情報通信ネットワーク データ構造とアルゴリズム	機械学習	メディカルイメージング	理工系のTOEIC (R) 初級	情報科教育法 1 メディア社会論
6 セメ			○情報科学ゼミナール			情報数理工学 自然言語処理 マルチメディア信号処理 確率的最適化	認知科学	理工系のTOEIC (R) 中級	情報科教育法 2 情報と職業
7 セメ			○卒業研究 1						科学と倫理
8 セメ			○卒業研究 2						知的財産権法

# コンピュータ応用工学科の教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

## ■ 教育研究上の目的及び養成する人材像

情報理工学部コンピュータ応用工学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、これからの高度情報化社会、高福祉化社会の技術的基盤として必要とされている、実社会における機器やシステムへコンピュータを高度に応用するための知識と技術を蓄積・開発することにあります。本学科では、「コンピュータ工学」および「知能ロボティクス」の専門的な基礎知識と実践的技術の習得を目指し、グローバル化した社会での急速な技術革新に対して、自らを進歩させ柔軟に対応できる幅広い知識と応用力、リーダーの資質と英語コミュニケーション能力を養い、国際的にも活躍できるような人材を養成することです。

## ■ ディプロマ・ポリシー

情報理工学部コンピュータ応用工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与します。

### 『知識・理解』

情報に関する幅広い基礎知識と「コンピュータ工学」、「知能ロボティクス」に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有する。

### 『汎用的技能』

情報分野に関するソフトウェアおよびハードウェア技術を応用し、時代の多様なニーズに対して情報工学的な解決策を見出すことができる。

### 『態度・志向性』

情報技術者のモラルと使命を理解して、情報分野におけるソフトウェアおよびハードウェア技術の発展に寄与し、社会に貢献することができる。

## ■ カリキュラム・ポリシー

情報理工学部コンピュータ応用工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

### 『教育課程・学修成果』

全体は、基礎科目の上に、各専門分野科目、実験・演習分野科目、教職科目を並列に配し、その上に卒業研究を配置する構成となっています。

初年次において、「コンピュータ工学」、「知能ロボティクス」の各分野に共通する専門基礎知識を修得する為の科目として、「電気電子工学概論」、「コンピュータ工学」等の科目を開講し、情報理工学分野の幅広い知識を身につけさせます。これらには、情報処理技術者試験を中心とする資格取得を念頭に置いた科目も含まれます。その上で、各分野について、より深く学ぶ為の専門科目を高学年に設置します。また、講義科目の理解促進と実践的なスキル向上を目的として、必修の実験科目である「コンピュータ応用実験1・2・3」を開講します。3年時には、2つの専門分野に対して、それぞれテーマを設定した「システム開発演習」を必修科目として開講します。このように、各分野の基礎から専門までを段階的かつ横断的に学べる選択科目および資格取得を意識した英語科目をバランスよく設置します。その集大成として、4年次には「卒業研究1・2」を必修科目として開講し、これらの実践的教育を通して、新しい情報技術を創成する能力やリーダーシップを育成します。

### 『学修成果の評価方法』

コンピュータ応用工学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

## ■ アドミッション・ポリシー

### 『求める学生像』

情報理工学部コンピュータ応用工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

### 『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

#### (1) 知識・技能

情報に関する幅広い基礎知識と「コンピュータ工学」および「知能ロボティクス」に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有することが望ましい。

#### (2) 思考力・判断力・表現力

情報・工学に関する理論およびそれらを活用してシステムを組み立てるために必要な客観的かつ定量的な思考および判断が可能な能力、ならびにその思考や判断を明確に人に伝えるための能力があることが望ましい。

#### (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

学科における実験・実習科目において、教員の指示に従って、他の学生達と円滑にグループワークを進める事のできる協調性および自主性、そして他者の考えを理解し、それを許容できる能力を身につけておくことが望ましい。

情報理工学部 コンピュータ応用工学科

卒業単位数一覧

区 分	科 目 区 分	構 成 授 業 科 目		修得すべき単位数
I	現 代 文 明 論	現 代 文 明 論	必 修 科 目	2
II	現 代 教 養 科 目	基 礎 教 養 科 目	必 修 科 目	4
		発 展 教 養 科 目	必 修 科 目	6
		健 康 ス ポ ー ツ 科 目	必 修 科 目	2
III	英 語 科 目	英語コミュニケーション科目	必 修 科 目	4
IV	主 専 攻 科 目	学 部 共 通 科 目	必 修 科 目	—
			選 択 必 修 科 目	—
			選 択 科 目	—
		学 科 開 講 科 目	必 修 科 目	24
			選 択 必 修 科 目	—
			選 択 科 目	52
V	自 己 学 修 科 目	全 学 共 通 科 目		30
		他 学 部 ・ 他 学 科 科 目		
		副 専 攻 科 目		
		区 分 II の 余 剰 科 目（留学生カリキュラムのみ）		
		区 分 IV の 余 剰 科 目		
合 計				124

VI	卒業単位に含まれない科目	0
----	--------------	---

※ 学科開講科目（選択科目）の余剰科目は、自己学修科目（区分V）に算入されます。

## 2023年度 情報理工学部 区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ カリキュラム表

区分・科目区分	学 科 目	グ レ ード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備 考	他 学 科 生 受 講	副 専 攻 科 目 指 定
						春 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	サ マ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)	秋 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	ウ ィ ン タ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)				
I 現代 文明論	現代文明論	I 200	現代文明論	○	2	1		1					
II 現代教養 科目	基礎教養科目	II 100	入門ゼミナールA	○	2	1		1					
		II 100	入門ゼミナールB	○	2	1		1					
	発展教養科目	II 100	シティズンシップ (現代社会と市民)	○	1	0.5		0.5					
		II 100	シティズンシップ (社会参画の意義)	○	1	0.5		0.5					
		II 100	地域理解	○	1	0.5		0.5					
		II 100	国際理解	○	1	0.5		0.5					
		II 200	現代教養講義	○	2	1		1					
	健康スポーツ 科 目	II 100	健康・フィットネス理論実習	○	1	1		1					
		II 100	生涯スポーツ理論実習	○	1	1	14	1	14		別開講		
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	III 100	英語リスニング&スピーキング	○	2	2		2					
		III 100	英語リーディング&ライティング	○	2	2		2					

## 2023年度 情報理工学部 区分Ⅱ 留学生カリキュラム表

区分・科目区分	学 科 目	グ レ ード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備 考	他 学 科 生 受 講	副 専 攻 科 目 指 定
						春 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	サ マ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)	秋 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	ウ ィ ン タ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)				
II 現代教養 科目	発展教養科目	II 200	現代教養講義	×	2	1		1					
		II 100	アカデミックジャパニーズ	×	2	1		1					
	備 考	区分Ⅱ 現代教養科目：留学生は「現代教養講義」の代替科目として「アカデミックジャパニーズ」を履修することができる。											



# 2023年度 情報理工学部 コンピュータ応用工学科 カリキュラム表

No. 1

科目区分	学科科目	グレードNo.	授業科目名	必修別	単位数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
IV 主 専 攻 科 目	数理科目	IV110	微積分 1	×	2	1							
		IV110	微積分 2	×	2			1					
		IV110	線形代数	×	2	1							
		IV110	物理学	×	4	2							
	外国語科目	IV220	理工系のTOEIC (R) 入門	×	2			1				×	
		IV320	理工系のTOEIC (R) 初級	×	2	1						×	
		IV320	理工系のTOEIC (R) 中級	×	2			1				×	
	専門基礎科目	IV130	電気電子工学概論	○	2	1		1				×	
		IV130	基本情報技術	×	2			1					
		IV130	コンピュータ工学	×	2	1							
		IV130	電気回路 1	×	2			1					
		IV230	電気回路 2	×	2	1							
		IV230	電子回路	×	2	1							
		IV230	ロボット設計工学	×	2	1							
		IV230	離散数学	×	2	1							
		IV230	画像処理	×	2	1							
		IV230	システム数学	×	2	1							
		IV230	計測工学	×	2			1					
	コンピュータシステム科目	IV140	論理回路設計	×	2			1					
		IV240	組込みシステム	×	2			1					
		IV340	ハードウェアプログラミング	×	2	1							
		IV340	コンピュータアーキテクチャ	×	2	1							
		IV340	コンピュータシステム設計	×	2			1					
	情報工学科目	IV250	アルゴリズムとデータ構造	×	2			1				×	
		IV250	コンピュータグラフィックス	×	2			1					
		IV350	情報セキュリティ概論	×	2	1							
		IV350	知能情報処理	×	2	1							
		IV350	ネットワーク工学	×	2			1					
		IV350	デジタル信号処理	×	2			1					
	知能ロボット工学科目	IV260	モデリングとシミュレーション	×	2			1					
		IV260	基礎ロボット工学	×	2			1					
		IV260	CAD設計演習	×	2			1				×	
		IV360	コンピュータビジョン	×	2	1							
		IV360	基礎制御工学	×	2	1							

# 2023年度 情報理工学部 コンピュータ応用工学科 カリキュラム表

No. 2

科目区分	学科科目	グレードNo.	授業科目名	必修別	単位数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
IV 主 専 攻 科 目	工学科目 知能ロボット	IV360	ロボット開発演習	×	2	1						×	
		IV360	システム制御工学	×	2			1					
		IV360	先端ロボット工学	×	2			1					
	実験・演習科目	IV170	プログラミング入門	○	4	同2		同2				×	
		IV270	WEBアプリケーション開発	×	2	1						×	
		IV270	マイコンプログラミング	×	2	1						×	
		IV370	アプリケーション開発	×	2			1				×	
		IV271	コンピュータ応用実験 1	○	2	同2				②3セメ		×	
		IV272	コンピュータ応用実験 2	○	2			同2		②4セメ		×	
		IV371	コンピュータ応用実験 3	○	2	同2				②5セメ		×	
		IV372	システム開発演習	○	2			1		②6セメ		×	
	ゼミ・卒研科目	IV381	コンピュータ応用ゼミナール	○	2	1		1		②6セメ		×	
		IV481	卒業研究 1	○	4	2		2		②7セメ&③卒業に必要な単位数のうち100単位		×	
		IV482	卒業研究 2	○	4	2		2		①IV481		×	
	教職科目	IV190	職業指導	×	4	2		2					
		IV291	工業科教育法 1	×	2	1				①VI101、VI102、VI106、VI107のうち3科目&②5セメ			
		IV292	工業科教育法 2	×	2			1		①VI101、VI102、VI106、VI107のうち3科目&②5セメ			
		IV290	工学概論	×	2			1					

DA

◎：特に該当するもの ○：該当するもの

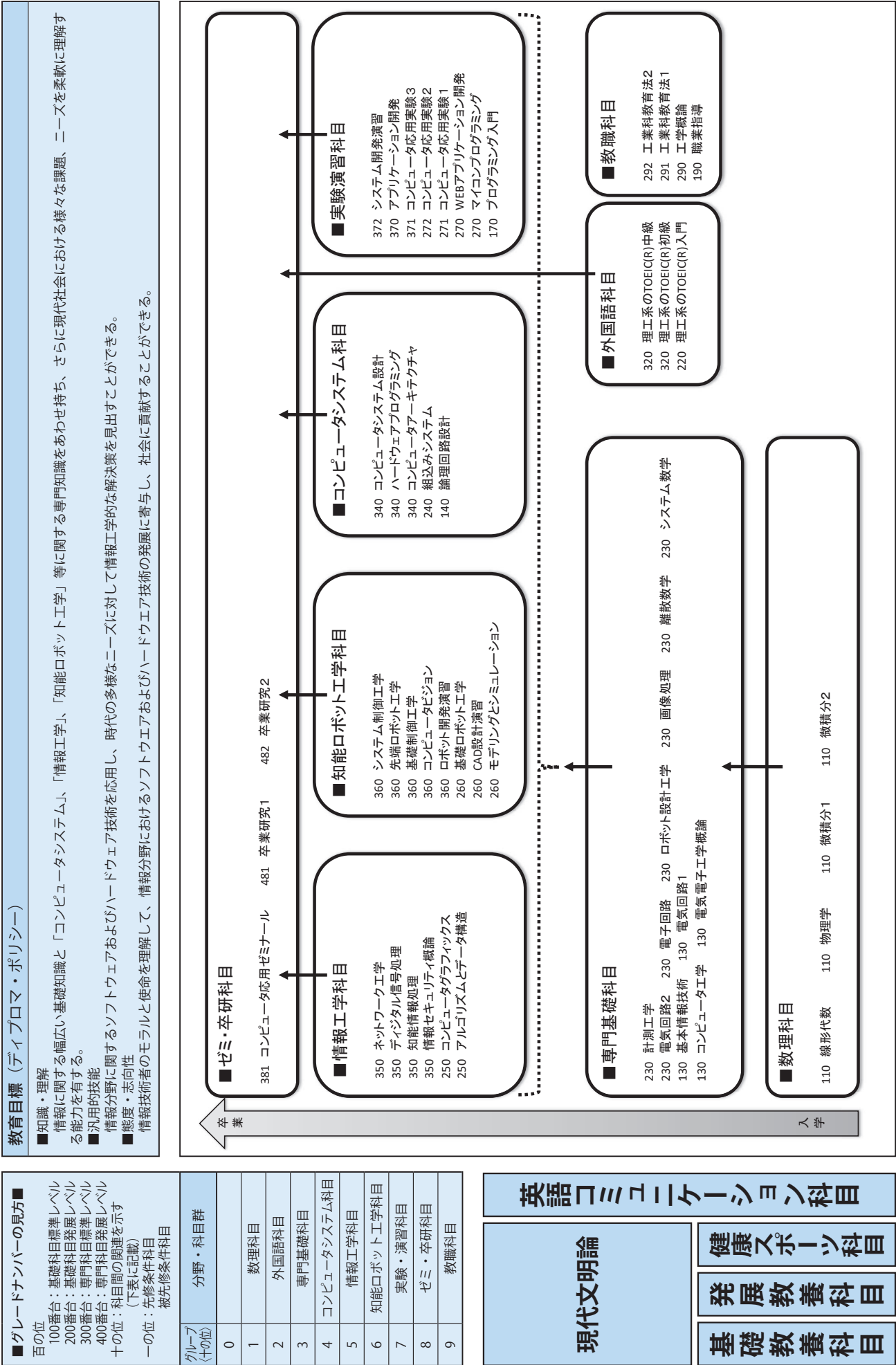
科 目 情 報						大学DP												学位プログラムDP			
						自ら考える力			集い力			挑み力			成し遂げ力						
科 目 区 分	学 科 目	グ レ ード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	学 習 力	思 考 力	探 求 力	関 係 構 築 力	コ ミ ュ ニ ケー ション 力	アイ デ ン テ ィ テ ィ 獲 得	問 題 発 見 力	構 想 力	行 動 力	セ ル フ マ ネ ジ メ ン ト	継 続 力	改 善 ・ 修 正 力	知 識 ・ 理 解	汎 用 的 技 能	態 度 ・ 志 向 性	
IV 主 専 攻 科 目	数 理 科 目	IV110	微積分 1	×	2	◎												◎			
		IV110	微積分 2	×	2	◎												◎			
		IV110	線形代数	×	2	◎												◎			
		IV110	物理学	×	4	◎												◎			
	外 国 語 科 目	IV220	理工系のTOEIC (R) 入門	×	2					◎											◎
		IV320	理工系のTOEIC (R) 初級	×	2					◎											◎
		IV320	理工系のTOEIC (R) 中級	×	2					◎											◎
	専 門 基 礎 科 目	IV130	電気電子工学概論	○	2	◎															◎
		IV130	基本情報技術	×	2	◎											○				◎
		IV130	コンピュータ工学	×	2	◎															◎
		IV130	電気回路 1	×	2	◎															◎
		IV230	電気回路 2	×	2	◎															◎
		IV230	電子回路	×	2	◎										○					◎
		IV230	ロボット設計工学	×	2	◎							○	○							◎
		IV230	離散数学	×	2	◎															◎
		IV230	画像処理	×	2	◎															◎
		IV230	システム数学	×	2	◎															◎
		IV230	計測工学	×	2	◎															◎
	コ ン ピ ユ ー タ シ ス テ ム 科 目	IV140	論理回路設計	×	2		◎												◎		
		IV240	組込みシステム	×	2		◎						○						◎		
		IV340	ハードウェアプログラミング	×	2		◎				○			○					◎		
		IV340	コンピュータアーキテクチャ	×	2		◎											○	◎		
		IV340	コンピュータシステム設計	×	2		◎						○						◎		
	情 報 工 学 科 目	IV250	アルゴリズムとデータ構造	×	2		◎												◎		
		IV250	コンピュータグラフィックス	×	2		◎									○			◎		
		IV350	情報セキュリティ概論	×	2		◎						○						◎		
		IV350	知能情報処理	×	2		◎							○					◎		
		IV350	ネットワーク工学	×	2		◎							○	○				◎		
		IV350	ディジタル信号処理	×	2		◎												◎		
	知 能 ロ ボ ット 工 学 科 目	IV260	モデリングとシミュレーション	×	2		◎												◎		
		IV260	基礎ロボット工学	×	2		◎												◎		
		IV260	CAD設計演習	×	2		◎							○				○	◎		
		IV360	コンピュータビジョン	×	2		◎									○			◎		

◎：特に該当するもの ○：該当するもの

科 目 情 報						大学DP												学位プログラムDP			
						自ら考える力			集い力			挑み力			成し遂げ力						
科目区分	学 科 目	グ レード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	学 習 力	思 考 力	探 求 力	関 係 構 築 力	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 力	アイデンティティ獲得	問 題 発 見 力	構 想 力	行 動 力	セルフマネジメント	継 続 力	改善・修正力	知 識 ・ 理 解	汎 用 的 技 能	態 度 ・ 志 向 性	
IV 主 専 攻 科 目	知能ロボット工学科目	IV360	基礎制御工学	×	2		◎											◎			
		IV360	ロボット開発演習	×	2		◎			○							○		◎		
		IV360	システム制御工学	×	2		◎												◎		
		IV360	先端ロボット工学	×	2		◎					○	○						◎		
	実験・演習科目	IV170	プログラミング入門	○	4			◎							○					◎	
		IV270	WEBアプリケーション開発	×	2			◎							○					◎	
		IV270	マイコンプログラミング	×	2			◎							○					◎	
		IV370	アプリケーション開発	×	2			◎							○					◎	
		IV271	コンピュータ応用実験1	○	2		◎			○										◎	
		IV272	コンピュータ応用実験2	○	2		◎				○									◎	
		IV371	コンピュータ応用実験3	○	2		◎					○								◎	
		IV372	システム開発演習	○	2			◎						○	○			○		◎	
	ゼミ・卒研科目	IV381	コンピュータ応用ゼミナール	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		IV481	卒業研究1	○	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		IV482	卒業研究2	○	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

学位プログラムDP	
知識・理解	情報に関する幅広い基礎知識と「コンピュータシステム」、「情報工学」、「知能ロボット工学」等に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有する。
汎用的技能	情報分野に関するソフトウェアおよびハードウェア技術を応用し、時代の多様なニーズに対して情報工学的な解決策を見出すことができる。
態度・志向性	情報技術者のモラルと使命を理解して、情報分野におけるソフトウェアおよびハードウェア技術の発展に寄与し、社会に貢献することができる。

カリキュラムツリー〈体系図〉 情報理工学部 コンピュータ応用工学科



## 履修モデルについて

本学科では科目間の関連などを考慮し、表1に示す履修モデルに基づいて学習することを推奨する。なお、1つの学期で履修できる上限単位数は20単位であるので、履修モデルの科目以外に他学部・他学科やセンター等が開講する科目を履修することも可能である。自学科での学習に無理が生じないことが前提であるが、有意義に活用して欲しい。科目履修について不明な点は学科の指導教員に相談すること。

## 履修モデルの見かた

必・選の項目に○印がついた科目は必修科目であり、卒業のために必ず単位取得しなければならない。×印の科目は選択科目であり、必ずしも単位取得の必要は無いが、先の卒業単位数一覧にあるように合計124単位以上必要なだけでなく、科目区分ごとに卒業に必要な単位数が設定されているので注意すること。主専攻科目（コンピュータ応用工学科の専門科目）から最低76単位を取得する必要があるため、必修科目24単位以外に少なくとも52単位を主専攻の選択科目から取得する必要がある。履修モデルに基づいて単位取得していれば問題ないが、選択科目を他学部・他学科科目と置き換える場合は注意が必要である。

## 高等学校教諭第一種免許状（工業）を取得する場合

コンピュータ応用工学科では高等学校「工業」の教員免許を取得可能である。免許取得のためには卒業単位124単位の他に、所定の単位（「教職に関する科目」から23単位以上、教科または教職に関する科目合わせて59単位以上）を取得する必要がある。ただし、「教職に関する科目」の単位数の全部または一部を「教科に関する科目」で置き換えることができる。なお、教員免許取得に関連する教職科目の多くは※印のついた随意科目とよばれる科目であり、学期の履修上限20単位に含めない。詳しくは「資格取得等」の教職課程のページを参照すること。



表 1 履修モデル

セメスター									
1				3			5		
科目	必・選	単位数		科目	必・選	単位数	科目	必・選	単位数
入門ゼミナール A	○	2		現代文明論	○	2	ハードウェアプログラミング	×	2
電気電子工学概論	○	2		電気回路 2	×	2	コンピュータアーキテクチャ	×	2
線形代数	×	2		電子回路	×	2	情報セキュリティ概論	×	2
微積分 1	×	2		ロボット設計工学	×	2	知能情報処理	×	2
物理学	×	4		離散数学	×	2	コンピュータビジョン	×	2
コンピュータ工学	×	2		画像処理	×	2	基礎制御工学	×	2
英語リスニング&スピーキング	○	2		システム数学	×	2	ロボット開発演習	×	2
地域理解	○	1		WEB アプリケーション開発	×	2	コンピュータ応用実験 3	○	2
国際理解	○	1		マイコンプログラミング	×	2	理工系の TOEIC (R) 初級	×	2
生涯スポーツ理論実習	○	1		コンピュータ応用実験 1	○	2	自己学習科目	×	2
自己学習科目	×	1							
		20				20			20
									4

春

セメスター									
2				4			6		
科目	必・選	単位数		科目	必・選	単位数	科目	必・選	単位数
入門ゼミナール B	○	2		計測工学	×	2	コンピュータシステム設計	×	2
微積分 2	×	2		組込みシステム	×	2	ネットワーク工学	×	2
基本情報技術	×	2		アルゴリズムとデータ構造	×	2	ディジタル信号処理	×	2
電気回路 1	×	2		コンピュータグラフィックス	×	2	システム制御工学	×	2
論理回路設計	×	2		モデリングとシミュレーション	×	2	先端ロボット工学	×	2
プログラミング入門	○	4		基礎ロボット工学	×	2	アプリケーション開発	×	2
英語リーディング&ライティング	○	2		CAD 設計演習	×	2	システム開発演習	○	2
シティズンシップ (現代社会と市民)	○	1		コンピュータ応用実験 2	○	2	コンピュータ応用ゼミナール	○	2
シティズンシップ (社会参画の意義)	○	1		理工系の TOEIC (R) 入門	×	2	理工系の TOEIC (R) 中級	×	2
健康・フィットネス理論実習	○	1		現代教養講義	○	2	工学概論	×	2
自己学習科目	×	1							
		20				20			20
									4

秋

## 情報メディア学科の教育研究上の目的及び養成する人材像、 3つのポリシー

### ■ 教育研究上の目的及び養成する人材像

情報理工学部情報メディア学科の教育研究上の目的は、大学・学部教育の目的に沿って、日々変化していく技術や新しい価値を捉える力を受容し、社会を支えていく人材を社会に排出することを目指し、「超スマート社会実現のために解決が急務の課題を発見する力」、「情報メディアに関する幅広い知識を用いてその解決方法を創造する力」、「情報メディア技術を駆使して実現、実践する力」を持ち、世界が今後直面するであろう課題を発見し解決していく力を有する人材を養成することです。

### ■ ディプロマ・ポリシー

情報理工学部情報メディア学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（工学）」を授与する。

#### 『知識・理解』

情報に関する幅広い基礎知識と「メディアコンテンツ」、「メディアコミュニケーション」に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有する。

#### 『汎用的技能』

情報メディアに関する技術を応用し、時代の多様なニーズに対応して、課題を発見し、解決策を見出すことができる。

#### 『態度・志向性』

情報技術者として、創造力・実践力・適応力を備え、モラルと使命を理解し、情報メディア分野の発展に寄与して社会に貢献することができる。

### ■ カリキュラム・ポリシー

情報理工学部情報メディア学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

#### 『教育課程・学修成果』

多様化する価値観や学びのスタイルに対応し、課題発見・解決のプロセスや新しい価値の創造をアクティブラーニング形式で初年次から最終学年まで継続的かつ実践的に学ぶ「情報メディアプロジェクト科目」群を柱として配置し、自ら考え解決を目指していく創造力と実践力を養っていく。加えて、情報メディア技術の幅広い知識を身につけるため「メディアコンテンツ系科目」と「メディアコミュニケーション系科目」に関する科目群を設置して幅広い視点の育成を進めていく。また、「コンピュータ基礎・プログラミング科目」群、および「理工系基礎科目」群、情報メディアに関する現状や発展的な内容を把握することを目的とした「情報メディア基盤科目」群、「自己発展科目」群により、確かな基礎力と深い専門性を養い、幅広い視点から問題解決に取り組んでいく創造性と実践力の育成を行う。

#### 『学修成果の評価方法』

情報メディア学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、ルーブリックによる観点別評価、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

### 『求める学生像』

情報理工学部情報メディア学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。及び、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を、身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

### 『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

#### (1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

#### (2) 思考力・判断力・表現力

物事を論理的に志向する力、物事の良し悪しが判断できる力、自分の考えを相手に伝えられる表現力があることが望ましい。

#### (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

他人とグループワークを行なう際などに、相手に自分の考えを伝え、また相手の考えを聞き、ともに1つの目標に協力しようとする態度があることが望ましい。

卒業単位数一覧

区 分	科 目 区 分	構 成 授 業 科 目		修得すべき単位数
I	現 代 文 明 論	現 代 文 明 論	必 修 科 目	2
II	現 代 教 養 科 目	基 礎 教 養 科 目	必 修 科 目	4
		発 展 教 養 科 目	必 修 科 目	6
		健 康 ス ポ ー ツ 科 目	必 修 科 目	2
III	英 語 科 目	英語コミュニケーション科目	必 修 科 目	4
IV	主 専 攻 科 目	学 部 共 通 科 目	必 修 科 目	—
			選 択 必 修 科 目	—
			選 択 科 目	—
		学 科 開 講 科 目	必 修 科 目	16
			選 択 必 修 科 目	—
			選 択 科 目	60
V	自 己 学 修 科 目	全 学 共 通 科 目		30
		他 学 部 ・ 他 学 科 科 目		
		副 専 攻 科 目		
		区 分 II の 余 剰 科 目（留学生カリキュラムのみ）		
		区 分 IV の 余 剰 科 目		
合 計				124

VI	卒業単位に含まれない科目	0
----	--------------	---

※ 学科開講科目（選択科目）の余剰科目は、自己学修科目（区分V）に算入されます。

## 2023年度 情報理工学部 区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ カリキュラム表

区分・科目区分	学 科 目	グ レ ード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備 考	他 学 科 生 受 講	副 専 攻 科 目 指 定
						春 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	サ マ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)	秋 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	ウ ィ ン タ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)				
I 現代 文明論	現代文明論	I 200	現代文明論	○	2	1		1					
II 現代教養 科目	基礎教養科目	II 100	入門ゼミナールA	○	2	1		1					
		II 100	入門ゼミナールB	○	2	1		1					
	発展教養科目	II 100	シティズンシップ (現代社会と市民)	○	1	0.5		0.5					
		II 100	シティズンシップ (社会参画の意義)	○	1	0.5		0.5					
		II 100	地域理解	○	1	0.5		0.5					
		II 100	国際理解	○	1	0.5		0.5					
		II 200	現代教養講義	○	2	1		1					
	健康スポーツ 科 目	II 100	健康・フィットネス理論実習	○	1	1		1					
		II 100	生涯スポーツ理論実習	○	1	1	14	1	14		別開講		
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	III 100	英語リスニング&スピーキング	○	2	2		2					
		III 100	英語リーディング&ライティング	○	2	2		2					

## 2023年度 情報理工学部 区分Ⅱ 留学生カリキュラム表

区分・科目区分	学 科 目	グ レ ード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備 考	他 学 科 生 受 講	副 専 攻 科 目 指 定
						春 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	サ マ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)	秋 学 期 通 常 授 業 期 間 (1週 当 た り の コ マ 数)	ウ ィ ン タ ー セ ッ シ ョ ン (全 コ マ 数)				
II 現代教養 科目	発展教養科目	II 200	現代教養講義	×	2	1		1					
		II 100	アカデミックジャパニーズ	×	2	1		1					
	備 考	区分Ⅱ 現代教養科目：留学生は「現代教養講義」の代替科目として「アカデミックジャパニーズ」を履修することができる。											

# 2023年度 情報理工学部 情報メディア学科 カリキュラム表

No. 1

科目区分	学科 科目	グレード No.	授業科目名	必修 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科 生受講	副専攻 科目指定
						春学期 通常授業期間 (1週当たりの コマ数)	サマー セッション (全コマ数)	秋学期 通常授業期間 (1週当たりの コマ数)	ウィンター セッション (全コマ数)				
IV 主 専 攻 科 目	情報メディアプロジェクト科目	IV150	情報メディアプロジェクト入門	×	2			1				×	
		IV250	情報メディアプロジェクト実践1	×	2	1						×	
		IV250	情報メディアプロジェクト実践2	×	2			1				×	
		IV351	情報メディアゼミナール	○	2	1		1		②6セメ		×	
		IV451	情報メディア卒業プロジェクト1	○	4	2		2		②7セメ&③卒業に必要な 単位数のうち100単位		×	
		IV452	情報メディア卒業プロジェクト2	○	4	2		2		①IV451		×	
	情報メディア基礎科目	IV100	情報メディア概論A	○	2	1							
		IV100	情報メディア概論B	×	2			1					
		IV300	情報メディア社会論	×	2	1							
		IV300	情報メディア先端技術論	×	2			1					
	コンピュータ基礎・プログラミング科目	IV110	情報メディア基礎テクノロジー1	×	2	1						×	
		IV110	情報メディア基礎テクノロジー2	×	2			1				×	
		IV110	コンピュータリテラシー	×	2	1						×	
		IV110	メディアプログラミング基礎	○	2	1		1				×	
		IV110	メディアプログラミング1	○	2	1		1				×	
		IV210	メディアプログラミング2A	×	2	1						×	
		IV210	メディアプログラミング2B	×	2	1						×	
		IV210	AIとデータサイエンス1	×	2			1					
		IV310	AIとデータサイエンス2	×	2	1							
	理工系基礎科目	IV100	自然科学入門	×	2	1							
		IV100	メディア数学基礎	×	2	1							
		IV100	メディア数学A	×	2			1					
		IV100	メディア数学B	×	2			1					
		IV200	メディア数学C	×	2	1							
	メディアコンテンツ系科目	IV220	メディアコンテンツ基本講義・演習A	×	2	1							
		IV220	メディアコンテンツ基本講義・演習B	×	2	1							
		IV220	メディアコンテンツ基幹講義・演習A	×	2			1					
		IV220	メディアコンテンツ基幹講義・演習B	×	2			1					
		IV220	メディアコンテンツ基幹講義・演習C	×	2			1					
		IV321	メディアコンテンツ発展講義・演習A	×	2	1				②5セメ		×	
		IV322	メディアコンテンツ発展講義・演習B	×	2	1				②5セメ		×	
		IV323	メディアコンテンツ発展講義・演習C	×	2	1				②5セメ		×	
		IV324	メディアコンテンツ応用実習	×	2			同2		②6セメ		×	



# 2023年度 情報理工学部 情報メディア学科 カリキュラム表

No. 2

科目区分	学科目	グレード No.	授業科目名	必修 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
IV 主 専 攻 科 目	メディアコミュニケーション系科目	IV230	メディアコミュニケーション基本講義・演習A	×	2	1							
		IV230	メディアコミュニケーション基本講義・演習B	×	2	1							
		IV230	メディアコミュニケーション基幹講義・演習A	×	2			1					
		IV230	メディアコミュニケーション基幹講義・演習B	×	2			1					
		IV331	メディアコミュニケーション発展講義・演習A	×	2	1				②5セメ		×	
		IV332	メディアコミュニケーション発展講義・演習B	×	2	1				②5セメ		×	
		IV333	メディアコミュニケーション応用実習	×	2			同2		②6セメ		×	
	自己発展科目	IV240	理工系のTOEIC (R) 入門	×	2			1					
		IV340	理工系のTOEIC (R) 初級	×	2	1							
		IV340	理工系のTOEIC (R) 中級	×	2			1					
		IV240	プレゼンテーション	×	2	1						×	
		IV341	インターンシップ	×	2			1		②6セメ	インターンシップを含む	×	

◎：特に該当するもの ○：該当するもの

科 目 情 報						大学DP												学位プログラムDP				
						自ら考える力			集い力			挑み力			成し遂げ力							
科目区分	学 科 目	グ レード No.	授 業 科 目 名	必 選 別	単 位 数	学 習 力	思 考 力	探 求 力	関 係 構 築 力	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 力	アイデンティティ獲得	問 題 発 見 力	構 想 力	行 動 力	セルフマネジメント	継 続 力	改善・修正力	知 識 ・ 理 解	汎 用 的 技 能	態 度 ・ 志 向 性		
Ⅳ 主 専 攻 科 目	情報メディアプロジェクト科目	IV150	情報メディアプロジェクト入門	×	2			◎	○						○			◎				
		IV250	情報メディアプロジェクト実践1	×	2						◎	○					○			◎		
		IV250	情報メディアプロジェクト実践2	×	2					○				○	◎			○			◎	
		IV351	情報メディアゼミナール	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		IV451	情報メディア卒業プロジェクト1	○	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		IV452	情報メディア卒業プロジェクト2	○	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	情報メディア基盤科目	IV100	情報メディア概論A	○	2	◎													◎			
		IV100	情報メディア概論B	×	2	◎													◎			
		IV300	情報メディア社会論	×	2		◎						○								◎	
		IV300	情報メディア先端技術論	×	2			◎					○							◎		
	コンピュータ基礎・プログラミング科目	IV110	情報メディア基礎テクノロジー1	×	2	◎													◎			
		IV110	情報メディア基礎テクノロジー2	×	2	◎													◎			
		IV110	コンピュータリテラシー	×	2	◎													◎			
		IV110	メディアプログラミング基礎	○	2		◎												◎			
		IV110	メディアプログラミング1	○	2		◎												◎			
		IV210	メディアプログラミング2 A	×	2		◎	○												◎		
		IV210	メディアプログラミング2 B	×	2		◎	○												◎		
		IV210	AIとデータサイエンス1	×	2		◎	○					○							◎		
		IV310	AIとデータサイエンス2	×	2			◎					○							◎		
	理工系基礎科目	IV100	自然科学入門	×	2	◎													◎			
		IV100	メディア数学基礎	×	2	◎													◎			
		IV100	メディア数学A	×	2	◎													◎			
		IV100	メディア数学B	×	2	◎													◎			
		IV200	メディア数学C	×	2	○	◎												◎			
	メディアコンテンツ系科目	IV220	メディアコンテンツ基本講義・演習A	×	2	◎													◎			
		IV220	メディアコンテンツ基本講義・演習B	×	2	◎													◎			
		IV220	メディアコンテンツ基幹講義・演習A	×	2		◎													◎		
		IV220	メディアコンテンツ基幹講義・演習B	×	2		◎													◎		
		IV220	メディアコンテンツ基幹講義・演習C	×	2		◎													◎		
		IV321	メディアコンテンツ発展講義・演習A	×	2			◎		○		○									◎	
		IV322	メディアコンテンツ発展講義・演習B	×	2			◎		○		○									◎	
		IV323	メディアコンテンツ発展講義・演習C	×	2			◎		○		○									◎	
		IV324	メディアコンテンツ応用実習	×	2			◎		○		○					○				◎	

◎：特に該当するもの ○：該当するもの

科 目 情 報						大学DP												学位プログラムDP		
						自ら考える力			集い力			挑み力			成し遂げ力					
科目区分	学科目	グレード No.	授 業 科 目 名	必修 別	単 位 数	学 習 力	思 考 力	探 求 力	関 係 構 築 力	コ ミュ ニ ケー ション 力	アイ デン ティ ティ 獲得	問 題 発 見 力	構 想 力	行 動 力	セル フ マ ネ ジ メ ン ト	継 続 力	改 善 ・ 修 正 力	知 識 ・ 理 解	汎 用 的 技 能	態 度 ・ 志 向 性
IV 主 専 攻 科 目	メディアコミュニケーション系科目	IV230	メディアコミュニケーション基本講義・演習A	×	2	◎												◎		
		IV230	メディアコミュニケーション基本講義・演習B	×	2	◎												◎		
		IV230	メディアコミュニケーション基幹講義・演習A	×	2		◎													◎
		IV230	メディアコミュニケーション基幹講義・演習B	×	2		◎													◎
		IV331	メディアコミュニケーション発展講義・演習A	×	2		○	◎				○								◎
		IV332	メディアコミュニケーション発展講義・演習B	×	2		○	◎				○								◎
		IV333	メディアコミュニケーション応用実習	×	2			◎		○		○				○				◎
	自己発展科目	IV240	理工系のTOEIC (R) 入門	×	2					◎										◎
		IV340	理工系のTOEIC (R) 初級	×	2					◎										◎
		IV340	理工系のTOEIC (R) 中級	×	2					◎										◎
		IV240	プレゼンテーション	×	2					◎			○					◎		
		IV341	インターンシップ	×	2				○		○			◎	○					◎

学位プログラムDP	
知識・理解	情報に関する幅広い基礎知識と「メディアコンテンツ」、「メディアコミュニケーション」に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有する。
汎用的技能	情報メディアに関する技術を応用し、時代の多様なニーズに対応して、問題を発見し、解決策を見出すことができる。
態度・志向性	情報技術者として、創造力・実践力・適応力を備え、モラルと使命を理解し、情報メディア分野の発展に寄与して社会に貢献することができる。

■グレードナンバーの見方■ 百の位 100番台：基礎科目標準レベル 200番台：基礎科目発展レベル 300番台：専門科目標準レベル 400番台：専門科目発展レベル 十の位：科目間の関連を示す（下表に記載） 一の位：先修条件科目 被先修条件科目	
教育目標（ディプロマ・ポリシー）	
知識・理解： 情報に関する幅広い基礎知識と「メディアコンテンツ」、「メディアコミュニケーション」に関する専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有する。 汎用的技能： 情報メディアに関する技術を応用し、時代の多様なニーズに対応して、問題を発見し、解決策を見出すことができる。 態度・志向性： 情報技術者として、創造力・実践力・適応力を備え、モラルと使命を理解し、情報メディア分野の発展に寄与して社会に貢献することができる。	

情報メディアプロジェクト科目	
452 情報メディア卒業プロジェクト2	
451 情報メディア卒業プロジェクト1	
351 情報メディアゼミナール	
情報メディア基礎科目	
300 情報メディア先端技術論	
300 情報メディア社会論	
メディアコンテンツ系科目	
324 メディアコンテンツ応用実習	
321 メディアコンテンツ 発展講義・演習A	
322 メディアコンテンツ 発展講義・演習B	
323 メディアコンテンツ 発展講義・演習C	
220 メディアコンテンツ 基幹講義・演習A	
220 メディアコンテンツ 基幹講義・演習B	
220 メディアコンテンツ 基幹講義・演習C	
220 メディアコンテンツ 基本講義・演習A	
220 メディアコンテンツ 基本講義・演習B	
メディアコミュニケーション系科目	
333 メディアコミュニケーション 応用実習	
331 メディアコミュニケーション 発展講義・演習A	
332 メディアコミュニケーション 発展講義・演習B	
230 メディアコミュニケーション 基幹講義・演習A	
230 メディアコミュニケーション 基幹講義・演習B	
230 メディアコミュニケーション 基本講義・演習A	
230 メディアコミュニケーション 基本講義・演習B	
自己発展科目	
341 インターンシップ	
340 理工系のTOEIC(R)中級	
340 理工系のTOEIC(R)初級	
240 理工系のTOEIC(R)入門	
240 プレゼンテーション	
理工系基礎科目	
200 メディア数学C	
100 メディア数学A	
100 メディア数学B	
100 メディア数学基礎	
100 情報メディア概論A	
100 情報メディア概論B	
100 自然科学入門	
コンピュータ基礎・プログラミング科目	
310 AIとデータサイエンス2	
210 AIとデータサイエンス1	
210 メディアプログラミング2A	
210 メディアプログラミング2B	
110 メディアプログラミング1	
110 メディアプログラミング基礎	
110 情報メディア 基礎テクノロジ-2	
110 情報メディア 基礎テクノロジ-1	
110 コンピュータリテラシー	
現代文明論	
英語コミュニケーション科目	
健康スポーツ科目	
発展教養科目	
基礎教養科目	

## 2023年度 情報メディア学科履修モデル

区分	科目区分	構成授業科目	1 セメ	2 セメ	3 セメ	4 セメ	5 セメ	6 セメ	7 セメ	8 セメ	単位	
Ⅰ	現代文明論	現代文明論			○現代文明論	2						
		基礎教養科目	○入門ゼミナール A	2	○入門ゼミナール B	2						
Ⅱ	現代教養科目		○地域理解	1	○シティズンシップ (現代社会と市民)	1						
		発展教養科目	○国際理解	1	○シティズンシップ (社会参画の意義)	1	○現代教養講義					
		健康スポーツ科目	○健康・フィットネス 理論実習	1	○生涯スポーツ 理論実習	1						
Ⅲ	英語科目	英語コミュニケーション科目	○英語リーディング & ライティング	2	○英語リスニング &スピーキング	2						
		情報メディアプロジェクト科目	情報メディア概論 A	2	情報メディア概論 B	2	情報メディアプロジェクト実践 1	2	情報メディア プロジェクト実践 2	2	○情報メディア 卒業プロジェクト 1	4
Ⅳ	主専攻科目	情報メディア基礎科目	情報メディア基礎 テクノロジー 1	2	情報メディア基礎 テクノロジー 2	2	AIとデータサイエンス 1	2	情報メディア 先端技術論	2	○情報メディア 卒業プロジェクト 2	4
		コンピュータ基礎・プログラミング科目	○メディア プログラミング基礎	2	○メディア プログラミング 1	2	メディア プログラミング 2A	2				
			コンピュータ リテラシー	2		2	メディア プログラミング 2B	2				
		理工系基礎科目	メディア数学基礎	2	メディア数学 A	2	メディア数学 C	2				
			自然科学入門	2	メディア数学 B	2						
							メディアコンテンツ 基本講義・演習 A	2	メディアコンテンツ 発展講義・演習 A	2	メディアコンテンツ 応用実習	2
		メディアコンテンツ系科目			メディアコンテンツ 基本講義・演習 B	2	メディアコンテンツ 基本講義・演習 B	2	メディアコンテンツ 発展講義・演習 B	2		
							メディアコンテンツ 基礎講義・演習 C	2	メディアコンテンツ 発展講義・演習 C	2		
		メディアコミュニケーション系科目			メディアコミュニケーション A	2	メディアコミュニケーション 基礎講義・演習 A	2	メディアコミュニケーション 発展講義・演習 A	2	メディアコミュニケーション 応用実習	2
					メディアコミュニケーション B	2	メディアコミュニケーション 基礎講義・演習 B	2	メディアコミュニケーション 発展講義・演習 B	2		
Ⅴ	自己学修科目	自己発展科目				理工系の TOEIC(R) 入門	2	理工系の TOEIC(R) 初級	2	理工系の TOEIC(R) 中級	2	
					プレゼンテーション	2		インターンシップ	2			
自身の興味・関心に応じて履修する												

- ・ O が付いている科目は必修科目
- ・ 「現代文明論」は 3 セメスター、もしくは 4 セメスターに開講される (学科ガイダンス時に指示されたセメスターで履修する)
- ・ 「現代教養講義」は 3 セメスター、もしくは 4 セメスターに開講される (学科ガイダンス時に指示されたセメスターで履修する)
- ・ 留学生は「現代教養講義」の代替科目として「アカデミックジャパニーズ」を履修することができる

# V章

## 自己学修科目 カリキュラム表



# 2023年度 自己学修科目 カリキュラム表

科目区分	学科目	グレードNo.	授業科目名	必修別	単位数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間(1週当たりのコマ数)	サマーセッション(全コマ数)	秋学期通常授業期間(1週当たりのコマ数)	ウインターセッション(全コマ数)				
V 自己学修科目	全学共通科目	V200	生命と環境	×	2	1		1					
		V200	文化と自然	×	2	1		1					
		V200	アイデンティティと共生	×	2	1		1					
		V200	構造と変化	×	2	1		1					
		V200	知識とコミュニケーション	×	2	1		1					
		V200	テクノロジーと社会	×	2	1		1					
		V100	プロジェクト実践A	×	2	1		1					
		V100	プロジェクト実践B	×	2	1		1					
		V200	社会的課題の理解と探究A	×	2	1		1					
		V200	社会的課題の理解と探究B	×	2	1		1					
		V200	社会参加の方法と実践A	×	2	1		1					
		V200	社会参加の方法と実践B	×	2	1		1					
		V100	英語スタディスキル	×	1	1		1			リメディアル科目		
		V100	基礎英語A	×	1	1		1			リメディアル科目		
		V100	基礎英語B	×	1	1		1			リメディアル科目		
		V100	基礎英文法A	×	1	1		1			リメディアル科目		
		V100	基礎英文法B	×	1	1		1			リメディアル科目		
		V100	英語ボキャブラリー・ビルディング1	×	1	1		1			リメディアル科目		
		V200	英語ボキャブラリー・ビルディング2	×	1	1		1					
		V100	英語発音トレーニング1	×	1	1		1			リメディアル科目		
		V200	英語発音トレーニング2	×	1	1		1					
		V100	基礎英会話A	×	1	1		1			リメディアル科目		
		V100	基礎英会話B	×	1	1		1			リメディアル科目		
		V200	英語検定2級	×	1	1		1			資格試験科目		
		V200	英語検定準1級	×	1	1		1			資格試験科目		
		V200	TOEIC(R)初級A	×	1	1		1			資格試験科目		
		V200	TOEIC(R)初級B	×	1	1		1			資格試験科目		
		V200	TOEIC(R)中級A	×	1	1		1			資格試験科目		
		V200	TOEIC(R)中級B	×	1	1		1			資格試験科目		
		V200	TOEFL(R)初級A	×	1	1		1			資格試験・留学準備科目		
		V200	TOEFL(R)初級B	×	1	1		1			資格試験・留学準備科目		
		V200	TOEFL(R)中級	×	1	1		1			資格試験・留学準備科目		
		V200	IELTS(R)	×	1	1		1			資格試験・留学準備科目		
		V200	英語グローバル・コミュニケーション初級A	×	1	1		1			CLIL科目		

# 2023年度 自己学修科目 カリキュラム表

科目区分	学科目	グレードNo.	授業科目名	必修別	単位数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
V 自己学修科目	全学共通科目	V200	英語グローバル・コミュニケーション初級B	×	1	1		1			CLIL科目		
		V200	英語グローバル・コミュニケーション中級A	×	1	1		1			CLIL科目		
		V200	英語グローバル・コミュニケーション中級B	×	1	1		1			CLIL科目		
		V200	英語グローバル・コミュニケーション上級A	×	1	1		1			CLIL科目		
		V200	英語グローバル・コミュニケーション上級B	×	1	1		1			CLIL科目		
		V200	英語アカデミック・リテラシー初級A	×	1	1		1			CLIL科目		
		V200	英語アカデミック・リテラシー初級B	×	1	1		1			CLIL科目		
		V200	英語アカデミック・リテラシー中級A	×	1	1		1			CLIL科目		
		V200	英語アカデミック・リテラシー中級B	×	1	1		1			CLIL科目		
		V200	英語アカデミック・リテラシー上級A	×	1	1		1			CLIL科目		
		V200	英語アカデミック・リテラシー上級B	×	1	1		1			CLIL科目		
		V300	英語グローバル・コミュニケーションセミナー	×	2	1		1					X35
		V300	英語アカデミック・リテラシーセミナー	×	2	1		1					X36
		V200	英語ディスカッション1	×	1	1		1					X35
		V200	英語ディスカッション2	×	1	1		1					X35
		V300	英語プレゼンテーション1	×	2	1		1					X35
		V300	英語プレゼンテーション2	×	2	1		1					X35
		V300	英語スピーチ&ディベート1	×	2	1		1					X36
		V300	英語スピーチ&ディベート2	×	2	1		1					X36
		V200	英語通訳基礎	×	2	1		1					
		V300	英語通訳中級	×	2	1		1					X35
		V200	英語圏言語文化理解A	×	2	1		1					X36
		V200	英語圏言語文化理解B	×	2	1		1					X36
		V200	異文化コミュニケーション論A	×	2	1		1					X36
		V200	異文化コミュニケーション論B	×	2	1		1					X36
		V200	コミュニケーションの理論と実践A	×	2	1		1					X35
		V200	コミュニケーションの理論と実践B	×	2	1		1					X35
		V200	社会言語学A	×	2	1		1					X36
		V200	社会言語学B	×	2	1		1					X36
		V200	ドラマで学ぶ英語と文化	×	1	1		1			CLIL科目		X35
		V200	メディアで学ぶ英語と文化	×	1	1		1			CLIL科目		X35
		V300	文学で学ぶ英語と文化	×	2	1		1			CLIL科目		X36
		V300	映画で学ぶ英語と文化	×	2	1		1			CLIL科目		X36
		V200	留学のための英語A	×	2	1		1			留学準備科目		X36

# 2023年度 自己学修科目 カリキュラム表

科目区分	学科科目	グレードNo.	授業科目名	必修別	単位数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
V	自己学修科目	V200	留学のための英語B	×	2	1		1			留学準備科目		X36
		V300	国際人のための英語A	×	2	1		1			CLIL科目		X35
		V300	国際人のための英語B	×	2	1		1			CLIL科目		X35
		V300	ビジネスのための英語A	×	2	1		1			CLIL科目		X35
		V300	ビジネスのための英語B	×	2	1		1			CLIL科目		X35
		V100	中国語圏地域基礎論	×	2	1		1					X37
		V100	中国語入門1 A	×	1	1		1					X37
		V100	中国語入門1 B	×	1	1		1					X37
		V100	中国語入門2 A	×	1	1		1					X37
		V100	中国語入門2 B	×	1	1		1					X37
		V200	中国語初級1 A	×	1	1		1					X37
		V200	中国語初級1 B	×	1	1		1					X37
		V200	中国語初級2 A	×	1	1		1					X37
		V200	中国語初級2 B	×	1	1		1					X37
		V200	中国語会話初級1	×	1	1							X37
		V200	中国語会話初級2	×	1			1					X37
		V200	中国語講読初級1	×	2	1							X37
		V200	中国語講読初級2	×	2			1					X37
		V200	中国語検定初級1	×	1	1							X37
		V200	中国語検定初級2	×	1			1					X37
		V300	中国語会話中級1	×	1	1							X37
		V300	中国語会話中級2	×	1			1					X37
		V300	中国語講読中級1	×	2	1							X37
		V300	中国語講読中級2	×	2			1					X37
		V300	中国語表現法1	×	1	1							X37
		V300	中国語表現法2	×	1			1					X37
		V100	フランス語入門1 A	×	1	1		1					X38
		V100	フランス語入門1 B	×	1	1		1					X38
		V100	フランス語入門2 A	×	1	1		1					X38
		V100	フランス語入門2 B	×	1	1		1					X38
		V200	フランス語初級1 A	×	1	1							X38
		V200	フランス語初級1 B	×	1	1							X38
		V200	フランス語初級2 A	×	1			1					X38
		V200	フランス語初級2 B	×	1			1					X38

# 2023年度 自己学修科目 カリキュラム表

科目区分	学科科目	グレードNo.	授業科目名	必修別	単位数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
V 自己学修科目	全学共通科目	V200	フランス語会話初級1	×	1	1							X38
		V200	フランス語会話初級2	×	1			1					X38
		V200	フランス語講読初級1	×	2	1							X38
		V200	フランス語講読初級2	×	2			1					X38
		V300	フランス語中級1	×	2	1							X38
		V300	フランス語中級2	×	2			1					X38
		V300	フランス語会話中級1	×	1	1							X38
		V300	フランス語会話中級2	×	1			1					X38
		V300	フランス語講読中級1	×	2	1							X38
		V300	フランス語講読中級2	×	2			1					X38
		V200	フランス語検定1	×	1	1							X38
		V200	フランス語検定2	×	1			1					X38
		V300	フランス語表現法1	×	1	1							X38
		V300	フランス語表現法2	×	1			1					X38
		V400	フランス語上級1	×	2	1							X38
		V400	フランス語上級2	×	2			1					X38
		V100	ドイツ語圏地域基礎論	×	2	1		1					X39
		V100	ドイツ語入門1A	×	1	1		1					X39
		V100	ドイツ語入門1B	×	1	1		1					X39
		V100	ドイツ語入門2A	×	1	1		1					X39
		V100	ドイツ語入門2B	×	1	1		1					X39
		V200	ドイツ語初級1A	×	1	1							X39
		V200	ドイツ語初級1B	×	1	1							X39
		V200	ドイツ語初級2A	×	1			1					X39
		V200	ドイツ語初級2B	×	1			1					X39
		V200	ドイツ語会話初級1	×	1	1							X39
		V200	ドイツ語会話初級2	×	1			1					X39
		V200	ドイツ語講読初級1	×	2	1							X39
		V200	ドイツ語講読初級2	×	2			1					X39
		V300	ドイツ語中級1	×	2	1							X39
		V300	ドイツ語中級2	×	2			1					X39
		V300	ドイツ語会話中級1	×	1	1							X39
		V300	ドイツ語会話中級2	×	1			1					X39
		V300	ドイツ語講読中級1	×	2	1							X39

# 2023年度 自己学修科目 カリキュラム表

科目区分	学科科目	グレード No.	授業科目名	必修 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
V 自 己 学 修 科 目	全 学 共 通 科 目	V300	ドイツ語講読中級 2	×	2			1					X39
		V400	ドイツ語上級 1	×	2	1							X39
		V400	ドイツ語上級 2	×	2			1					X39
		V100	韓国語入門 1 A	×	1	1		1					X40
		V100	韓国語入門 1 B	×	1	1		1					X40
		V100	韓国語入門 2 A	×	1	1		1					X40
		V100	韓国語入門 2 B	×	1	1		1					X40
		V200	韓国語初級 1 A	×	1	1							X40
		V200	韓国語初級 1 B	×	1	1							X40
		V200	韓国語初級 2 A	×	1			1					X40
		V200	韓国語初級 2 B	×	1			1					X40
		V200	韓国語会話初級 1	×	1	1							X40
		V200	韓国語会話初級 2	×	1			1					X40
		V200	韓国語講読初級 1	×	2	1							X40
		V200	韓国語講読初級 2	×	2			1					X40
		V300	韓国語中級 1	×	2	1							X40
		V300	韓国語中級 2	×	2			1					X40
		V300	韓国語会話中級 1	×	1	1							X40
		V300	韓国語会話中級 2	×	1			1					X40
		V300	韓国語講読中級 1	×	2	1							X40
		V300	韓国語講読中級 2	×	2			1					X40
		V100	ロシア語入門 1 A	×	1	1							X41
		V100	ロシア語入門 1 B	×	1	1							X41
		V100	ロシア語入門 2 A	×	1			1					X41
		V100	ロシア語入門 2 B	×	1			1					X41
		V200	ロシア語初級 1 A	×	1	1							X41
		V200	ロシア語初級 1 B	×	1	1							X41
		V200	ロシア語初級 2 A	×	1			1					X41
		V200	ロシア語初級 2 B	×	1			1					X41
		V200	ロシア語会話初級 1	×	1	1							X41
		V200	ロシア語会話初級 2	×	1			1					X41
		V200	ロシア語講読初級 1	×	2	1							X41
		V200	ロシア語講読初級 2	×	2			1					X41
		V300	ロシア語中級 1	×	2	1							X41

# 2023年度 自己学修科目 カリキュラム表

科目区分	学科目	グレードNo.	授業科目名	必修別	単位数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
V 自己学修科目	全学共通科目	V300	ロシア語中級2	×	2			1					X41
		V300	ロシア語会話中級1	×	1	1							X41
		V300	ロシア語会話中級2	×	1			1					X41
		V300	ロシア語講読中級1	×	2	1							X41
		V300	ロシア語講読中級2	×	2			1					X41
		V100	スペイン語圏地域基礎論	×	2	1	14	1	14		別開講		X42
		V100	スペイン語入門1 A	×	1	1	14	1	14		別開講		X42
		V100	スペイン語入門1 B	×	1	1	14	1	14		別開講		X42
		V100	スペイン語入門2 A	×	1	1	14	1	14		別開講		X42
		V100	スペイン語入門2 B	×	1	1	14	1	14		別開講		X42
		V200	スペイン語初級1 A	×	1	1							X42
		V200	スペイン語初級1 B	×	1	1							X42
		V200	スペイン語初級2 A	×	1			1					X42
		V200	スペイン語初級2 B	×	1			1					X42
		V200	スペイン語会話初級1	×	1	1	14						X42
		V200	スペイン語会話初級2	×	1			1	14				X42
		V200	スペイン語講読初級1	×	2	1	14						X42
		V200	スペイン語講読初級2	×	2			1	14				X42
		V200	スペイン語検定1	×	1	1	14						X42
		V200	スペイン語検定2	×	1			1	14				X42
		V300	スペイン語中級1	×	2	1							X42
		V300	スペイン語中級2	×	2			1					X42
		V300	スペイン語会話中級1	×	1	1							X42
		V300	スペイン語会話中級2	×	1			1					X42
		V300	スペイン語講読中級1	×	2	1							X42
		V300	スペイン語講読中級2	×	2			1					X42
		V400	スペイン語上級1	×	2	1							X42
		V400	スペイン語上級2	×	2			1					X42
		V100	イタリア語入門1 A	×	1	1		1					
		V100	イタリア語入門1 B	×	1	1		1					
		V100	イタリア語入門2 A	×	1	1		1					
		V100	イタリア語入門2 B	×	1	1		1					
		V200	イタリア語初級1 A	×	1	1							
		V200	イタリア語初級1 B	×	1	1							



# 2023年度 自己学修科目 カリキュラム表

科目区分	学科科目	グレードNo.	授業科目名	必修別	単位数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
V 自己学修科目	全学共通科目	V200	イタリア語初級2 A	×	1			1					
		V200	イタリア語初級2 B	×	1			1					
		V100	タイ語入門1 A	×	1	1		1					
		V100	タイ語入門1 B	×	1	1		1					
		V100	タイ語入門2 A	×	1			1					
		V100	タイ語入門2 B	×	1			1					
		V100	インドネシア語入門1 A	×	1	1		1					
		V100	インドネシア語入門1 B	×	1	1		1					
		V100	インドネシア語入門2 A	×	1			1					
		V100	インドネシア語入門2 B	×	1			1					
		V100	日本語教育法概論A	×	2	1		1					X43
		V100	日本語教育法概論B	×	2	1		1					X43
		V200	現代日本語文法A	×	2	1		1					X43
		V200	現代日本語文法B	×	2	1		1					X43
		V200	日本語音声学	×	2	1							X43
		V200	日本語語彙論	×	2			1					X43
		V200	日本語教育方法論	×	2			1					X43
		V200	日本語授業研究	×	2	1							X43
		V200	日本文化概論	×	2	1							X43
		V200	日本語と教育A	×	2	1							X43
		V300	日本語と教育B	×	2	1							X43
		V300	日本語と教育C	×	2			1					X43
		V300	日本語教育演習	×	2			1					X43
		V300	言語学入門	×	2			1					X43
		V300	第二言語習得研究	×	2			1					X43
		V100	総合日本語	×	2			1			留学生科目		
		V100	日本の文化・社会	×	2	1					留学生科目		
		V100	世界と日本	×	2			1			留学生科目		
		V100	海外研修航海実習	×	4						海外渡航		
		V100	実践日本語1－1 A	※	1	1							
		V100	実践日本語1－2 A	※	1	1							
		V100	実践日本語1－3 A	※	1	1							
		V100	実践日本語1－4 A	※	1	1							
		V100	実践日本語1－5 A	※	1	1							

# 2023年度 自己学修科目 カリキュラム表

科目区分	学科目	グレード No.	授業科目名	必修 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備 考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
V 自 己 学 修 科 目	全 学 共 通 科 目	V100	実践日本語 1－6 A	※	1	1							
		V100	日本語聴解 1－1 A	※	1	1							
		V100	日本語聴解 1－2 A	※	1	1							
		V100	日本語読解・作文 1 A	※	1	1							
		V100	日本語プレゼンテーション 1 A	※	1	1							
		V100	実践日本語 1－1 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 1－2 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 1－3 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 1－4 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 1－5 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 1－6 B	※	1			1					
		V100	日本語聴解 1－1 B	※	1			1					
		V100	日本語聴解 1－2 B	※	1			1					
		V100	日本語読解・作文 1 B	※	1			1					
		V100	日本語プレゼンテーション 1 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 2－1 A	※	1	1							
		V100	実践日本語 2－2 A	※	1	1							
		V100	実践日本語 2－3 A	※	1	1							
		V100	実践日本語 2－4 A	※	1	1							
		V100	実践日本語 2－5 A	※	1	1							
		V100	実践日本語 2－6 A	※	1	1							
		V100	日本語聴解 2－1 A	※	1	1							
		V100	日本語聴解 2－2 A	※	1	1							
		V100	日本語読解・作文 2 A	※	1	1							
		V100	日本語プレゼンテーション 2 A	※	1	1							
		V100	実践日本語 2－1 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 2－2 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 2－3 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 2－4 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 2－5 B	※	1			1					
		V100	実践日本語 2－6 B	※	1			1					
		V100	日本語聴解 2－1 B	※	1			1					
		V100	日本語聴解 2－2 B	※	1			1					
		V100	日本語読解・作文 2 B	※	1			1					

# 2023年度 自己学修科目 カリキュラム表

科目区分	学科目	グレード No.	授業科目名	必修 別	単 位 数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	副専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
V 自 己 学 修 科 目	全 学 共 通 科 目	V100	日本語プレゼンテーション2 B	※	1			1					
		V100	実践日本語3-1 A	※	1	1							
		V100	実践日本語3-2 A	※	1	1							
		V100	実践日本語3-3 A	※	1	1							
		V100	実践日本語3-4 A	※	1	1							
		V100	実践日本語3-5 A	※	1	1							
		V100	実践日本語3-6 A	※	1	1							
		V100	日本語聴解3-1 A	※	1	1							
		V100	日本語聴解3-2 A	※	1	1							
		V100	日本語読解・作文3 A	※	1	1							
		V100	日本語プレゼンテーション3 A	※	1	1							
		V100	実践日本語3-1 B	※	1			1					
		V100	実践日本語3-2 B	※	1			1					
		V100	実践日本語3-3 B	※	1			1					
		V100	実践日本語3-4 B	※	1			1					
		V100	実践日本語3-5 B	※	1			1					
		V100	実践日本語3-6 B	※	1			1					
		V100	日本語聴解3-1 B	※	1			1					
		V100	日本語聴解3-2 B	※	1			1					
		V100	日本語読解・作文3 B	※	1			1					
		V100	日本語プレゼンテーション3 B	※	1			1					
		V100	実践日本語4 A	※	1	1							
		V100	実践日本語4 B	※	1			1					
		V200	健康・スポーツ概論A	×	2	1		1					
		V200	健康・スポーツ概論B	×	2	1		1					
		V200	健康スポーツ1	×	1	1	14	1	14		別開講		
		V200	健康スポーツ2	×	1	1	14	1	14		別開講		
		V300	健康スポーツ3	×	1	1	14	1	14		別開講		
		V300	健康スポーツ4	×	1	1	14	1	14		別開講		
		V200	海外アウトドアスポーツ1	×	2		28		28		海外渡航		
		V200	海外アウトドアスポーツ2	×	2		28		28		海外渡航		
		V200	時事ニュース研究A	×	2	1							X12
		V200	時事ニュース研究B	×	2			1					X12
		V300	ニュース原稿作成A	×	2	1							X12

# 2023年度 自己学修科目 カリキュラム表

科目区分	学科目	グレードNo.	授業科目名	必修別	単位数	開講期間				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備考	他学科生受講	専攻科目指定
						春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)				
V 自己学修科目	全学共通科目	V300	ニュース原稿作成B	×	2			1					X12
		V200	ジャーナリズム入門A	×	2	1							X12
		V200	ジャーナリズム入門B	×	2			1					X12
		V300	ジャーナリズム研究A	×	2	1							X12
		V300	ジャーナリズム研究B	×	2			1					X12
		V300	ジャーナリズム・ゼミナールA	×	2	1							X12
		V300	ジャーナリズム・ゼミナールB	×	2			1					X12
		V100	社会情報概論	×	2	1		1					X44
		V100	情報セキュリティ概論	×	2	1		1					X44
		V100	情報テクノロジー概論	×	2	1		1					X44
		V100	データサイエンス入門	×	2	1		1					X44
		V200	データサイエンス基礎	×	2	1		1					X44
		V200	人工知能	×	2	1		1					X44
		V100	プログラミング基礎	×	2	1		1					X44
		V200	プログラミング応用	×	2	1		1					X44
		V300	社会情報実践	×	2	1		1					X44
		V100	自然科学入門	×	2	1		1					
		V100	自然科学演習	×	2	1		1					
		V100	海洋政策	×	2	1		1					
		V100	海洋経済論	×	2	1		1					
		V100	海洋レクリエーション論	×	2	1		1					
		V100	海洋スポーツ概論	×	2	1		1					
		V100	海洋スポーツ実習A	×	1	1	14	1	14		「別開講」		
		V100	海洋スポーツ実習B	×	1	1	14	1	14		「別開講」		
		V100	潜水概論	×	2	1		1					
		V100	応急処置法	×	2	1		1					
		V100	基礎からの数学	×	1	1		1					
		V100	基礎からの物理	×	1	1		1					
		V100	基礎からの化学	×	1	1		1					
		V100	基礎からの生物	×	1	1		1					
		V100	基礎からの地学	×	1	1		1					
		V100	情報リテラシーA	×	2	1		1					
		V100	情報リテラシーB	×	2	1		1					
		V100	日本国憲法	×	2	1		1					

# VI章

## 資格取得等

## 1 教職課程

教職課程とは、教員を目指す学生が教員免許状の取得のために履修する課程で、国の定める「教育職員免許法」（以下「免許法」）及び「教育職員免許施行規則」に基づいて設置しています。中学校と高等学校の教員免許状を取得するためには、各学部学科等で定められた卒業に必要な単位のほかに、教職課程の科目として指定された科目の単位を修得しなければなりません。

教員の仕事は、教科の指導だけでなく、特別活動や道德教育、総合的な学習（探究）の時間などの指導も行います。また、教員は、生徒との日常的な指導や支援をとおして、全人格に関わる仕事でもあります。教員免許状の取得を希望する学生は、教職課程の履修を通じて、教員の仕事に求められる資質や能力を身につけなければなりません。

そのためには、第一に、各自の専門教科の内容についての理解を深め、教科の専門家としての知識や技能を身につける必要があります。これは、中学校や高等学校で扱う教科書レベルの知識・技能の背後にある専門的な知見を学び、深い教材理解を伴った教員になるために大切な内容です。

第二に、学校や教員の仕事、子どもの発達や心理などについて学び、教育の専門家としての知識や技能を高める必要があります。教員の仕事は、授業はもちろん、学級経営や生徒指導・支援など、多岐に及びます。教職科目は、それらの教員の様々な専門性について学び、皆さん自身の教育観や教師観を鍛えていくために大切な内容です。

教職課程の科目として指定された科目の単位をすべて修得すれば教員免許状を取得することができますが、実際に教員になるためには、教員採用試験に合格し、教員として採用されなければなりません。将来、教員になりたいと考えている人は1年次から計画的に科目を履修し、教員に求められる力を身につけていく必要があります。

### 1 取得できる免許状及び教科の種類

●湘南校舎の在籍学科で取得できる免許状及び教科の種類は次表のとおりです。

学部・学科・専攻		免許状の種類	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
文学部	文 明 学 科		社 会	公 民
	歴 史 学 科 日 本 史 専 攻		社 会	地 理 歴 史
	歴 史 学 科 西 洋 史 専 攻			
	歴 史 学 科 考 古 学 専 攻			
文化社会学部	日 本 文 学 学 科		国 語	国 語
	英 語 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科		外 国 語（英 語）	外 国 語（英 語）
文化社会学部	ア ジ ア 学 科		社 会	地 理 歴 史
	ヨ ロ ッ パ ・ ア メ リ カ 学 科			
体育学部	広 報 メ デ ィ ア 学 科		社 会	公 民
	心 理 ・ 社 会 学 科			
	体 育 学 科		保 健 体 育	保 健 体 育
	競 技 ス ポ ー ツ 学 科			
理学部	武 道 学 科			
	生 涯 ス ポ ー ツ 学 科			
	ス ポ ー ツ ・ レ ジ ャ ー マ ネ ジ メ ン ト 学 科			
情報理工学部	数 学 学 科		数 学	数 学
	情 報 数 理 学 科			数 情 学 報
	物 理 学 科		理 科	理 科
工学部	情 報 科 学 科			情 報
	コ ン ピ ュ ー タ 応 用 工 学 科			工 業
工学部	生 物 工 学 科		理 科	理 科
	応 用 化 学 科			

## ② 教職課程の主なガイダンスや手続きについて

※ガイダンスの実施内容や日程などは、TIPS で案内しますので、必ず確認してください。

### 1 年次（第 1 セメスター・第 2 セメスター）

4 月

#### ●教職課程ガイダンス

履修・介護等体験・教育実習の概要を説明します。必ず「授業要覧」を持参して出席してください。

#### ●取得予定資格申請（Tokai Information Portal Site）

教職課程の履修にあたって、科目の履修登録の他に、Tokai Information Portal Site（TIPS）から取得予定資格申請を行ってください。登録方法は別途指示があります。

### 2 年次（第 3 セメスター・第 4 セメスター）

4 月

#### ●履修カルテガイダンス

教職課程を履修する学生には「履修カルテ」を作成することが義務づけられています。

11 月

#### ●介護等体験申込ガイダンス

「中学校教諭一種免許状」の取得には介護等体験が必須です。申し込み方法等の詳細について説明します。介護等体験については【1 教職課程 — ③「教員免許状」を取得するために必要な要件及び単位数について】を参照してください。

### 3 年次（第 5 セメスター・第 6 セメスター）

4 月

#### ●教育実習受講許可の確認

「教育実習 1」及び「教育実習 2」の履修予定者は、在籍学科から受講が許可されているかを確認してください。

#### ●「教育実習 1」（全員）及び「教育実習 2」（中学校免許状取得希望者）の履修登録

受講が許可されたら、必ず第 5 セメスターで履修登録を行ってください。

教育実習については【1 教職課程 — ④教育実習】を参照してください。

#### ●教育実習校の選定・手続き

教育実習事前指導（第 1 回）での説明に沿って、教育実習校の選定に関する手続きが始まります。滞りなく手続きが行えなければ失格となります。

### 4 年次（第 7 セメスター・第 8 セメスター）

4 月

#### ●教育実習受講手続

教育実習の本実習に向けての手続きが始まります。主に「調査書・誓約書」の提出、実習費の納入を行います。詳細については、事前指導で説明があります。

#### ※教員免許状一括申請申し込み

大学が学生から免許状申請書類をとりまとめて、免許状の事前審査申請をすることができます。

（申し込みのあった学生のみ。申し込みしない学生は各都道府県教育委員会での個人申請となります。）

詳細は【1 教職課程 — ⑦「教員免許状」の授与について】を参照してください。

5 月～

#### ●教育実習本実習

受入承諾書（一般校）及び派遣通知書（指定校）の日程をもとに、各自、教育実習を行います。

3 月

#### ●「教育実習 1」「教育実習 2」の成績確認

第 5 セメスターで履修登録した「教育実習 1」「教育実習 2」は、事後指導終了後に成績が確定します。

#### ※教員免許状の受領

「一括申請」の手続きを行った学生は、学位授与式の日に教員免許状が授与されます。



### ③「教員免許状」を取得するために必要な要件及び単位数について

本学において「教員免許状」を取得するためには、以下のとおり、「免許法」で定められた基礎資格が必要であり、さらに定められた科目についての単位を修得しなければなりません。したがって、次表の教員免許状の種類・修得条件に従い、修得要件の説明をよく理解することが必要になります。

修得要件		免許状の種類	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
基礎資格			学士の学位を有する（大学を卒業する）こと	
教科に関する科目			22単位以上	30単位以上
教職に関する科目			37単位以上	29単位以上
教科に関する科目・教職に関する科目 以外で定められた科目	日本国憲法		2単位	2単位
	体育		2単位	2単位
	外国語コミュニケーション		2単位	2単位
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		2単位	2単位
介護等体験			必要	

「中学校教諭一種免許状（中一種）」と「高等学校教諭一種免許状（高一種）」では、必要とされる単位数が異なりますが、近年、中・高一貫校が増加しているのが現状です。また、教員採用試験では、中・高の免許状を取得要件とする場合もありますので、両方の免許状を取得することが望ましいです。

#### ●教科に関する科目

各学科によって設定科目及び修得すべき単位数が異なります。後記の別表①に示す表の法定科目区分に基づいて、中一種は22単位以上、高一種は30単位以上を修得。

#### ●教職に関する科目

免許状の種類によって一部設定科目及び修得すべき単位数が異なります。後記の別表②に示す表に基づいて、中一種は37単位以上、高一種は29単位以上を修得。

第4セメスター終了までに指定科目の単位を修得し、かつ、在籍学科から教育実習の許可を得ていることが教育実習受講の条件になります。教育実習受講の条件については【[7 教育実習の受講資格](#)】のページをご覧ください。

#### ●教科に関する科目・教職に関する科目以外で定められた科目

【[日本国憲法](#)】：自分の所属する学科・専攻に開講される、自己学修科目の「[日本国憲法](#)」（2単位）を修得。

【[体育](#)】：自分の所属する学科・専攻に開講される、現代教養科目の健康スポーツ科目「[健康・フィットネス理論実習](#)」（1単位）と「[生涯スポーツ理論実習](#)」（1単位）を修得。

【[外国語コミュニケーション](#)】：国際社会で対応できる能力の育成を目的に設置された科目です。自分の所属する学科・専攻に開講される、英語コミュニケーション科目の「[英語リスニング&スピーキング](#)」（2単位）を修得。

【[数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作](#)】：コンピュータの基礎的な操作能力を身につけることを目的として設置された科目です。自分の所属する学科・専攻に開講される、次表の科目を修得。

学 部	学科・専攻	科 目 名	単 位
情報理工学部	情 報 科 学 科	コンピュータシステム	2
	コ ン プ ュ ー タ 応 用 工 学 科	コンピュータ工学	2

#### ●介護等体験

「[中学校教諭一種免許状](#)」を取得する者には、1998年度よりこの体験が義務づけられています。本学では、社会福祉施設及び特別支援学校での「障害者、高齢者等に対する介護、介助並びに交流等の体験」を内容とし、体験期間は7日間としています。

概要は「[教職課程ガイダンス](#)」で説明しますが、基本的に本学では3年次生を対象に実施します。申し込み方法等の詳細は2年次11月（予定）に行う「[介護等体験申込ガイダンス](#)」で説明します。このガイダンスに出席し、3年次4月に所定の手続きを行わなければ体験はできません。ただし、2年次に手続きできなかった場合は、3年次にガイダンスに出席し、4年次で体験することも可能です。

なお、介護等体験の事前ガイダンスで課されたレポートの不合格の者は、介護等体験を行うことができません。

## 4 教育実習

### (1) 教育実習とは何か？

教員免許状を取得するためには、「教育実習」に関する授業科目の単位を修得しなければなりません。中学校や高等学校で行う教育実習は「本実習」といい、「教育実習」の一部にすぎません。「教育実習」とは、以下に述べる「事前指導」、「本実習」、「事後指導」を含めた全体のことを指しています。

「本実習」では、中学校や高等学校での教育活動に参画することになります。そのため、事前に準備をする必要があります。この事前準備のための授業が「事前指導」です。また、「本実習」終了後には、経験を振り返り、さらに学びを深めることが必要になります。この振り返りのための授業が「事後指導」です。これらの意義は次の通りです。

#### ・「事前指導」

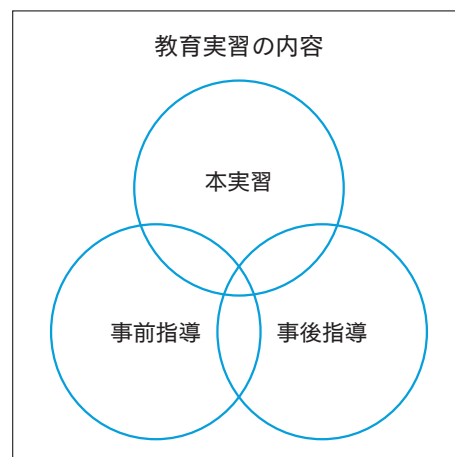
「本実習」の事前準備として、教育実習の意義や心構え、留意点等について学び、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。

#### ・「本実習」

中学校・高等学校等において実際に教育活動にたずさわり、教員の職務を体験する。

#### ・「事後指導」

「本実習」終了後に、「本実習」で得られた経験や知識を振り返り、教員免許状取得までに修得することが必要な知識や技能等について省察する。



### (2) 「教育実習1」と「教育実習2」について

#### ① 免許状の種類と必要な単位数

「教育実習」に関する授業科目は、東海大学では「教育実習1」（3単位）、「教育実習2」（2単位）として開講しています。ただし、以下のように、取得を希望する教員免許状の種類によって単位修得すべき授業科目が異なります。注意してください。

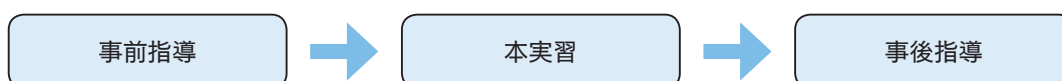
免許状の種類 \ 単位修得が必要な授業科目	教育実習1	教育実習2
中学校教諭一種免許状のみ	○	○
中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状	○	○
高等学校教諭一種免許状のみ	○	×

#### ② 履修について

「教育実習1」と「教育実習2」の履修にあたっては、所属する学科から受講許可を得ていること、大学が定めている要件を充たしていることが必要になります（「教育実習の受講資格」を参照のこと）。

「教育実習1」と「教育実習2」は2年間にわたって履修する授業科目です。したがって、「本実習」の前年度春学期で履修登録しなければなりません（4年で卒業し、卒業と同時に免許状を取得する場合には、第5セメスターで履修登録する必要があります）。

#### 教育実習1・教育実習2の流れ



1年目には、「事前指導」を行います。実習校の選定や実習形態（時期・期間等）、「本実習」の手続き等の詳細も「事前指導」で説明します。「事前指導」はすべての授業（全10回）に出席する必要があります。やむを得ない事情

で欠席となる場合は、必ずティーチングクオリフィケーションセンターで手続きが必要です。

2年目には「本実習」と「事後指導」を行います。2年目の履修を継続するためには、「事前指導」として行われるすべての授業に出席することが必要です。また、2年目の継続履修あたっては、修得すべき単位も定められているので、注意してください。

なお、「事前指導」と「事後指導」を正当な理由なく欠席した場合には、「教育実習1」・「教育実習2」の単位を修得することができません。また、「本実習」を実施する年度に正当な理由なく「本実習」を中止した場合には、東海大学の学生として教育実習を行う資格を永久に失いますので、注意してください。

## 5 教職実践演習（中・高）

「教職実践演習（中・高）」は、教職課程の総仕上げとして、教職課程で履修した各科目や教育実習、教職課程外での様々な活動等を振り返り、それらを通じて得た知識や体験が教員として最小限必要な資質の形成につながっているかどうかを最終確認するための授業科目です。履修の時期は、科目の目的から、原則として、実習校での教育実習を行なう年度に限ります。

また、当該学期までに、教員免許状の取得に必要な要件を充たす者（教員免許状の取得に必要な単位をすべて修得できる者）でなければ、「教職実践演習（中・高）」の履修はできません。

## 6 教育実習の受講資格

教育実習（「教育実習1」、「教育実習2」）を受講する者は、1）～7）までの要件を満たさなければなりません。

- 1）当該教育実習を開講する学科・専攻・課程に在籍していること。
- 2）教員となることを第一希望としていること。
- 3）「中学校教諭一種免許状」、「高等学校教諭一種免許状」のどちらか、あるいは両方を取得する見込があること。
- 4）「教職論」の単位を修得していること。（本科目の中で教職基礎学力テスト実施。第4セメスターまでに修得していること）
- 5）在籍学科で定めている教育実習受講許可基準を確認すること。

●受講許可は、学力、人物の両方において教育実習生として適格と認められた者に限られます。したがって日頃から真面目で誠実な態度や行動、学習姿勢を心がけておくこと。なお、受講許可は、許可・不許可に分けられ、在籍学科から通知されます。

- 6）第6セメスター終了までに、次の科目を修得していること。未修得の場合は教育実習の履修を継続することはできない。
  - ・「教育実習1」は「教育課程論」「教科教育法1」「教科教育法2」「総合的な学習の時間の指導法」「特別活動論」「教育方法論」「生徒指導及び進路指導論」「教育相談」を修得していること。
  - ・「教育実習2」は、「教育実習1」の継続履修に必要な科目に加えて、「教科教材論」「教科教育実践論」「道徳教育論」を修得していること。
- 7）次のいずれにも該当しないこと。
  - ・定期試験などにおいて不正行為をした者、又は停学、戒告などの処分を受けた者
  - ・伝染のおそれのある疾病を発病し、治療中である者
  - ・実習校の正常な教育活動を妨げるおそれのある者

## 7 「教員免許状」の授与について

「教員免許状」を取得しようとする場合、「免許法」で定められた科目の単位を修得した上で、大学において一括申請をするか、卒業後に、居住している都道府県教育委員会に個人申請するかの2つの方法があります。

### 【一括申請】

大学が免許状申請書類をとりまとめて神奈川県教育委員会に免許状授与の事前審査申請（一括申請）をすることで、学位授与式（卒業式）当日に免許状が授与されます。

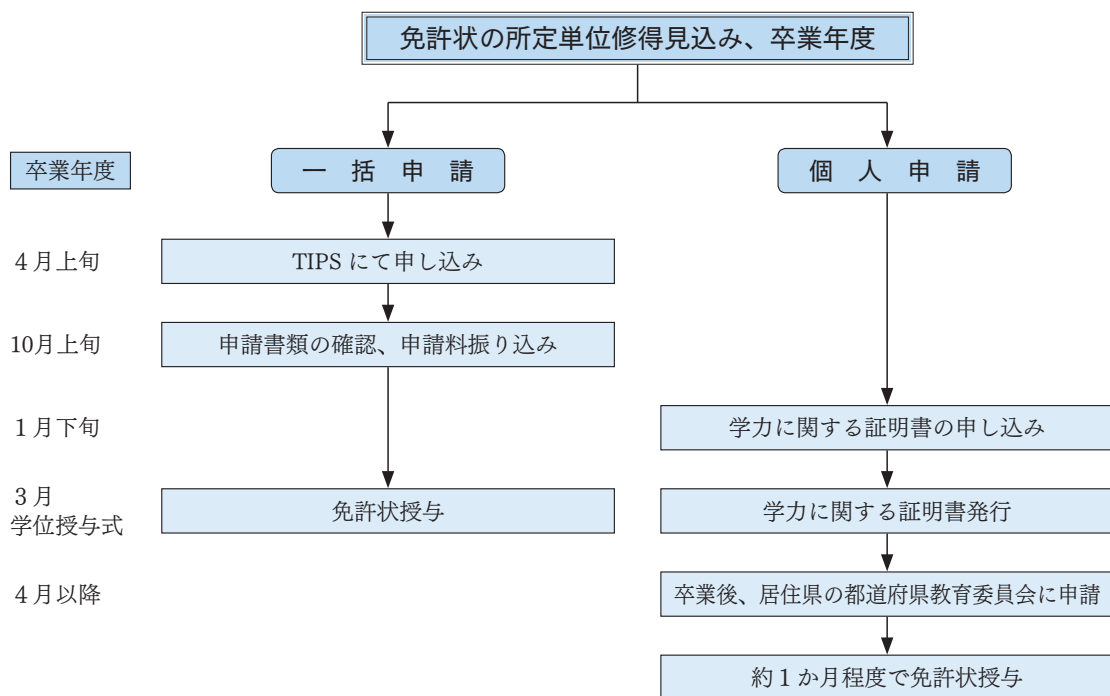
### 【個人申請】

卒業後に自分の居住する都道府県教育委員会に個人で申請することです。

申請手続の方法・必要書類は各都道府県教育委員会に申請期間や必要書類等を事前に確認しておいてください。

申請書類には、必ず「学力に関する証明書」が必要となりますので、ティーチングオリフィケーションセンターで申し込みをしてください。

また、9月に卒業予定の場合は一括申請ができないので、上記同様に個人申請となります。



## 8 その他

卒業までに「教員免許状」を取得するための単位が不足している場合、あるいは卒業後新たに免許状を取得したい場合は、ティーチングオリフィケーションセンターで相談してください。

教職課程に関する伝達事項は、TIPSの掲示板等で連絡するので、見落しのないように常に注意が必要です。

※在籍する学科で取得可能な教員免許状の教科以外の取得は、原則として認めていません。しかし、他教科の教員免許状の取得を目指す場合は、ティーチングオリフィケーションセンターに相談してください。

## ⑨ 教職課程履修について

1年次		2年次		3年次		4年次	
1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ
学科の卒業要件を満たしていくと同時に、「教科に関する科目」を履修していきます。							
教科に関する科目		○備考					
教科及び教科の指導法に関する科目		※ 道徳教育論、教科教育法論、教科教育実践論、教育実践2は中学校の免許状を希望する学生の履修すること。					
教育の基礎的理解に関する科目		※ 教科教育法1、教科教育法2、教科教育法論、教科教育実践論の履修にあたっては、教育原理、教育心理学、学校制度論のうち3科目以上の単位を修得していること。					
教職に関する科目		※ 教育実習の事前指導は5セメ以降から始まる。事前指導は指定された日時に必ず受講すること。やむを得ない理由で出席できない場合は、事前にティーチングアシスタントに相談し、事後指導を受けること。日程はTIPSにより周知すること。					
教職に関する科目		※ 教育実習の受講資格については「授業要覧」をよく読むこと。また、学科毎に独自の基準を別に設けている場合があるので、学科ガイダンス等での説明をよく聞くこと。					
教職に関する科目		※ 高等学校の免許状は、教育方法論、教育相談論、特別活動論、総合的な学習の時間の指導法、教科教育法1・2の8科目、中学校の免許状は上記8科目に道徳教育論、教科教育法論、教科教育実践論を加えた11科目の単位を修得していないと、教育実践1・2の履修ができない。					
教職に関する科目		※ 4科目のうち、少なくとも3科目の単位を修得していないと、教科教育法1・2、教科教育法論、教科教育実践論を履修することはできない。					
教職に関する科目		※ 教科論の単位を修得していないと、教育実践1・2を履修することはできない。					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論					
教科に関する科目		教科教育法1					
教科に関する科目		教科教育法2					
教科に関する科目		教科教育実践論</					

## 別表①：教科に関する科目

### 情報科学科 [2023年度生]

次表の法定科目区分に対応した学科の開講科目を「履修要領」に従って、合計単位以上修得してください。  
( ) の数字は単位数です。

高等学校教諭一種免許状（情報）を取得する場合		履修要領
法定科目区分	学科の開講科目	
情報社会・情報倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●メディア社会論（2）</li> <li>情報科学通論（2）</li> <li>科学と倫理（2）</li> <li>知的財産権法（2）</li> </ul>	●印の科目を必ず修得。 他の科目は選択科目。
コンピュータ・情報処理 （実習を含む。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンピュータシステム（2）</li> <li>●プログラミング実習1（2）</li> <li>●データ構造とアルゴリズム（4）</li> <li>コンピュータリテラシー（2）</li> </ul>	●印の3科目を必ず修得。 他の科目は選択科目。
情報システム （実習を含む。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本情報処理1（2）</li> <li>基本情報処理2（2）</li> <li>環境情報科学（2）</li> </ul>	●印の科目を必ず修得。 他の科目は選択科目。
情報通信ネットワーク （実習を含む。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報通信ネットワーク（2）</li> <li>情報理論（2）</li> </ul>	●印の科目を必ず修得。 他の科目は選択科目。
マルチメディア表現・技術 （実習を含む。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マルチメディア信号処理（2）</li> <li>●情報科学実験（2）</li> <li>機械学習（2）</li> <li>信号処理（2）</li> <li>アドバンストプログラミング（2）</li> <li>人工知能プログラミング（2）</li> <li>メディカルイメージング（2）</li> <li>コンピュータシミュレーション（2）</li> </ul>	●印の2科目を必ず修得。 他の科目は選択科目。
情報と職業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報と職業（2）</li> </ul>	●印の科目を必ず修得。
高等学校：30単位以上		



## 別表②：教職に関する科目

### 情報科学科 [2023年度生]

グ ナ レ ン バ ド ー	授業科目名	必 選 別	単 位 数	必要 科目	開講期間 (1週当りの コマ数)		先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備 考
				高 一 種	春 学 期	秋 学 期		
VI 106	教職論	※	2	○	1	1		
VI 107	教育原理	※	2	○	1	1		
VI 102	教育心理学	※	2	○	1	1		
VI 101	学校制度論	※	2	○	1	1		
VI 213	教育課程論	※	2	○	1	1	②3セメ	
VI 221	特別な教育的ニーズの理解と支援	※	1	○	0.5	0.5	②3セメ	
IV 281	情報科教育法1	×	2	○	1		①VI101、VI102、VI106、VI107 のうち3科目&②5セメ ①VI101、VI102、VI106、VI107 のうち3科目&②5セメ	注
IV 282	情報科教育法2	×	2	○		1		
VI 222	総合的な学習の時間の指導法	※	1	○	0.5	0.5	②3セメ	
VI 205	特別活動論	※	2	○	1	1	②3セメ	
VI 100	教育方法及びICT教育論	※	2	○	1	1		
VI 285	生徒指導及び進路指導論	※	2	○	1	1	②3セメ	
VI 243	教育相談	※	2	○	1	1	②3セメ	
VI 307	教育実習1	※	3	○	集中		①VI106&②5セメ	
VI 409	教職実践演習(中・高)	※	2	○		1	②8セメ	
VI 281	学校インターンシップ1	※	1		1	1	②3セメ	
VI 282	学校インターンシップ2	※	1		1	1	①VI281&②3セメ	
VI 283	学校インターンシップ3	※	1		1	1	①VI282&②3セメ	
VI 284	学校インターンシップ4	※	1		1	1	①VI283&②3セメ	
修得すべき単位数				29				

注：「情報科教育法1・2」は、学科の主専攻科目の選択科目として卒業単位に算入されるので、カリキュラム表を確認してください。(履修登録制限の24単位に含む)

\*なお、上表の科目開講は、春・秋の両学期に開講しているとは限らないので「学科別授業時間割」で確認のうえ、履修してください。



## 別表①：教科に関する科目

### コンピュータ応用工学科 [2023年度生]

次表の法定科目区分に対応した学科の開講科目を「履修要領」に従って、合計単位以上修得してください。

( ) の数字は単位数です。

高等学校教諭一種免許状（工業）を取得する場合		履修要領
法定科目区分	学科の開講科目	
工業の関係科目	●工学概論（2）	●印の科目を必ず修得。  左の科目の中から14単位以上を修得。
	電気電子工学概論（2）	
	基本情報技術（2）	
	コンピュータ工学（2）	
	電子回路（2）	
	電気回路1（2）	
	電気回路2（2）	
	ロボット設計工学（2）	
	計測工学（2）	
	論理回路設計（2）	
	組込みシステム（2）	
	ハードウェアプログラミング（2）	
	コンピュータアーキテクチャ（2）	
	コンピュータシステム設計（2）	
	アルゴリズムとデータ構造（2）	
	コンピュータグラフィックス（2）	
	モデリングとシミュレーション（2）	
	基礎ロボット工学（2）	
	CAD設計演習（2）	
	コンピュータビジョン（2）	
	基礎制御工学（2）	
	システム制御工学（2）	
	先端ロボット工学（2）	
	プログラミング入門（4）	
	マイコンプログラミング（2）	
	コンピュータ応用実験1（2）	
	コンピュータ応用実験2（2）	
	コンピュータ応用実験3（2）	
	理工系のTOEIC（R）入門（2）	
	理工系のTOEIC（R）初級（2）	
職業指導	●職業指導（4）	●印の科目を必ず修得。
高等学校：30単位以上		

## 別表②：教職に関する科目

### コンピュータ応用工学科 [2023年度生]

グ ナ レ ン バ ド ー	授業科目名	必 選 別	単 位 数	必要 科目	開講期間 (1週当りのコマ数)		先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	備 考
				高 一 種	春 学 期	秋 学 期		
VI 106	教職論	※	2	○	1	1		
VI 107	教育原理	※	2	○	1	1		
VI 102	教育心理学	※	2	○	1	1		
VI 101	学校制度論	※	2	○	1	1		
VI 213	教育課程論	※	2	○	1	1	②3セメ	
VI 221	特別な教育的ニーズの理解と支援	※	1	○	0.5	0.5	②3セメ	
IV 291	工業科教育法1	×	2	○	1		①VI101, VI102, VI106, VI107の うち3科目&②5セメ	
IV 292	工業科教育法2	×	2	○		1	①VI101, VI102, VI106, VI107の うち3科目&②5セメ	
VI 222	総合的な学習の時間の指導法	※	1	○	0.5	0.5	②3セメ	
VI 205	特別活動論	※	2	○	1	1	②3セメ	
VI 100	教育方法及びICT教育論	※	2	○	1	1		
VI 206	生徒指導及び進路指導論	※	2	○	1	1	②3セメ	
VI 243	教育相談	※	2	○	1	1	②3セメ	
VI 307	教育実習1	※	3	○	集中		①VI106&②5セメ	
VI 409	教職実践演習(中・高)	※	2	○		1	②8セメ	
VI 281	学校インターンシップ1	※	1		1	1	②3セメ	
VI 282	学校インターンシップ2	※	1		1	1	①VI281&②3セメ	
VI 283	学校インターンシップ3	※	1		1	1	①VI282&②3セメ	
VI 284	学校インターンシップ4	※	1		1	1	①VI283&②3セメ	
修得すべき単位数				29				

注：「工業科教育法1・2」は、学科の主専攻科目の選択科目として卒業単位に算入されるので、カリキュラム表を確認してください。(履修登録制限の24単位に含む)

\*なお、上表の科目開講は、春・秋の両学期に開講しているとは限らないので「学科別授業時間割」で確認のうえ、履修してください。

## 2 司書課程

司書課程は図書館法に定められた司書の資格、学校図書館法に定められた司書教諭の資格に必要な基礎知識と技術を修得するために開講しています。

高齢社会となったわが国の現代社会は、時間的、経済的ゆとりも加わって、余暇利用による生涯学習が盛んとなってきています。その学習内容は過去・現在・未来の時系列を問わず、多種多様の知的関心のもとに学習が展開されます。この知的関心を充足させるものが、文献・資料です。

図書館および類縁機関は、これら文献・資料を収集し保存し利用させる施設であり、この施設で知的関心をもつ人びとと文献・資料を結びつけ提供することを専門的業務としているのが、司書です。そのため、情報化社会といわれる現在及び将来において、司書は、さまざまな内容を含む大量の情報が集約された文献・資料を体系的に組織化し、これを的確に、知的関心をもつ人びとに結びつけ提供するための知識と技術を必要とします。

情報は、冊子化されたものばかりではありません。コンピュータの普及により、情報をデータベース化する知識と技術、あるいはデータベース化された記録媒体から情報を提供するための知識と技術が、司書に求められています。

司書としての知識と技術は、図書館および類縁機関だけに限定して利用されるものではありません。企業・団体で調査・研究のために、早急に諸情報を収集する場合に活用できるものです。各種の団体・研究所・企業などでは、文献・資料の収集・管理、情報検索にあたる職員を採用するとき、この資格を条件とする場合があります。

司書教諭は、学校図書館の教育、専門的職務に従事する教員です。政令で定める規模以下の学校を除き、全国の小・中・高等学校に司書教諭の配置が義務づけられています。近年、学校図書館の実務を担当する学校司書が一部の地域で採用されていますが、学校司書が事務職員であるのに対し、司書教諭は教員です。現在のところ、学校司書という資格は制度上の定めがないため、司書の資格を持つ人が学校司書として採用されるケースが多くなっています。

### 1 司書、司書教諭の資格

1) 司書の資格を取得するためには、下記の要件を満たす必要があります。

- ・ 司書に関する科目を、表中の履修要領にしたがって修得すること
- ・ 学士の資格を有すること（大学を卒業すること）

2) 司書教諭の資格を取得するためには、下記の要件を満たす必要があります。

- ・ 司書教諭に関する科目を、表中の履修要領にしたがって修得すること
- ・ 教育職員免許状を取得すること

※司書教諭資格を有することを証明する「修了証書」（文部科学省が授与）の発行は、上記の要件をそろえた1年後となりますので注意してください。申請に関する手続きについては、司書・司書教諭ガイダンスにおいて説明します。

### 2 履修対象学生

- ・ 司書…湘南校舎全学部学科生（児童教育学部、工学部医工学科は除く）
- ・ 司書教諭…湘南校舎教職課程履修生

### 3 履修に際しての注意事項

司書課程（司書・司書教諭）履修生（新規履修生・継続履修生を含む）を対象に、各セメスターの初めに「司書・司書教諭ガイダンス」を行います。履修上の注意、資格申請に関する手続き等を説明しますので、資格を取得するまで、必ず毎回出席してください。

司書資格取得証書発行、司書教諭資格申請に関する手続きについての説明も行いますので、7・8セメスター（4年次）の履修生は、とくに注意してください。

司書に関する科目  
2023年度生

区分	グレード ナンバー	授業科目名	必 選 別	単 位 数	開講期間 (1週当りのコマ数)				先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	履修要領	備考
					春 学 期	セ サ ッ シ マ ヨ ン !	秋 学 期	セ ウ ッ シ ン ヨ タ ン !			
必修科目	VI 108	生涯学習概論 1	※	2	1		1				
	VI 100	図書館概論	※	2	1		1				
	VI 200	図書館制度・経営論	※	2	1		1				
	VI 100	図書館情報技術論	※	2	1		1				
	VI 100	図書館サービス概論	※	2	1		1				
	VI 200	情報サービス論	※	2	1		1				
	VI 300	児童サービス論	※	2	1		1				
	VI 300	情報サービス演習 A	※	2	1		1				
	VI 300	情報サービス演習 B	※	2	1		1				
	VI 100	図書館情報資源概論	※	2	1		1				
	VI 200	情報資源組織論 A	※	2	1		1				
	VI 200	情報資源組織論 B	※	2	1		1				
	VI 300	情報資源組織演習 A	※	2	1		1				
	VI 300	情報資源組織演習 B	※	2	1		1				
	VI 314	図書館情報学総合演習 A	※	2	1		1		② 6 セメ		
	VI 315	図書館情報学総合演習 B	※	2	1		1		② 6 セメ		
選択科目	VI 200	図書館基礎特論	※	2	1		1				
	VI 200	図書館サービス特論	※	2	1		1				
	VI 300	図書館情報資源特論	※	2	1		1				
	VI 100	図書・図書館史	※	2	1		1				
	VI 200	図書館施設論	※	2		14					
	VI 300	図書館特論	※	2	1		1				
										左記の科目を全 科目修得のこと。	
										左記の 6 科目中 3 科目以上修得 のこと。	

司書教諭に関する科目  
2023年度生

グレード ナンバー	授業科目名	必 選 別	単 位 数	開講期間 (1週当りのコマ数)		先修条件 ①科目先修条件 ②セメスター先修条件 ③単位数先修条件	履修要領	備考
				春 学 期	秋 学 期			
VI 100	学校経営と学校図書館	※	2	1				
VI 100	図書館情報資源概論	※	2	1	1			
VI 200	情報資源組織論 A	※	2	1	1			
VI 200	情報資源組織論 B	※	2	1	1			
VI 300	学習指導と学校図書館	※	2		1			
VI 300	読書と豊かな人間性	※	2		1			
VI 200	情報メディアの活用	※	2		1			

左記の科目を  
全科目修得の  
こと。

司書に  
関する科目

〈参考〉 司書教諭講習科目・本学開講科目対応表

司書教諭講習科目	単位数	本学開講科目	単位数
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成	2	図書館情報資源概論	2
		情報資源組織論 A	2
		情報資源組織論 B	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2

## VII章

# 諸制度

## 1 副専攻

本学では、主専攻以外の分野の体系的学修により、複眼的な思考能力を持った問題発見・解決型の人材の育成を目指しており、それを副専攻で制度化しています。具体的には、指定された授業科目群（「副専攻一覧」を参照）の中から16単位を修得した場合に、修了認定されます。

副専攻は、学部・学科等が単独で設置したものと、複数の学科等が協力して学際的（横断的）に設置したものの2種類があります。認定を目指す学生は、他学部・他学科のカリキュラム表及びシラバス等を参照のうえ、履修登録を行ってください。

認定した副専攻の情報は、成績証明書に掲載します。就職活動や卒業後の社会においても有益ですので、多くの学生が認定を目指すことを期待します。

### 履修について

- 1 副専攻においては、必修科目の指定は無く、当該学科等のカリキュラム表に表記している必選別は適用されません。
- 2 副専攻科目は、先修条件に関係なく履修することができます。

### 認定について

- 1 学生は、予め副専攻認定を目指すことを示す必要はありません。副専攻科目を在学中に自由に履修し、結果的にその要件を満たすことにより、副専攻を認定します。
- 2 副専攻の認定は、修得した成績に基づき、毎学期、修了判定が行われます。複数の副専攻の認定を受けることもできます。
- 3 所属する学科等のカリキュラムにある科目が学際的（横断的）に設定された副専攻は、その科目を修得しても副専攻認定の要件には含まれません。
- 4 複数の副専攻群に指定された授業科目を修得した場合、その科目は複数の副専攻にカウントします。

## 2 東海大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

本学では、社会の様々な現場において、人工知能（AI）とデータ分析を適切に活用する基礎力を身に付けることができる体系的な教育プログラム「東海大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を全学展開しています。人工知能とデータ分析に関する知識とスキルは、この新時代における新たなリテラシー（読み・書き・そろばん）であり、身に付ける価値のあるものです。

本プログラムに参加するために特別な手続きは必要ありません。理系教育センターが開講する以下の4科目全てに合格※すると「東海大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」修了として認定されます。なお、本プログラムを修了すると、東海大学公式の「修了証」が発行されます。就職活動や卒業後の社会活動全般においても有益に働きますので、是非、多くの学生が修了を目指すよう期待しています。

※ここでいう「合格」とは、本学で実際に授業を受講して単位を修得することを指します。資格取得等による単位認定の場合、プログラム修了とは認められませんのでご注意ください。

- ・社会情報概論
- ・データサイエンス入門
- ・データサイエンス基礎
- ・人工知能

### 履修について

- 1 上記科目は、それぞれ複数の曜日時限に開講されることがありますが、基本的な内容は同一です。本プログラムの修了を目指すにあたっては、どの曜日時限の授業を履修しても構いません。なお、一部の授業は遠隔授業対応となります。それぞれの都合に応じて選択してください。
- 2 上記科目は、東海大学全校舎の学生が履修できます。但し、湘南校舎での開講であるため、遠方の校舎に所属する学生



の場合、履修する曜日時限の授業が遠隔授業対応であることが必要です。詳しくはシラバスや理系教育センターのWebサイトをご確認ください。

- ③上記科目に先修条件はありません。制度上は、並行して受講することも、好きな順番で受講することも可能ですが、シラバス記載の内容をもとに、ご自身が受講の前提条件を満たしているかどうかよく確認しましょう。

## ■認定について

- ①学生は、予め本プログラム修了を目指すことを示す必要はありません。上記科目を在学中に履修し、4科目全て合格（単位修得）した時点で自動的にプログラム修了が認定されます。
- ②本プログラムの修了認定は、修得した単位数（全8単位）に基づき、毎学期の終わりに判定されます。

## 3 キャンパス間留学

全国にまたがって8校舎を持つ本学のスケールメリットを最大限に活用するために設置された制度です。他の校舎に一定期間留学することにより、幅広い視野と深い教養を身に付けることを目的としています。

本制度は、学生本人が所属するキャンパスとは異なる遠方のキャンパスで学ぶ制度（近隣キャンパスでの履修者は対象外）であり、科目の履修に関する位置付けとしては、他学部・他学科の授業科目を履修することが基本です。

なお、本制度を利用することにより、奨学金が給付される場合もあります。

## 4 大学院授業科目の先行履修制度

大学院進学を希望する第7セメスター以上の学部学生または研究生を対象に、大学院研究科の定める条件の下、大学院授業科目の受講を許可し、単位修得を可能とする制度です。

成績評価は、通常の大学院学生と同様に扱うことになります。大学院進学後は、大学院学則に基づき、本人の申請により最大15単位まで大学院の単位として認めることがあります。

なお、自校舎以外の大学院研究科専攻に進学を希望する場合は、所属のカレッジオフィスに相談してください。

## 5 留学による単位認定

「東海大学学則第23条の2」に基づき、「在学中（空セメの場合のみ）」、「休学中」に国内外の大学・短期大学等で修得した単位が認定の対象です。単位認定を希望する場合は、原則、出発の3ヶ月前までに手続きが必要です。

また、本学の海外派遣留学制度も準備していますので、積極的に取り組むことを期待します。

## 6 派遣留学による単位認定

本学では、海外の大学と協定を結び、長・中・短期の留学プログラムを設置しており、これを「海外派遣留学制度」と称しています。留学先での学修については、協定の内容や大学が定めた基準に基づき、単位が認定されます。

また、この留学制度を利用することにより、奨学金が給付される場合もあります。

外国語の学習を効果的に行うには、授業の他に活きた外国語に接する機会をできるだけ多く持つことが必要です。そして、そのような機会として最も勧められる方法は「現地体験」であり、学んでいる言語が使われている国を訪れることです。日本での外国語学習だけでなく、外国文化も体験しながら感覚と視野を広げ、グローバルに活躍できる人材に成長することを期待します。

なお、海外派遣留学制度に基づく認定科目の一覧は、別表「海外派遣留学制度による単位認定」に掲載しています。

## 7 資格取得等による単位認定

本学以外の教育施設における学修のうち、別表「資格取得等による単位認定一覧表」に定めるものは、入学前及び入学後の取得に係わらず、学則23条の3に基づき、所定の科目について単位を認定します。該当者は、次の要領で手続きしてください。

なお、今後、在学中に資格名称等が変更される場合がありますので、手続きの際に最新年度の授業要覧を確認してください。

## 認定資格

別表「資格取得等による単位認定一覧表」を参照

## 認定科目

以下、①から③の順で認定科目を決定します。

- ①所属する学科に当該資格等の認定科目が設定されている場合は、所属する学科が定める科目を認定します（各センター及び他学部・他学科が定める科目は認定しません）。
- ②所属する学科に当該資格等の認定科目が設定されていない場合は、各センターが定める科目を認定します（他学部・他学科が定める科目は認定しません）。
- ③所属する学科及び各センターに当該資格等の認定科目がない場合は、他学部・他学科の科目として認定します。他学部・他学科の科目として認定する場合、認定科目はその資格で認定する最小単位数を定めた学科の科目とします（認定する科目は本人の申し出によります）。

なお、認定科目が副専攻科目の場合、その認定単位数は、副専攻認定要件として取り扱います。

## 単位の認定

- ①認定科目の評価は「認」です。
- ②本学の科目の単位を修得した後に資格を取得し、単位認定を申請した場合は、先に修得した本学科目の評価を採用します。この場合、当該資格取得による単位は、所属する学科、各センター、他学部・他学科としても認定できません。
- ③原則、卒業に必要な単位数を超えて単位認定は行いません。
- ④過去にこの単位認定がなされた者で、転学科、編入学（本学出身者）、再入学する学生は、認定科目を変更することがあります。

## 申請方法等

### （１）提出書類

- ①単位認定申請書
- ②合格証書等（原本）※確認後、返却します（有効期限のあるものは有効期限内であること）
- ③学生証 ※提示のみ

### （２）申請時期

資格取得した学期以降、学期始めの在学生ガイダンス頃が申請時期です（卒業する学期内に取得した資格を申請することはできません）。

### （３）申請手続等

毎学期始めに詳細について案内しますので、期間内にカレッジオフィスに申請してください。

### （４）単位認定の通知

春学期申請受付分は6月上旬、秋学期申請受付分は10月下旬に通知します。

## ⑧ 海外研修航海

本学では、海洋調査研修船「望星丸」を使用し、海外の諸文化、諸事情に触れ、グローバルな視野に立った世界観・人生観の確立を目指すとともに、船内という限られた生活環境の中で人間形成をはかることを目的とし、毎年2月中旬より3月下旬にかけて海外研修航海を行っています。単なる航海ではなく、事前研修や、船内では引率教職員による講義等が行われることを考慮し、科目名「海外研修航海実習」（必選別：×、単位数：4）の単位を付与します。

※海外研修航海に複数回参加しても、単位付与は1回に限ります。

※新型コロナウイルス感染症等の外的な要因により、国内において研修航海を実施する場合があります。内容は募集時に確認してください。

湘南キャンパス：学科・専攻副専攻

副専攻 提供 学部・学科・専攻	副専攻No.	副専攻名
文学部	文明学科	X01 比較思想
	歴史学科日本史専攻	X02 日本史
	歴史学科西洋史専攻	X03 西洋史
	歴史学科考古学専攻	X04 考古学
	日本文学科	X05 日本文学
	英語文化コミュニケーション学科	X06 英語文化コミュニケーション
文化社会学部	アジア学科	X07 アジア学
	ヨーロッパ・アメリカ学科	X08 ヨーロッパ・アメリカ
	北欧学科	X09 北欧
	文芸創作学科	X10 文芸創作
	広報メディア学科	X11 広報メディア
	心理・社会学科	X12 ジャーナリズム
教養学部	人間環境学科	X13 現代社会研究
法学部	法律学科	X14 人間環境学
政治経済学部	政治学科	X16 法律学
	経済学科	X17 政治学
経営学部	経営学科	X18 経済学
国際学部	国際学科	X19 経営学
観光学部	観光学科	X20 国際学
情報通信学部	情報通信学科	X21 観光学
理学部	数学科	X22 情報通信学
	情報数理学科	X23 数学
	物理学科	X24 情報の数理
	化学科	X25 物理学
建築都市学部	土木工学科	X26 化学
工学部	生物工学科	X27 土木工学
		X28 生物工学

湘南キャンパス：横断型副専攻

副専攻 提供 学部・学科・専攻	副専攻No.	副専攻名
体育学部	X15	保健体育教育

熊本キャンパス・阿蘇くまもと臨空キャンパス：学科・専攻副専攻

副専攻 提供 学部・学科・専攻・課程		副専攻No.	副専攻名
文理融合学部	経営学科	X29	経営学
	地域社会学科	X30	心理学
	人間情報工学科	X31	データサイエンス
農学部	農学科	X32	農学
	動物科学科	X33	動物生産学
	食生命科学科	X34	食品と生命の科学

センター副専攻

副専攻 提供 センター		副専攻No.	副専攻名
語学教育センター	英語教育部門	X35	英語グローバル・コミュニケーション
		X36	英語アカデミック・リテラシー
	国際言語教育部門	X37	中国語
		X38	フランス語
		X39	ドイツ語
		X40	韓国語
		X41	ロシア語
		X42	スペイン語
	留学生支援教育部門	X43	日本語教育法
理系教育センター（情報教育センター）		X44	社会 ICT

## 副専攻認定不可一覧

### 表の見方

「×」印が付いている副専攻は認定不可。

ただし、他学部・他学科科目としての履修は認める（卒業単位となる）。

例：経営学部経営学科の学生は、文理融合学部経営学科が開設する副専攻「経営学」の科目を履修して修得しても、副専攻としては認定しない。

学部 学科 副専攻名 No.		体育学部					経営学部	理学部	情報理工学部		海洋学部	文理融合学部	生物学部
		体育学科	競技スポーツ学科	武道学科	生涯スポーツ学科	スポーツ・レジャーマネジメント学科	経営学科	情報数理学科	情報科学科	情報メディア学科	水産学科	経営学科	生物学科
X15	保健体育教育	×	×	×	×	×							
X19	経営学											×	
X22	情報通信学							×	×	×			
X28	生物工学												×
X29	経営学						×						
X31	データサイエンス								×	×			
X34	食品と生命の科学										×		×
X44	社会 ICT								×	×			

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

世界の歴史においては、実に多様な思想的財産が遺されている。今、ここに生きている人間は、その時空の制約を超えることはできないが、自分たちが自明だと思いこんでいることを、そうした遺産の豊穡に触れることによって相対化し、あらためて自分たちの取るべき方向を考え直すことができる。日本を含めたアジア・ヨーロッパ・アメリカ…これらの地域で育まれた思想の諸相に触れて、それぞれの文明の深部をのぞくことは、そうした自己相対化のために有効であり、何より楽しいことである。

## ●履修のポイント

哲学や思想の学習には、時間がかかり、根気も必要であるが、何をおいても大切なものは、原典の正確な理解力と主体的な問題関心の持続である。授業で紹介された原典のうち少なくとも一点に、まず直接に当たってみることが望ましい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

本副専攻の性格上、各講義の範囲は多岐にわたり、幅広い領域・分野に関心をもつことが求められる。語学等の知識は必須ではないが、あればより理解が深まる。講義内容も担当講師・分野に応じて多様であるので、あらかじめシラバスで確認すること。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV110	比較文明論 1	2			1		
IV210	比較文明論 2	2			1		
IV110	ヨーロッパ思想と文明	2			1		
IV210	ヨーロッパ思想	2			1		
IV110	日本思想と文明	2			1		
IV210	日本思想	2			1		
IV110	比較思想と文明	2			1		
IV210	比較思想	2			1		
IV330	ヨーロッパ思想の諸相	2	1				
IV330	ヨーロッパ思想の展開	2	1				
IV330	日本思想の諸相	2	1				
IV330	日本思想の展開	2	1				
IV330	比較思想の諸相	2	1				
IV330	比較思想の展開	2	1				

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

日本史学は、日本列島上で暮らす人々が築き上げてきた社会・文化の発展や、他の地域との交流の歴史を研究対象とする学問である。こうした過去の人々の営みを正しく把握するためには、偏狭な視点や史観にとらわれないことが大切である。日本史副専攻では、日本史研究の成果を謙虚に学び、未来を切り拓くための歴史認識を獲得することを目標とする。

具体的には、通史で歴史的な流れと特徴を把握して、バランスのとれた歴史認識を獲得し、特講では歴史事象をめぐる多様な評価や論争を学び、より深い認識を得ることを目標とする。

## ●履修のポイント

「日本古代史特講」などの特殊講義は、担当教員の専門領域に沿った内容（例えば、古代史では律令制度論、中世史では鎌倉幕府論といったテーマ）で行われる。

なお、古代から近現代までの日本の歴史の主要な流れを確認するとともに、日本の歴史を世界史的な視野で把握する目を養うために、「日本史概説A・B」「東アジア史A・B」「西洋史概説A・B」「考古学概説A・B」（いずれも本副専攻科目には含まれない）などの授業科目を履修することが望ましい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV230	日本古代史講義A	2			1		
IV230	日本古代史講義B	2			1		
IV230	日本中世史講義A	2	1				
IV230	日本中世史講義B	2	1				
IV230	日本近世史講義A	2			1		
IV230	日本近世史講義B	2			1		
IV230	日本近現代史講義A	2	1				
IV230	日本近現代史講義B	2	1				
IV340	日本古代史特講	2	1				
IV340	日本中世史特講	2			1		
IV340	日本近世史特講	2	1				
IV340	日本近現代史特講	2			1		



## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

西洋史学は、ヨーロッパとその関連諸地域で人々が築き上げてきた社会と文化の発展の歴史を考察する学問である。しかし、西洋史副専攻の教育目標は、単に過去に起こった西洋史の様々な史実を詳細に説明することにあるのではない。今日、我が国と欧米諸国との相互依存関係はますます深まり、その一方で、両者の文化的伝統の相違に起因する様々な摩擦がしばしば生じている。このような現代世界の複雑な動きとその背景を的確に理解する力を養う一助として、西洋史副専攻では、私たち現代の日本人の視点に立って西洋の歴史的伝統を学ぶという方針の下に、西洋の政治・社会・経済・文化などの特質を、古代から現代まで広範な時代枠で考察することによって、西洋史に関する幅広い教養と専門的な知識を習得することを目指していききたい。

## ●履修のポイント

- ①古代・中世・近代・現代の各時代史といった基礎的な科目を先に履修して基礎学力を養成した後、「西洋政治史研究」「西洋社会史研究」などの専門性の高い講義に進むことを推奨する。
- ②いずれの科目についても、成績は定期試験・レポートのほか、出席状況や授業への取り組み姿勢などを総合的に評価する。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特別な履修条件は設けませんが、いずれの科目についても、高校「世界史B」の教科書レベルの基礎知識があることが望ましい。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV120	西洋古代史A	2	1				
IV120	西洋古代史B	2	1				
IV120	西洋中世史A	2			1		
IV120	西洋中世史B	2			1		
IV120	西洋近代史A	2	1				
IV120	西洋近代史B	2	1				
IV120	西洋現代史A	2			1		
IV120	西洋現代史B	2			1		
IV340	東欧史研究	2			1		
IV340	西洋社会史研究	2	1				
IV340	西洋文化史研究	2			1		
IV340	西洋民衆史研究	2			1		
IV340	西洋思想史研究	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

考古学は、過去に人類関わったすべての物質資料を対象として、歴史・文化・社会を読み解く学問であり、そこに国境はない。したがって本副専攻では、幅広い時代や地域をカバーする科目群を用意している。それから、時代や地域を超える考古学的方法の基礎を学ぶとともに、広い視野と知識の獲得を目指す。

## ●履修のポイント

各科目は自由に履修することができるが、「〇〇講義」と名前がついている科目を履修し、基礎的な知識や方法を知ったうえで、「〇〇演習」を同時に履修してもらいたい。地域別・時代別の科目からそれぞれがテーマを見出して受講することが望ましい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV110	考古学概説A	2	1				
IV110	考古学概説B	2			1		
IV220	先土器時代講義	2	1				
IV220	先土器時代演習	2	1				
IV220	縄文時代講義A	2	1				
IV220	縄文時代演習A	2	1				
IV220	弥生時代講義	2	1				
IV220	弥生時代演習	2	1				
IV220	古墳時代講義A	2	1				
IV220	古墳時代演習A	2	1				
IV220	歴史時代講義A	2	1				
IV220	歴史時代演習A	2	1				
IV220	アジア考古学講義A	2	1				
IV220	アジア考古学演習A	2	1				

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

日本語学研究・日本文学研究の基礎を学び、日本についての理解を深め、日本文化についての幅広い発信者となる力を身に着けることを目的とする。そのために、副専攻は日本語学の基礎を学ぶことのできる科目と日本文学の古典・近現代文学両分野について学べるように設定してある。

## ●履修のポイント

「日本語学概論1・2」は日本語学の基礎科目であり、文学研究などでも役立つ基礎力が得られるので早めの履修が望ましい。文学史については「日本文学史1・2」が主に古典文学分野の文学史を扱う。「日本文学概論1・2」は横断的かつ史的に日本文学に対しての新しい見方を学ぶことのできる内容となっている。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

基礎的な科目が多いので、復習に重点を置き、着実に身に着けることを心がける必要がある。「日本語学概論1・2」は日本文学を学ぶ上でも重要になる語学研究のための基礎科目なのでなるべく早い段階で履修しておくことが望ましい。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	開講期間 (一週当たりのコマ数)		備 考
			春学期	秋学期	
IV110	日本文学史1	2	1		
IV110	日本文学史2	2		1	
IV110	日本語学概論1	2	1		
IV110	日本語学概論2	2		1	
IV220	日本文学概論1	2	1		
IV220	日本文学概論2	2		1	
IV250	近・現代文学史	2	1		
IV110	古典文学講読1	2	1		
IV110	古典文学講読2	2		1	
IV110	近・現代文学講読1	2	1		
IV110	近・現代文学講読2	2		1	

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

交通や通信手段の発達、インターネットの普及は、高度のグローバル・情報化社会を出現せしめている。世界共通言語としての英語の役割はますます大きくなるばかりである。本学科の副専攻は、このように重要性を増しつつある英語によるコミュニケーション力の育成を目指すと同時に、国際社会における相互理解に必要な文化や慣習・思考・価値観を学ぶための「言語学」、「コミュニケーション学」、「英米文学」の科目を履修することにより、幅広い知識と視野を持った人材を育成することを目標とする。

## ●履修のポイント

本学科における英語学習には、高等学校までに学んできた最小限の基礎力が必要とされる。その上で、英語に対する強い好奇心とたゆまぬ努力が期待される。こうした条件を備えた学生には、飛躍的な実力の向上が約束されるだろう。英語およびそれに関連する分野の知識は、将来いかなる分野で活躍する場合にも、今や必須条件になっていると言える。向学心に富んだ学生が真剣に勉学に取り組んでいくことを期待する。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

英語学習には、今や様々な機会を利用できる環境が整っている。授業以外でも、できる限り英語に触れたり、TOEIC®等の検定試験に積極的に挑戦するよう努力してもらいたい。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV120	対人コミュニケーション	2	1		1		
IV220	コミュニケーション学概論	2	1				
IV220	異文化コミュニケーションA	2	1		1		
IV220	異文化コミュニケーションB	2	1		1		
IV130	英語学入門A	2	1		1		
IV130	英語学入門B	2	1		1		
IV130	英語音声学入門A	2	1		1		
IV130	英語音声学入門B	2	1		1		
IV140	英米文学入門A	2	1		1		
IV140	英米文学入門B	2	1		1		
IV240	英米文学史A	2	1		1		
IV240	英米文学史B	2	1		1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

日本は近代以降欧米を手本に近代化を進めてきた。2000年代に入り、欧米が様々な意味において低迷を見せるなかアジアは急速に政治・経済的な力をつけ、世界における発言権を強めている。あらゆる問題がグローバル化した現代において、日本の政治・経済は欧米だけでなくアジアと密接な関係を見失ってしまってきた。アジアの歴史や文化・社会に関する基礎的な知識を身につけ、均衡のとれた見識を備えることがこれまで以上に求められている。この副専攻では、多様な豊かなアジアの諸相をバランスよく学べるよう、基礎的知識を広く修得する講義科目を中心に配すると同時に、それぞれの地域の文化・社会を深く探究できる科目を設けた。

## ●履修のポイント

基礎的知識を修得する概論はなるべく複数を履修することが理想的である。それ以外については自分の関心に応じて自由に選択すること。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV110	東・東南アジア概論	2	1				
IV110	南・西アジア概論	2			1		
IV110	イスラーム概論	2			1		
IV120	アジアの世界遺産	2			1		
IV130	東アジアの文化と社会	2			1		
IV130	東南アジアの文化と社会	2			1		
IV130	現代東南アジア論	2			1		
IV220	アジア文明交流史	2			1		
IV230	南アジアの文化と社会	2	1				
IV230	西アジアの文化と社会	2	1				
IV230	アジアの思想と芸術	2	1		1		
IV230	現代中国論	2	1				
IV230	現代コリア論	2			1		
IV230	現代インド論	2	1				

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

ヨーロッパとアメリカは、近代以降の世界に決定的な影響を及ぼし続けてきた。グローバル化が進むなかで、アメリカとヨーロッパに生きる人々の思考と営み、すなわち西洋世界を総体として理解する力を持つことは、大きな武器となると考えられる。そのためには歴史、社会、文学、芸術、宗教、思想など、地域の文化的土壌を融合的に把握し、異文化理解と共生の精神を体得することが求められる。

以上の観点から、本副専攻の各科目は、ヨーロッパとアメリカの地域理解の基礎を学ぶ科目と、「歴史・社会」、「文学・芸術」、「宗教・思想」という文化の基本的な知識を発展的に学ぶ科目を中心に構成されている。

## ●履修のポイント

地域理解の基礎科目には、「西ヨーロッパ」「東ヨーロッパ」「地中海」「アメリカ」の4種類が用意されている。必ずしも全ての地域に関する科目を網羅的に履修する必要はないが、西洋地域の成り立ちや多様性を理解する基礎となる科目群となるため、複数科目の履修が好ましい。「歴史・社会」、「文学・芸術」、「宗教・思想」という文化の基本的な知識を発展的に学ぶ講義科目は、高度な理解を要する内容が含まれる。シラバスで内容をよく確認のうえ履修すること。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV110	ヨーロッパ・アメリカ概論	2	1				
IV140	地中海地域研究A	2	1				
IV140	西ヨーロッパ地域研究B	2			1		
IV140	東ヨーロッパ地域研究A	2	1				
IV140	アメリカ地域研究B	2			1		
IV220	ヨーロッパの芸術A	2	1				
IV220	西洋文学の世界B	2			1		
IV230	ギリシア・ローマの神話	2			1		
IV230	西洋哲学B	2			1		
IV240	ヨーロッパ・アメリカ文化史A	2			1		
IV240	ヨーロッパ・アメリカ文化史B	2			1		
IV240	アメリカの形成	2	1				
IV330	グローバル文化論	2	1				
IV340	マイノリティと社会A	2	1				

●履修対象学生

2023年度入学生対象

●副専攻の教育方針と教育目標

北欧とは、歴史的、政治的、文化的に独自のまとまりをもったデンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、アイスランドの5ヶ国を指す。

北欧は「人間が人間らしく生きるとはどういうことか、そのために社会はどうあるべきか」という問題を自らに問い続け、様々な実験を繰り返してきた。その結果、福祉・環境・教育・男女平等・平和構築等の分野における先進性が世界の注目を集めている。

「北欧副専攻」では、「先進性」「個の尊重と自立」をキーワードに、北欧の社会と文化について考察していく。

●履修のポイント

北欧の文化と社会を様々な角度から考察する講義を通じて、北欧全体に共通する「先進性」および「個の尊重と自立」に対する深い理解を目指す。

まず関心のある科目から履修を始め、徐々に関心の幅を広げていってほしい。さらに日常生活において、書籍はもとより新聞・雑誌、映画、テレビ番組、インターネット等マスメディアを活用して積極的に「北欧」に関する情報を得るよう努めてほしい。

●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV120	北欧史概説	2	1				
IV130	北欧ジェンダー論入門	2			1		
IV130	北欧の思想とアイデンティティ	2	1				
IV130	北欧の福祉概説	2	1				
IV130	北欧の環境と暮らし	2		14			
IV130	北欧の政治と経済	2			1		
IV140	北欧文化概論	2	1				
IV140	北欧のこども・若者と文化	2			1		
IV140	北欧文学の世界	2			1		
IV140	北欧の児童文学	2	1				
IV140	北欧の神話と現代文化	2			1		
IV230	北欧における共生社会	2	1				
IV230	北欧の教育と学び	2			1		
IV240	芸術・文化からみる北欧社会	2				14	



## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

文芸創作学科は、創作を基礎に文学を学ぶ場所である。そのため、この学科の特色を活かし、広い分野の文学に接することができるように、カリキュラムを組んでいる。内容には、古典から現代、日本と世界の文学の他、哲学・民俗学・映画・美術・演劇なども含まれる。いわば広大な文学の世界を圧縮した一つの文学小宇宙「文学の宇宙（ユニヴァース）」の体験旅行版として、これらの科目を一通り履修することで、履修者が自分の内に「文学の小宇宙」を持つことができるようになることを目標とする。

## ●履修のポイント

入門的科目が多いため、事前に特に豊富な文学の知識を持っている必要はない。なによりも必要なものは、読書への意欲ということになる。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

演習系の科目は少ないため、授業の中で「創作」をする機会は少ないかもしれないが、自発的な意思で自分の時間を使って「創作」してほしい。文芸創作学科ではこのような自発的創作活動のサポートをしたいと考えている。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV120	文学の遠近法（創作のための文学史）A	2	1				
IV120	文学の遠近法（創作のための文学史）B	2	1				
IV120	日本の古典を読むA	2	1				
IV120	日本の古典を読むB	2	1				
IV120	文芸批評入門A	2	1		1		
IV120	文芸批評入門B	2	1		1		
IV120	世界の文学A	2	1				
IV120	世界の文学B	2			1		
IV120	文学で学ぶ異文化A	2	1				
IV120	文学で学ぶ異文化B	2			1		
IV250	現代文学のフロンティアA	2			1		
IV250	現代文学のフロンティアB	2			1		
IV260	近現代文学～他者のゆくえA	2			1		
IV260	近現代文学～他者のゆくえB	2			1		

●履修対象学生

2023年度入学生対象

●副専攻の教育方針と教育目標

広報メディア学科は、「社会的に価値のあるメッセージを自分で創造・発信できる人材の育成」を教育目標として掲げており、副専攻には、この教育目標に沿って、自分でメッセージを発信するためには、①どのような知識が必要で、②どのようなルールを守らなければならないのか、を学ぶための科目が配置されている。こうした科目を学ぶことで、広報とメディアの仕組みとルールに関する基礎的知識を身につけ、「情報」を付加価値の高い「メッセージ」に変える能力を養うことを目指している。

●履修のポイント

さまざまなメディアに接する際に、報道の仕方や娯楽的内容の表現方法などについて、「自分だったらどのように伝えるか」という問題意識を持って接するようにしてもらいたい。

●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV110	新聞概論	2	1				
IV110	出版概論	2	1				
IV110	放送概論	2			1		
IV110	放送文化論	2			1		
IV110	広報概論	2	1				
IV110	広告概論	2	1				
IV110	マス・コミュニケーション概論	2			1		
IV110	メディア史概説	2			1		
IV110	メディア社会学概論	2	1				
IV110	現代メディア論	2	1				
IV110	メディア産業論	2			1		
IV110	メディア法と倫理	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

「ジャーナリズム副専攻」は、報道の実務に根差したジャーナリズム教育を行うことで、将来のジャーナリストはもちろん、社会のあらゆる分野で公共的価値に基いた活動を担う人材を育成することを目的とする。

## ●履修のポイント

「時事ニュース研究A・B」、「ジャーナリズム入門A・B」でジャーナリズムの現状・歴史・理論・課題等を学んでから、「ニュース原稿作成A・B」、「ジャーナリズム研究A・B」、「ジャーナリズム・ゼミナールA・B」を履修すると効果的である。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
V200	時事ニュース研究A	2	1				
V200	時事ニュース研究B	2			1		
V300	ニュース原稿作成A	2	1				
V300	ニュース原稿作成B	2			1		
V200	ジャーナリズム入門A	2	1				
V200	ジャーナリズム入門B	2			1		
V300	ジャーナリズム研究A	2	1				
V300	ジャーナリズム研究B	2			1		
V300	ジャーナリズム・ゼミナールA	2	1				
V300	ジャーナリズム・ゼミナールB	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

グローバル化やネットワーク化のもとで、社会・文化的多様性への理解と対応は現代人にとって喫緊の課題である。本副専攻は、異種混交的な様相を呈する社会的現実を理解し、人や社会について常識的思考に囚われない知的洞察力を高めることを目的として編成される。社会・文化的な多様性をはらむ様々な課題が、日常生活の場にも現れている。社会学的な知とその思考法は、履修者が人や社会に関心を持ち、ことばやテクノロジーを使って様々な集団の中で能動的にやり取りする当事者として力となる。本副専攻では、こうした能力の育成を目指す。

## ●履修のポイント

副専攻として心理・社会学科が開講する9科目を配置する。「社会学概論A」は、社会学的な思考や感性を身に付ける基本科目であるゆえ、副専攻の初期セメスターで履修することが望ましい。それと並行して、どのような現象や問題に自分自身の知的関心や思考の照準が向っているかを考え、計画的に履修を組み立ててくことを期待する。各科目で講じられる内容は、履修生の日常生活の場でも直面する課題になりうる。当事者という立場での学びや探求に挑んでほしい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

可能な限り開講セメスターに沿って、履修を進めてほしい。また、必要に応じて副専攻科目の履修に関する掲示等を行うこともあるので、履修者は各自で随時、情報を取得してもらいたい。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV112	社会学概論A	2	1		1		
IV130	社会心理学概論	2	1				
IV140	現代社会とマスメディア	2	1				
IV140	現代文化論	2			1		
IV240	大衆行動論	2	1				
IV240	セクシュアリティと社会	2			1		
IV240	地域社会論	2			1		
IV240	社会変動論	2			1		
IV240	国際社会学	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻では、人間を取り巻く自然環境、社会環境、および生活文化を研究の対象としてとらえ、環境に重大な影響を与えることなく、人間が真に豊かな生活を営む社会を形成するために必要な持続可能性に関する問題を解決するための教育を行っています。したがって、従来の高度化、細分化した系統学科の枠にとらわれず、自然科学・社会科学・人文科学のいずれの学問領域からもアプローチをする必要があります。本副専攻では、様々な問題に対応できる広い視野を持ち、自ら考え、解決に向けて行動できる人材の養成を目指します。

## ●履修のポイント

人間を取り巻く「環境」に興味・関心がある学生が履修することを期待しています。特定の科学分野にこだわらず、様々な分野の授業を履修することを心がけてください。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV120	地域文化と農業	2			1		
IV120	エシカル消費論	2	1				
IV120	生活文化と経済	2	1				
IV130	SDGs 論	2			1		
IV210	大気環境論	2	1				
IV210	水文環境論	2			1		
IV210	土壌環境論	2			1		
IV220	里山文化論	2	1				
IV230	地域福祉論	2	1				
IV230	環境マネジメント論	2	1				
IV310	保全生物学	2			1		
IV330	開発経済学	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

慢性的な運動不足、精神的なストレス、体力・運動能力の低下など、現代社会が抱える体と心の問題に対して、「保健」「体育」「スポーツ」の果たす役割は大きい。本副専攻においては、将来、地域社会や企業などにおいて、リーダーとしての活躍が期待されている学生諸君に対し、指導的立場から保健・体育・スポーツ文化を学ぶ機会を提供する。この学びが、未来を担う子どもたちに対して発展的に伝えられることを期待する。

## ●履修のポイント

「保健」「体育」「スポーツ」に興味を持つ学生の履修を期待する。特に、身体教育や学校教育に関心を持ち、教科としての「保健体育」の動向を学びたい学生に対して推奨したい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

履修希望者が多数で教室定員を超えるときは、抽選等によって履修制限を行う場合がある。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV100	体育哲学	2	1		1		
IV100	体育経営管理学	2	1		1		
IV200	スポーツ社会学	2	1		1		
IV100	スポーツ心理学	2	1		1		
IV200	スポーツ運動学（運動方法学を含む）	2	1		1		
IV100	体づくり運動 理論及び実習	1	1		1		
IV301	保健体育科教育法 1	2	1				
IV302	保健体育科教育法 2	2			1		
IV303	保健体育科教材論	2	1				
—	生理学	2	1		1		グレードナンバー、開講期間は各学科によって異なる
—	運動生理学	2	1		1		グレードナンバー、開講期間は各学科によって異なる
—	衛生学（労働衛生を含む）	2	1		1		グレードナンバー、開講期間は各学科によって異なる
—	公衆衛生学	2	1		1		グレードナンバー、開講期間は各学科によって異なる
—	学校保健概論（小児保健・精神保健・学校安全を含む）	2	1		1		グレードナンバー、開講期間は各学科によって異なる
—	救急処置法	2	1		1		グレードナンバー、開講期間は各学科によって異なる

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

法律学には、すぐに思い浮かぶものでも憲法・民法・刑法などの法分野があり、それぞれの法分野ごとに特徴があるが、その一方で、各法分野に共通の法的思考様式が存在している。法学副専攻では、各法分野の基礎的な科目で構成された副専攻科目の履修を通して、リーガル・マインドといわれるこの法的思考力を養ってもらうことを目標としている。法の趣旨や目的を理解しつつ法的思考力を鍛えることによって、現在の社会の仕組みやその中での法の役割をよりよく理解する力を身につけてほしいと考えている。

## ●履修のポイント

副専攻科目として用意した科目は、基礎的な科目を中心に、様々な法分野からの科目を用意した。各法分野において基礎となる法的思考様式は共通でも、それぞれの分野であらわれ方が違ってくるため、その違いを知ることによって、より豊かな法的思考力を身につけてほしいと考えたからである。履修の順序としては、最初に、基本的な法分野を横断的にとりあげる法学入門からはじめて、そこで興味をもった分野について関連科目を履修していくのがよいであろう。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

どの講義でも必ず「六法」は必要になる。法学入門等、最初に履修する科目で指示されるものを準備しておくように。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV100	法学入門	2			1		学系共通科目/法学部生履修不可
IV110	憲法(人権1)	2	1		1		
IV110	憲法(人権2)	2			1		
IV120	刑法(総論1)	2	1		1		
IV120	刑法(総論2)	2			1		
IV130	民法(総則1)	2	1		1		
IV130	民法(総則2)	2			1		
IV130	民法(債権総論)	2			1		
IV333	商取引法1	2	1				商取引法1と商取引法2を併せて履修登録すること
IV334	商取引法2	2	1				商取引法1と商取引法2を併せて履修登録すること
IV351	国際法1	2	1				国際法1と国際法2を併せて履修登録すること
IV352	国際法2	2	1				国際法1と国際法2を併せて履修登録すること



## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

政治学科においては、学科開設以来、政治学を社会科学の一分野として位置づけ、最新の方法論を意欲的に取り入れ、また隣接する諸科学との有機的な関連性に配慮したカリキュラムを編成することによって、学生が複雑な政治現象を明晰かつ体系的に認識できるようになることを目標としてきた。地域社会から国際社会までを対象とする科目の学習をつうじて、政治を中心とする社会現象について理論的に考え、現状を分析し、問題解決策を提案しうる人材を育成することを目指す。

## ●履修のポイント

政治学の諸科目を学習するにあたっては、特別な予備知識は必ずしも必要ではない。しかし、それぞれの科目はそれ自体有機的な体系性をもっているため、講義には欠席しないように注意されたい。また、現代社会において日々生起する政治・社会問題について、マスメディア等を通じて常に情報収集し、政治学科の科目の履修を通じて得た専門知識と結びつけながら、自分自身で考える習慣を付けてほしい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

政治学における中心的かつ基本的な科目を学習すべきであるという点を重視し、政治学科の選択必修科目である政治学原論A、政治学原論B、行政学A、行政学B、国際政治学A、国際政治学Bの6科目、さらに政治コースから現代日本政治論、行政コースから公務員論、国際コースから外交政策論の3科目が提供される。以上の計9科目の履修を通じて、政治学の基盤となる知識を身につけてほしい。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV110	政治学原論A	2	1		1		
IV110	政治学原論B	2	1		1		
IV110	行政学A	2	1				
IV110	行政学B	2			1		
IV110	国際政治学A	2	1		1		
IV110	国際政治学B	2	1		1		
IV220	現代日本政治論	2			1		
IV220	公務員論	2	1				
IV220	外交政策論	2	1				

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

21世紀の社会は、ますます高度化し、複雑化していくものと予想される。様々な問題に対して、専門的な知識だけでなく、より幅広い知識に根差した総合的な判断に基づく解決策の提示が要求されよう。そうしたニーズに対応する有能な人材を育成することが21世紀の大学としての使命であり、目標である。その使命を達成するために、東海大学は総合大学として、理系・文系を融合したリベラルアーツ教育を教育方針としている。この方針に沿って、経済学科は、現在社会が様々な改革の必要性に直面しているという基本認識のもとに、経済学を中心に学際的知識をも身につけて、常に複眼的に、より幅広い視点から問題解決できる能力を高めることを教育方針としている。特に、副専攻としての経済学は、政治・経営・法律といった周辺分野はもちろんのこと、情報技術や環境技術等の理系分野をも取り込んだ学際的知識と、幅広い視野の形成と問題解決能力の養成に大いに役立つものである。

## ●履修のポイント

幅広い知識や学際的知識の柱となる“核”、つまり、主専攻の専門知識なくしては、十分に生かすことは不可能であることを認識しておくこと。副専攻とは言え、他分野の専門科目を履修することになるので、きちんと基礎から応用へと体系的に学ぶことができるよう、指導教員等のアドバイスを受けながら履修すること。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

単なる単位取得目的のつまみ食いの履修は、自己形成の害になったとしても、決して益にはならないことから、これを厳に慎むように忠告しておく。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV321	マクロ経済学A	2	1				
IV322	マクロ経済学B	2	1				
IV323	ミクロ経済学A	2			1		
IV324	ミクロ経済学B	2			1		
IV333	国際経済学A	2	1				
IV334	国際経済学B	2	1				
IV351	金融論A	2			1		
IV352	金融論B	2			1		
IV355	経済政策論A	2	1				
IV356	経済政策論B	2	1				

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

経営学副専攻は経営学科における7つの分野のうち、経営の理論・知識とデータ分析を対象とした5つの分野の専門科目群から構成されている。これらの科目群はいずれも、現代の企業経営において求められている人材が持つべき最低限の基礎的な理論である。これらの科目をバランスよく履修することで、さまざまなビジネス活動において迅速かつ適切な意思決定を行うために必要な論理的思考能力などを修得する。

## ●履修のポイント

経営学副専攻を履修するにあたり、まず基礎科目4科目を専門科目に先行して履修することを強く推奨する。基礎科目とは、「マネジメント入門」、「マーケティング入門」、「アカウンティング&ファイナンス入門」、「経営統計学」の4科目である。基礎科目以外の科目については、「マネジメント」、「マーケティング」、「アカウンティング&ファイナンス」、「マネジメントシステム」、「データ分析」の5つの分野の科目をバランスよく履修して、経営学全般について学修して欲しい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

経営学科の科目は、受講希望者が多く混雑することが予想される。上記の科目においても、やむを得ず何らかの基準によって履修制限を実施する場合がある。このため、履修希望は初回ガイダンスには必ず出席したうえで、担当教員に履修が可能であるか否かの確認を必ず行って欲しい。なお、副専攻対象の科目には、経営学科において異なる学期に複数設定されているものもあるが、必ず指定された学期のクラスを履修してください。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV110	マネジメント入門	2	1		1		指定学期のクラスを履修すること
IV120	マーケティング入門	2	1		1		指定学期のクラスを履修すること
IV130	アカウンティング&ファイナンス入門	2	1		1		指定学期のクラスを履修すること
IV150	オペレーションズ・マネジメント概論	2			1		指定学期のクラスを履修すること
IV160	経営統計学	2	1		1		指定学期のクラスを履修すること
IV210	経営戦略論基礎	2	1		1		指定学期のクラスを履修すること
IV220	リテリング 1	2	1		1		指定学期のクラスを履修すること
IV230	ファイナンス基礎	2	1		1		指定学期のクラスを履修すること
IV310	マネジメント論 B	2			1		指定学期のクラスを履修すること
IV220	消費者行動	2	1				指定学期のクラスを履修すること
IV330	財務会計論	2	1		1		指定学期のクラスを履修すること

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

国際学を副専攻とする学生には、グローバル化する社会に貢献できる地球市民としての豊かな教養と感性、高い倫理観を持って多文化共生社会で生きていける力を身に付けてもらいたい。国際学部の授業のなかには、ディスカッションやプレゼンテーションが多く取り入れられ、英語で国際問題を議論する機会もあり、他学部他学科の学生のみならず留学生とともに学ぶ科目がいくつも用意されている。副専攻のための科目は、主専攻科目の中からそのような科目を中心に選んで構成している。国際的問題や多文化共生に関心のある学生が集うことを歓迎する。

## ●履修のポイント

副専攻カリキュラム表から16単位以上を選んで履修すること。日本語と英語の併用による授業は次のとおりである。「インターナショナル・セキュリティ」「グローバル・リスク」「SDGsとグローバル・コミュニティ」「国境と人のモビリティ」「グローバル・リーダーシップ」「グローバル市民社会論」「エスニシティとナショナリズム」「ディアスポラとグローバリゼーション」また「INTERCULTURAL COMMUNICATION ADVANCED」「GLOBALIZATION AND ENVIRONMENT」は、英語で行われる授業である。他の授業も、学生による発表やディスカッションが多く取り入れられ、また英語を使う機会もある参加型の授業となっている。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

副専攻を決めたら、履修する科目の担当教員にその旨を伝えること。授業の際、積極的に教員とコミュニケーションをとり、わからないことを放置せずアドバイスを受けるようにすること。湘南校舎と高輪校舎で開講される科目があるため、事前に確認をする必要がある。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
210	インターナショナル・セキュリティ	2			1		和英併用
310	グローバル・リスク	2	1				和英併用
220	NGO/NPO 論	2	1				
220	SDGs とグローバル・コミュニティ	2			1		和英併用
220	国境と人のモビリティ	2			1		和英併用
320	グローバル・リーダーシップ	2	1				和英併用
320	グローバル市民社会論	2			1		和英併用
320	INTERCULTURAL COMMUNICATION ADVANCED	2	1				英語で実施
220	エスニシティとナショナリズム	2			1		和英併用
320	ディアスポラとグローバリゼーション	2			1		和英併用
320	GLOBALIZATION AND ENVIRONMENT	2	1				英語で実施

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

観光学部観光学科は、日本を牽引する主要産業としての観光産業および観光による地域活性化を進める地方における人材を育成し、社会へと送り出すミッションを有している。また、観光は裾野が広く、幅広い知見を持つ人材を社会が必要としている。このような社会的要請を踏まえ、本副専攻においても、他学科の学生が主専攻で学ぶ専門を活かして観光を考え、将来、ホスピタリティ産業、ツーリズム産業や地域で活躍することができるように、特定の分野に偏らず総合的な学修ができるように配慮している。

## ●履修のポイント

履修する順序は問わないが、グレードナンバーが低い科目から履修することを推奨する。副専攻科目はいずれも観光学科の主専攻科目であり、学科の学生は関連科目も学んでいる。本副専攻の履修者は、授業で指示された関連文献等を理解し、観光に関する知見を広げるなど、授業に関連する事象について自習することが授業内容を理解するうえで必要である。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV220	国際観光論	2	1				
IV220	観光メディア論	2			1		
IV330	フード・サービス論	2			1		
IV330	旅行産業論	2	1				
IV330	国際交通論	2	1				
IV330	MICE マネジメント概論	2			1		
IV330	レジャー・レクリエーション論	2			1		
IV340	観光政策論（総論）	2	1				
IV340	持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）	2			1		
IV340	観光まちづくり論	2	1				
IV340	パークス論	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻の教育方針は、情報通信学に関する基礎的知識や技術を修得し、各自が目指す専門の中でその知識や技術を応用できる素養を身に付けさせることである。教育目標は、本カリキュラムに沿って修得した情報通信に関する知識および技術を各自の専門に関連づけることで社会に生じる諸問題に対して解決を目指すことができる人材を育成することである。

## ●履修のポイント

情報通信技術には、幅広い知識の総合的な活用が求められる。本副専攻の科目を積極的に履修することで、自己の学科科目の履修によって得られる知識に加えて、新たな知識を獲得することが期待できる。履修においては、自己の目的を明確にし、自ら学ぶ姿勢を維持することが重要である。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

本副専攻の科目の多くは、数学の知識を必要とする。線形代数、微分積分などは事前に学んでおく必要がある。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV210	情報理論	2	1				
IV210	要求工学	2	1				
IV210	人間工学	2	1				
IV210	デジタル信号処理	2			1		
IV210	データベース	3			2		履修人数を制限する可能性有り
IV210	コンピュータアーキテクチャ	3			2		履修人数を制限する可能性有り
IV210	認知科学	2			1		
IV210	暗号と情報セキュリティ	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

数学をより深く理解するには代数学、幾何学、解析学、統計学およびこれらと横断的に関わる計算機に関する基本的な概念が必要となる。本専攻においては、将来数学を本格的に勉強する際に必要な様々な概念や計算力を養うとともに、論理的・抽象的思考力を育成することを目標とする。併せて、図形的・直観的発想力を鍛えることを目指す。

## ●履修のポイント

- ・数学の奥深さに興味・関心のある学生が履修することを望む。
- ・講義だけではなく、普段から継続して勉強することが重要である。そのために、予習・復習を欠かさないこと、また積極的に問題演習に取り組んだり、教科書や参考書などを自ら進んで読むことが大切である。
- ・数学科主専攻科目の1年次科目「微分積分学1 A」「微分積分学1 B」「微分積分学2 A」「微分積分学2 B」「線形代数学1 A」「線形代数学1 B」「線形代数学2 A」「線形代数学2 B」を履修することが望ましい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV210	計算機数学序論 1	2	1				
IV210	計算機数学序論 2	2			1		
IV120	代数学序論 1	2			1		
IV220	代数学序論 2	2	1				
IV230	幾何学序論 1	2	1				
IV230	幾何学序論 2	2			1		
IV240	解析学序論 A	2	1				
IV240	解析学序論 B	2	1				
IV250	統計学序論 1	2	1				
IV250	統計学序論 2	2			1		



## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

「情報の数理」では、IT 技術の根幹をなす数理科学的能力の基礎を身につけることを教育目標としている。現代社会で必要とされている能力には(1)膨大な情報の中から必要な情報を収集する能力、(2)情報を分析し、体系的に情報を再構築する能力があるが、これらの基礎となるのが数理科学的な素養である。「情報の数理」では、数理科学的な思考法を通して様々な現象の背後にある原理を洞察・理解する能力を身につけることを目指す。

## ●履修のポイント

情報数理学科の第1セメスター及び第2セメスター開講科目であるプログラミング1、2、基礎数理A、B、微分積分学1A、1B、2A、2B、線形代数1、2の内容に関する素養があることが望ましい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV220	代数学序論	2	1				
IV220	解析学序論A	2	1				
IV220	解析学序論B	2	1				
IV220	幾何学序論	2	1				
IV220	確率序論	2	1				
IV220	統計序論	2			1		
IV220	基礎数理C	2			1		
IV220	離散数学序論	2			1		
IV230	情報処理序論A	2	1				
IV230	情報処理序論B	2	1				
IV230	情報処理序論C	2			1		
IV230	情報処理序論D	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

物理学は、現象を支配する法則を解明する学問とも言え、科学技術の基礎から先端までを幅広くカバーしている。副専攻科目に関しては、物理学全体の分野を網羅するように開講されており、サブメジャー型学修を志す学生の育成を目指す。開講科目の主たるものは、「力学1・2」「電磁気学1」「熱力学」「統計力学1」「量子力学1・2」で、その他にいくつかの学科専門科目が開講されている。また、これらをよりよく理解する上で、物理学の数学的表現方法を補う「物理数学1・2」が開講されている。

## ●履修のポイント

これらの科目は、既に大学の物理学基礎部分を十分学んでいることを前提としたレベルで開講している。また、数学的扱いが多いので数学関連科目を受講しておくことが望ましい。物理学では論理を積み重ねていくことが重要である。自ら調べ、考え、解いて、そして説明する姿勢を身につけてもらうことが大切である。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

物理学を修得するには、関連する演習問題を解きながら必ず復習を行うと効果的である。成績は小テスト、試験、レポート等で評価する。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV130	力学1	2	1		1		
IV130	力学2	2			1		
IV240	電磁気学1	2	1				
IV340	電磁場	2	1				
IV240	エレクトロニクス	2			1		
IV250	熱力学	2			1		
IV350	統計力学1	2	1				
IV270	量子論	2	1				
IV270	量子力学1	2			1		
IV370	量子力学2	2	1				
IV120	物理数学1	2	1				
IV120	物理数学2	2			1		
IV220	物理数学3	2	1				
IV360	原子・分子物理学	2	1				

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

化学は、ものの変化や性質を扱う学問であり、物質を扱うあらゆる分野の基礎を成している。化学副専攻では、将来化学の専門分野を学ぶのに必要となる、あるいは生命科学や環境科学といった化学関連分野を学ぶ際に必要となる化学の基礎的知識を修得することを目標とする。そのために、理学部化学科の専門基礎科目の中から講義科目を中心に副専攻科目を選出している。さらに、理論の検証、ものの見方や考え方、発見することを学ぶために、実験科目も1科目履修できるようにしている。

## ●履修のポイント

最初に基礎科目である『基礎化学1』と『基礎化学2』を履修することを推奨する。特に、高校で化学をあまり学んでいない場合は、必ず最初に履修する。化学を学ぶ上でものを実際に扱う経験は非常に重要であるので、『化学実験（コンピュータ活用を含む）』の履修を勧める。『分析化学1・2』『無機化学1・2』『有機化学1・2』『物理化学1・2』は化学の根幹をなす4つの分野の専門基礎科目であり、偏りがないように履修することを推奨する。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

『化学実験（コンピュータ活用を含む）』の履修については、事前に化学科との相談が必要である。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV120	基礎化学1	2	1				
IV120	基礎化学2	2			1		
IV120	化学実験（コンピュータ活用を含む）	2	同2		同2		
IV231	分析化学1	2	1		1		
IV232	分析化学2	2	1		1		
IV241	無機化学1	2	1		1		
IV242	無機化学2	2	1		1		
IV251	有機化学1	2	1		1		
IV252	有機化学2	2	1		1		
IV261	物理化学1	2	1		1		
IV262	物理化学2	2	1		1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

土木工学副専攻は、産業経済活動を支える社会基盤の整備と安全で快適な生活空間の創造に関する工学専門知識を修得するものである。産業構造の転換や社会構造の変化に対応した新たな社会基盤の計画・建設に必要とされる専門知識とともに、自然環境の保全や自然災害に対する防災、老朽化する社会基盤施設の維持管理等について、他の分野と連携しながら総合的な視点で考えることのできる人材の育成を目標とする。

## ●履修のポイント

防災と環境は土木工学のキーワードであり、開講される副専攻科目群の中から、このキーワードに各自の関心・必要性を考え合わせバランスよく履修することが重要である。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

測量学1・測量学2・測量実習を取得しても、測量士補の資格は取得できない。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV320	建設 CAD	2	1				
IV330	橋梁工学	2		14			
IV340	コンクリート工学1	2	1		1		
IV330	河海工学	2	1				
IV360	上下水道工学	2	1				
IV360	環境工学	2	1				
IV330	道路工学	2			1		
IV350	土木施工	2	1				
IV170	測量学1	2	1				
IV170	測量学2	2			1		
IV270	測量実習	2	同2				
IV380	都市・地域計画	2	1		1		

●履修対象学生

2023年度入学生対象

●副専攻の教育方針と教育目標

生物工学は、生物の織り成す複雑で多様な現象を理解して応用するため、生物学・化学・物理学をベースとして、免疫学・バイオテクノロジーなどの高度な内容も包含しながら発展してきた学問である。従って、この分野を学修では、生物学の基礎を学ぶとともに、その様々な発展形についても修得する必要がある。生物工学副専攻では、基礎的な生物学や生化学の科目と共に、脳神経科学や免疫学等の専門的な内容の科目も配しており、生物学を多面的に学修することが可能なカリキュラムとしている。本副専攻では、これら科目を通して、長足の進歩を遂げた生物学を多面的に捉える能力を養うことを目的とする。

●履修のポイント

本副専攻では、高等学校での生物基礎および生物の基本的な内容を理解していることを前提としている。履修においては、グレードナンバーを参照して、適切な学年次での履修を推奨する。まず最初の段階として、現代生命科学・基礎生化学・酵素学を早い時期に履修し、生命現象や生体分子に関する基礎知識を得ることが望ましい。これらを基盤として、発展的あるいは応用的な科目である脳神経科学や分子生物学、細胞生物学などに進むと、より良い理解が得られる。免疫学やバイオテクノロジー等の科目は高度な内容を含み、興味本位でやみくもに履修しても理解が困難なため、段階を追って各科目を順序良く履修することを勧めている。

●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

設備のキャパシティ等の物理的制約や安全上の懸念があるため、実験科目を含む一部の生物工学科主専攻科目は他学科履修が認められていない。

このため、生物工学副専攻の科目にも含まれていない。

副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV110	現代生命科学	2	1				
IV110	基礎生化学	2			1		
IV110	酵素学	2			1		
IV220	代謝生化学	2	1				
IV220	脳神経科学	2	1				
IV220	分子生物学	2	1				
IV220	遺伝子工学	2			1		
IV220	細胞生物学 1	2			1		
IV320	細胞生物学 2	2	1				
IV350	免疫学	2	1				
IV360	生物無機化学	2			1		
IV360	バイオテクノロジー	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

経済のグローバル化、少子高齢化（人口減少）、経済の定常状態等、日本経済を取り巻く環境は厳しさを増している。激動する経営環境の中で企業のみならず個人も確固とした方向性を持つための羅針盤を必要としている。その有力なツールが経営学である。本副専攻における教育目標は、経営学の基礎を身につけ、社会で機動性、柔軟性、創造性を発揮できる有意人材を養成することである。文系の学生でも理系の学生でも多くの学生は企業等に就職する。その際に重要なことは文理融合的な複眼的視点である。地球環境への配慮と社会的人権を尊重した21世紀型の新しい経営学を体得した人材の育成が必要である。その目標達成のために、経営学を中心とした科目に加えて、経営学を分かりやすく理解するために経済学科目も用意する。

## ●履修のポイント

企業経営学の科目を中心に提供しているが、そのなかでもビジネスに力点を置いた科目を提供している。したがって、履修においては、どの科目でも経営学の視点を忘れないようにしてもらいたい。また21世紀型の経営学は、特にビジネス倫理学で展開しているので、この科目は是非履修してもらいたい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

副専攻の単位としては認定されないが、「経営学概論」、「経済学概論」は、経営学の概要を理解する基礎となる科目であるため、関連づけて履修することを強く推奨する。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV140	マーケティング論	2			1		
IV140	経営管理論	2	1				
IV240	経営組織論	2	1				
IV240	金融論	2	1				
IV340	経営戦略論	2	1				
IV240	流通論	2			1		
IV340	人的資源管理論	2	1				
IV240	サービスマーケティング	2			1		
IV340	ビジネス倫理学	2			1		
IV340	組織行動論	2	1				
IV240	ミクロ経済学	2			1		
IV340	マクロ経済学	2	1				

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

心理学とは、心と行動の結びつきを科学的にアプローチし、その行動や認知を客観的に分析・観察するものである。つまりは「心の科学」と捉えられる分野である。この心理学の考え方は、日常生活に止まらず、医療、広報メディア、観光、企業経営などあらゆる場面で関係しており、その基本を理解しておくことは、自身の専門分野をより高めていく上で極めて重要な要素の一つとなる。特に、さらなる発展を遂げているネットワークを中心とする高度情報化社会においては、人の心をどうつなぎ合わせていくかという心理学的側面が今まで以上に重要なカギを握ってくると考えられる。本副専攻では、来る高度情報化社会において、それぞれの立場の中で心理学的側面を融合させながら活躍していける人材育成を目指すと共に、高度情報化社会の中で人の心と行動を客観的に分析・観察できる基礎能力の養成を教育の目標としている。

## ●履修のポイント

心理学の全般的理解の基礎として「心理学概論」、専門的に理解していく科目として「社会心理学」から「心理データ解析法」までの8科目を履修の柱とし、メディア社会の概要を理解する基礎として「メディア社会論」、「マスメディアコミュニケーション論」を展開している。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

文理融合学部の学生は、副専攻の単位として「心理学概論」は認定されないが、心理学の概要を理解する基礎となる科目であるため履修を強く推奨する。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV130	心理学概論	2	1		1		文理融合学部生 副専攻対象外
IV160	メディア社会論	2	1		1		
IV260	マスメディアコミュニケーション論	2	1				
IV160	社会心理学	2			1		
IV260	パーソナリティ論	2	1				
IV260	学習心理学	2			1		
IV360	認知心理学	2	1				
IV360	発達心理学	2			1		
IV360	組織・産業心理学	2			1		
IV260	消費者行動論	2			1		
IV360	心理データ解析法	2	1				



## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

データの活用は問題解決や意思決定などに大変有用である。特に、ICT（情報通信技術）やIoT（モノのインターネット）が高度に発達している現代では、社会に溢れる大量のデータ、いわゆるビッグデータの取得と分析が可能となっており、社会の課題やその原因の探求、さらに、産業における新たな価値の創出にデータが活用されている。本副専攻では、このようなデータの取得、整理、分析までの一連の手順を知り、そのための、数学、プログラミング、情報処理などに関する専門の知識と技術を習得することを教育目的とする。

## ●履修のポイント

データサイエンスの基礎科目として、「プログラミング入門」、「プログラミング」、「情報処理工学」を開講しているので、これらを積極的に履修すること。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

データサイエンスの就学にあたり、統計学や微積分などの数学の基礎知識が要求されるので、必要に応じて、本副専攻以外の数学の科目を履修をすること。

文理融合学部の学生は、副専攻の単位として「プログラミング入門」は認定されないが、データサイエンスを学ぶ上で基礎となる科目であるため履修を強く推奨する。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV120	プログラミング入門	2	1		1		文理融合学部生 副専攻対象外
IV150	プログラミング	2	1		1		
IV250	情報処理工学	2	1				
IV260	コンピュータアーキテクチャ	2	1				
IV260	アルゴリズムとデータ構造	2			1		
IV260	プログラミング応用	2	1				
IV260	オブジェクト指向言語	2			1		
IV360	データベース	2	1				
IV360	オペレーティングシステム	2	1				
IV360	データサイエンス	2			1		
IV460	ソフトコンピューティング	2	1				

●履修対象学生

2023年度入学生対象

●副専攻の教育方針と教育目標

地球規模で進行する環境問題や人口の増加、局地的な災害や異常気象はグローバル化が進む現代社会においては、他国の問題が直ちに我が国の食料事情にも反映する結果となっている。我々が安全で安定した生活を送る上で、農学の基礎的な知識は不可欠である。本副専攻では、農学という極めて広範囲の学問領域の中から生態系の基盤である植物の生理や生態および環境保全の知識を基礎とし、植物栽培とその栽培環境等について幅広い知識の修得を目標としている。

●履修のポイント

本副専攻は、農学科の初年度から2～3セメスターに配置されている専門導入科目を中心に構成されており、履修に当たってはまず生態学や形態学、土壌学等の農学の基礎となる分野を学び、次に各種農産物の栽培技術の基礎的な科目や、昆虫学・作物学など環境や生物多様性の保全などに関わる事項も含んだ科目を学ぶことで、農業に関する分野を幅広く履修できるように科目を配置している。

●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

自学科の科目履修と併せて、計画的に修得するよう心がけることが重要である。副専攻科目と自学科開講科目を平行して履修することにより、幅広い方向から自学科専門分野に対して「自ら考える力」を持つことができるようになることが必要である。

副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV120	植物の形態と機能	2	1				
IV120	園芸学の基礎	2	1				
IV120	昆虫生物学	2			1		
IV120	土と肥料	2			1		
IV220	植物の生態	2	1				
IV220	作物の生産	2	1				
IV220	植物病理学	2	1				
IV220	植物の遺伝	2	1				
IV230	作物学	2	1				
IV230	果樹園芸学	2	1				
IV230	蔬菜花卉園芸学	2			1		
IV230	植物育種学	2			1		
IV230	環境緑地学	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

私たちが動物の関係を考えた場合、一般的な社会では生活のパートナーとしての動物（伴侶動物など）や自然環境としての動物（野生動物など）が対象として議論されることが多い。しかしながら、現代において私たちの生活に最も深い繋がりを持つ動物は、食生活を支えている動物（食用動物）であり、この動物生産を避けて本質的な人と動物の関係を考えることは出来ない。本副専攻においては、安全で安心な畜産物を安定的に供給するこれからの動物生産を考える上で重要な基礎知識の修得を教育目標としている。

## ●履修のポイント

本副専攻の科目は、動物生産に関する基礎となる動物体に関する知識を修得するための科目と、動物を実際に飼養する場合に必要な応用的知識を修得するための科目から構成される。前者には動物体の構造と機能、遺伝と生殖、栄養と行動等に関する科目が、後者には動物の飼養管理、飼料の生産と利用、環境との繋がりに関する科目が配置されている。履修にあたっては、前者の基礎科目群をまず履修することが、効果的な知識の習得に結びつくと考える。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

自学科の履修科目と併せて、計画的に取得するように心がけることが重要である。副専攻科目と自学科開講科目を平行して履修することにより、幅広い方向から自学科専門分野に対して「自ら考える力」を持つことが重要である。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV120	動物遺伝学	2	1				
IV120	動物生体機構学	2			1		
IV220	動物繁殖学	2	1				
IV220	動物育種学	2			1		
IV320	家畜人工授精論	2	1				
IV130	動物生態学	2	1				
IV230	動物栄養学	2	1				
IV230	動物行動学	2	1				
IV230	動物管理・環境学	2			1		
IV330	アニマルウェルフェア論	2			1		
IV360	地域動物論	2	1				

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

食料生産を使命とする農業分野においては、動物、植物および微生物、ならびにそれらの生産物の特質を明らかにし、より優れた生産機能や食品特性を食物に付与するための教育・研究が重要である。本副専攻においては、食品科学分野および生命科学分野に焦点を絞り、農学部食生命科学科の開講科目から各分野の内容を網羅するように構成されている。したがって、それぞれの分野における知識を身につけるとともに、それらの内容を総合的に結びつけることができる能力を育成することを教育目標としている。

## ●履修のポイント

本副専攻は、食品科学関連科目および生命科学関連科目にて構成されている。各関連科目からバランスよく履修することを推奨する。科目の取得を段階的効果的にするために、グレードナンバーの低い科目から履修することを併せて推奨する。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

自学科の科目履修と併せて、計画的に取得するように心がけることが重要である。副専攻科目と自学科開講科目を平行して履修することにより幅広い方向から自学科専門分野に対して「自ら考える力」を持つことが必要である。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
IV230	食品バイオテクノロジー	2	1				
IV230	発酵化学	2	1				
IV230	食品学	2	1				
IV230	食品加工学	2	1				
IV230	食品機能科学	2			1		
IV230	栄養化学	2			1		
IV230	食と病態生化学	2			1		
IV140	微生物の生態と分類	2			1		
IV140	遺伝子工学	2			1		
IV240	天然物化学	2	1				
IV240	代謝化学	2	1				
IV240	分子遺伝学	2	1				

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻では、語学力だけでなく、グローバル人材として求められる資質・能力を同時に身に付けます。仕事やその他の国際的な場面で、英語によるコミュニケーションを通して、問題解決を行いつつ、交渉・折衝へと発展させられる力を育みつつ、他者と協調的に対話し、自ら主体的に考え、自己実現ができる人材の育成を目指します。

## ●履修のポイント

将来、国際的な社会で英語を使ってやりとりをし、グローバルな社会の一員としてコミュニケーションに参画できるように、語学力だけでなく、人と対話し、協調的かつ主体的に関わり合う態度を身に付けてもらいたい。また、日頃から時事的な問題にも興味や関心を向けてほしい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
V300	英語グローバル・コミュニケーションセミナー	2	1		1		
V200	英語ディスカッション1	1	1		1		
V200	英語ディスカッション2	1	1		1		
V300	英語プレゼンテーション1	2	1		1		
V300	英語プレゼンテーション2	2	1		1		
V300	英語通訳中級	2	1		1		
V200	コミュニケーションの理論と実践A	2	1		1		
V200	コミュニケーションの理論と実践B	2	1		1		
V200	ドラマで学ぶ英語と文化	1	1		1		
V200	メディアで学ぶ英語と文化	1	1		1		
V300	国際人のための英語A	2	1		1		
V300	国際人のための英語B	2	1		1		
V300	ビジネスのための英語A	2	1		1		
V300	ビジネスのための英語B	2	1		1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻では、語学力だけでなく、アカデミック人材として求められる資質・能力を同時に身に付けます。英語によるリテラシー能力（読解力・論述力）を伸ばすことを通じて、批判的思考力や判断力を養いつつ、教養ある人材として言語や文化、社会に関する異文化リテラシーを深め、英語で専門的内容を学んでいくための力を育みます。

## ●履修のポイント

将来、多様な専門分野で、英語を使って国際的なコミュニティに参加できるように、語学力だけでなく、情報を基に多面的な視点から物事を考える力を身に付けてもらいたい。また、日頃から言語や文化的な事柄にも興味や関心を向けてほしい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

特になし

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
V300	英語アカデミック・リテラシーセミナー	2	1		1		
V300	英語スピーチ&ディベート1	2	1		1		
V300	英語スピーチ&ディベート2	2	1		1		
V200	英語圏言語文化理解A	2	1		1		
V200	英語圏言語文化理解B	2	1		1		
V200	異文化コミュニケーション論A	2	1		1		
V200	異文化コミュニケーション論B	2	1		1		
V200	社会言語学A	2	1		1		
V200	社会言語学B	2	1		1		
V300	文学で学ぶ英語と文化	2	1		1		
V300	映画で学ぶ英語と文化	2	1		1		
V200	留学のための英語A	2	1		1		
V200	留学のための英語B	2	1		1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻では、国際共通語としての英語に加え、その他の主要外国語（中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語、ロシア語、スペイン語）をも媒介言語として積極的に使いこなし、国際的な素養と文化的な多様性という視点をそなえた真のグローバル人材を育成することを教育方針とする。またグローバル化した社会の将来像を見すえ、対象言語圏の文化・歴史・時事問題に関する情報を自ら吸収・整理する演習をとおして、実社会での実践的要請に応えうる外国語能力をバランスよく身につけさせることを教育目標とする。

## ●履修のポイント

副専攻は副専攻指定科目から16単位以上を修得することにより認定される。「中国語入門」「中国語初級」等を軸として、初年度から段階的に基礎的な知識を積み上げていくことが望ましく、より早いセメスターから無理のない計画をたてて主体的に単位の修得に勤しむことが求められる。主専攻との関連や各自の将来のキャリアデザインにも十分配慮して、海外派遣留学（短期・中期・長期）への参加を各自の学修計画に組み込むことも積極的に検討されたい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

主専攻の学修と両立させるためにも、副専攻の取得時に主体的・意欲的な取り組みが求められる。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
V100	中国語圏地域基礎論	2	1		1		
V100	中国語入門1 A	1	1		1		
V100	中国語入門1 B	1	1		1		
V100	中国語入門2 A	1	1		1		
V100	中国語入門2 B	1	1		1		
V200	中国語初級1 A	1	1		1		
V200	中国語初級1 B	1	1		1		
V200	中国語初級2 A	1	1		1		
V200	中国語初級2 B	1	1		1		
V200	中国語会話初級1	1	1				
V200	中国語会話初級2	1			1		
V200	中国語講読初級1	2	1				
V200	中国語講読初級2	2			1		
V200	中国語検定初級1	1	1				
V200	中国語検定初級2	1			1		
V300	中国語会話中級1	1	1				
V300	中国語会話中級2	1			1		
V300	中国語講読中級1	2	1				
V300	中国語講読中級2	2			1		
V300	中国語表現法1	1	1				
V300	中国語表現法2	1			1		



## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻では、国際共通語としての英語に加え、その他の主要外国語（中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語、ロシア語、スペイン語）をも媒介言語として積極的に使いこなし、国際的な素養と文化的な多様性という視点をそなえた真のグローバル人材を育成することを教育方針とする。またグローバル化した社会の将来像を見すえ、対象言語圏の文化・歴史・時事問題に関する情報を自ら吸収・整理する演習をとおして、実社会での実践的要請に応えうる外国語能力をバランスよく身につけさせることを教育目標とする。

## ●履修のポイント

副専攻は副専攻指定科目から16単位以上を修得することにより認定される。「フランス語入門」「フランス語初級」「フランス語中級」「フランス語上級」を軸として、初年度から段階的に基礎的な知識を積み上げていくことが望ましく、より早いセメスターから無理のない計画をたてて主体的に単位の修得に勤しむことが求められる。主専攻との関連や各自の将来のキャリアデザインにも十分配慮して、海外派遣留学（短期・中期・長期）への参加を各自の学修計画に組み込むことも積極的に検討されたい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

主専攻の学修と両立させるためにも、副専攻の取得時に主体的・意欲的な取り組みが求められる。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期 通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマー セッション (全コマ数)	秋学期 通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインター セッション (全コマ数)	
V100	フランス語入門1 A	1	1		1		
V100	フランス語入門1 B	1	1		1		
V100	フランス語入門2 A	1	1		1		
V100	フランス語入門2 B	1	1		1		
V200	フランス語初級1 A	1	1				
V200	フランス語初級1 B	1	1				
V200	フランス語初級2 A	1			1		
V200	フランス語初級2 B	1			1		
V200	フランス語会話初級1	1	1				
V200	フランス語会話初級2	1			1		
V200	フランス語講読初級1	2	1				
V200	フランス語講読初級2	2			1		
V300	フランス語中級1	2	1				
V300	フランス語中級2	2			1		
V300	フランス語会話中級1	1	1				
V300	フランス語会話中級2	1			1		
V300	フランス語講読中級1	2	1				
V300	フランス語講読中級2	2			1		
V200	フランス語検定1	1	1				
V200	フランス語検定2	1			1		
V300	フランス語表現法1	1	1				
V300	フランス語表現法2	1			1		
V400	フランス語上級1	2	1				
V400	フランス語上級2	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻では、国際共通語としての英語に加え、その他の主要外国語（中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語、ロシア語、スペイン語）をも媒介言語として積極的に使いこなし、国際的な素養と文化的な多様性という視点をそなえた真のグローバル人材を育成することを教育方針とする。またグローバル化した社会の将来像を見すえ、対象言語圏の文化・歴史・時事問題に関する情報を自ら吸収・整理する演習をとおして、実社会での実践的要請に応えうる外国語能力をバランスよく身につけさせることを教育目標とする。

## ●履修のポイント

副専攻は副専攻指定科目から16単位以上を修得することにより認定される。「ドイツ語入門」「ドイツ語初級」等を軸として、初年度から段階的に基礎的な知識を積み上げていくことが望ましく、より早いセメスターから無理のない計画をたてて主体的に単位の修得に勤しむことが求められる。主専攻との関連や各自の将来のキャリアデザインにも十分配慮して、海外派遣留学（短期・中期・長期）への参加を各自の学修計画に組み込むことも積極的に検討されたい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

主専攻の学修と両立させるためにも、副専攻の取得時に主体的・意欲的な取り組みが求められる。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
V100	ドイツ語圏地域基礎論	2	1		1		
V100	ドイツ語入門1 A	1	1		1		
V100	ドイツ語入門1 B	1	1		1		
V100	ドイツ語入門2 A	1	1		1		
V100	ドイツ語入門2 B	1	1		1		
V200	ドイツ語初級1 A	1	1				
V200	ドイツ語初級1 B	1	1				
V200	ドイツ語初級2 A	1			1		
V200	ドイツ語初級2 B	1			1		
V200	ドイツ語会話初級1	1	1				
V200	ドイツ語会話初級2	1			1		
V200	ドイツ語講読初級1	2	1				
V200	ドイツ語講読初級2	2			1		
V300	ドイツ語中級1	2	1				
V300	ドイツ語中級2	2			1		
V300	ドイツ語会話中級1	1	1				
V300	ドイツ語会話中級2	1			1		
V300	ドイツ語講読中級1	2	1				
V300	ドイツ語講読中級2	2			1		
V400	ドイツ語上級1	2	1				
V400	ドイツ語上級2	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻では、国際共通語としての英語に加え、その他の主要外国語（中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語、韓国語、スペイン語）をも媒介言語として積極的に使いこなし、国際的な素養と文化的な多様性という視点をそなえた真のグローバル人材を育成することを教育方針とする。またグローバル化した社会の将来像を見すえ、対象言語圏の文化・歴史・時事問題に関する情報を自ら吸収・整理する演習をとおして、実社会での実践的要請に応えうる外国語能力をバランスよく身につけさせることを教育目標とする。

## ●履修のポイント

副専攻は副専攻指定科目から16単位以上を修得することにより認定される。「韓国語入門」「韓国語初級」等を軸として、初年度から段階的に基礎的な知識を積み上げていくことが望ましく、より早いセメスターから無理のない計画をたてて主体的に単位の修得に勤しむことが求められる。主専攻との関連や各自の将来のキャリアデザインにも十分配慮して、海外派遣留学（短期・中期・長期）への参加を各自の学修計画に組み込むことも積極的に検討されたい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

主専攻の学修と両立させるためにも、副専攻の取得時に主体的・意欲的な取り組みが求められる。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
V100	韓国語入門 1 A	1	1		1		
V100	韓国語入門 1 B	1	1		1		
V100	韓国語入門 2 A	1	1		1		
V100	韓国語入門 2 B	1	1		1		
V200	韓国語初級 1 A	1	1				
V200	韓国語初級 1 B	1	1				
V200	韓国語初級 2 A	1			1		
V200	韓国語初級 2 B	1			1		
V200	韓国語会話初級 1	1	1				
V200	韓国語会話初級 2	1			1		
V200	韓国語講読初級 1	2	1				
V200	韓国語講読初級 2	2			1		
V300	韓国語中級 1	2	1				
V300	韓国語中級 2	2			1		
V300	韓国語会話中級 1	1	1				
V300	韓国語会話中級 2	1			1		
V300	韓国語講読中級 1	2	1				
V300	韓国語講読中級 2	2			1		

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻では、国際共通語としての英語に加え、その他の主要外国語（中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語、ロシア語、スペイン語）をも媒介言語として積極的に使いこなし、国際的な素養と文化的な多様性という視点をそなえた真のグローバル人材を育成することを教育方針とする。またグローバル化した社会の将来像を見すえ、対象言語圏の文化・歴史・時事問題に関する情報を自ら吸収・整理する演習をとおして、実社会での実践的要請に応えうる外国語能力をバランスよく身につけさせることを教育目標とする。

## ●履修のポイント

副専攻は副専攻指定科目から16単位以上を修得することにより認定される。「ロシア語入門」「ロシア語初級」等を軸として、初年度から段階的に基礎的な知識を積み上げていくことが望ましく、より早いセメスターから無理のない計画をたてて主体的に単位の修得に勤しむことが求められる。主専攻との関連や各自の将来のキャリアデザインにも十分配慮して、海外派遣留学（短期・中期・長期）への参加を各自の学修計画に組み込むことも積極的に検討されたい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

主専攻の学修と両立させるためにも、副専攻の取得時に主体的・意欲的な取り組みが求められる。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
V100	ロシア語入門 1 A	1	1				
V100	ロシア語入門 1 B	1	1				
V100	ロシア語入門 2 A	1			1		
V100	ロシア語入門 2 B	1			1		
V200	ロシア語初級 1 A	1	1				
V200	ロシア語初級 1 B	1	1				
V200	ロシア語初級 2 A	1			1		
V200	ロシア語初級 2 B	1			1		
V200	ロシア語会話初級 1	1	1				
V200	ロシア語会話初級 2	1			1		
V200	ロシア語講読初級 1	2	1				
V200	ロシア語講読初級 2	2			1		
V300	ロシア語中級 1	2	1				
V300	ロシア語中級 2	2			1		
V300	ロシア語会話中級 1	1	1				
V300	ロシア語会話中級 2	1			1		
V300	ロシア語講読中級 1	2	1				
V300	ロシア語講読中級 2	2			1		

●履修対象学生

2023年度入学生対象

●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻では、国際共通語としての英語に加え、その他の主要外国語（中国語、フランス語、ドイツ語、韓国語、ロシア語、スペイン語）をも媒介言語として積極的に使いこなし、国際的な素養と文化的な多様性という視点をそなえた真のグローバル人材を育成することを教育方針とする。またグローバル化した社会の将来像を見すえ、対象言語圏の文化・歴史・時事問題に関する情報を自ら吸収・整理する演習をとおして、実社会での実践的要請に応えうる外国語能力をバランスよく身につけさせることを教育目標とする。

●履修のポイント

副専攻は副専攻指定科目から16単位以上を修得することにより認定される。「スペイン語入門」「スペイン語初級」等を軸として、初年度から段階的に基礎的な知識を積み上げていくことが望ましく、より早いセメスターから無理のない計画をたてて主体的に単位の修得に勤しむことが求められる。主専攻との関連や各自の将来のキャリアデザインにも十分配慮して、海外派遣留学（短期・中期・長期）への参加を各自の学修計画に組み込むことも積極的に検討されたい。

●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

主専攻の学修と両立させるためにも、副専攻の取得時に主体的・意欲的な取り組みが求められる。

副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期 通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマー セッション (全コマ数)	秋学期 通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウィンター セッション (全コマ数)	
V100	スペイン語圏地域基礎論	2	1	14	1	14	
V100	スペイン語入門1 A	1	1	14	1	14	
V100	スペイン語入門1 B	1	1	14	1	14	
V100	スペイン語入門2 A	1	1	14	1	14	
V100	スペイン語入門2 B	1	1	14	1	14	
V200	スペイン語初級1 A	1	1				
V200	スペイン語初級1 B	1	1				
V200	スペイン語初級2 A	1			1		
V200	スペイン語初級2 B	1			1		
V200	スペイン語会話初級1	1	1	14			
V200	スペイン語会話初級2	1			1	14	
V200	スペイン語講読初級1	2	1	14			
V200	スペイン語講読初級2	2			1	14	
V300	スペイン語中級1	2	1				
V300	スペイン語中級2	2			1		
V300	スペイン語会話中級1	1	1				
V300	スペイン語会話中級2	1			1		
V300	スペイン語講読中級1	2	1				
V300	スペイン語講読中級2	2			1		
V400	スペイン語上級1	2	1				
V400	スペイン語上級2	2			1		
V200	スペイン語検定1	1	1	14			
V200	スペイン語検定2	1			1	14	

## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

本副専攻の教育方針は、近年の社会的要請に応えられる、広い視野と専門的知識を持った優秀な日本語教師を養成していくことにある。

現在、日本には約300万人の在留外国人がおり、2019年度には建設業、造船業など14業種で就労可能な新しい在留資格「特定技能1号、2号」が新設され、外国人に対する日本語教育は各分野で喫緊の課題となっている。また、一方で同年には国家資格「公認日本語教師」の設置も決定されるなど、日本語教師の育成も並行して進められている。本副専攻はそういった現状に鑑み、日本語を教える優秀な日本語教師を養成していくことを大きな目標とする。同時に単に日本語教師となるだけではなく、この分野での優秀な研究者を育てる入り口としての役割をもつことも目標とする。

## ●履修のポイント

日本語教育法概論A、Bがこの分野の全体像を把握するために最も適切な基礎的科目となるために、最初に履修することを勧める。また、この副専攻のさまざまな科目群では、単に教室での学習だけではなく、多くの実践の機会や異文化コミュニケーションの機会を提供している。優秀な日本語教師になるためには本学における留学生を含め、多くの母語を異にする人々との関わっていく経験が重要であるので、授業内、さらには授業外においても積極的に異文化コミュニケーションの場に参加し、授業での知識を実践に移してほしい。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

本学では副専攻科目は16単位で修了とされるが、日本語教育法副専攻は26単位で修了となる。文化庁が日本語教師養成の指針として、大学の副専攻では26単位以上の修得が必要であるとする指針を出しているためである。それを受けて各日本語学校も26単位以上修得したものを教員として採用する傾向にある。したがって、将来日本語学校で日本語教師として働きたいと考えている学生は、本副専攻で設置されている30単位のうち少なくとも26単位を修得するようにしなければならない。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期 通常授業期間 (1週当たりの コマ数)	サマー セッション (全コマ数)	秋学期 通常授業期間 (1週当たりの コマ数)	ウィンター セッション (全コマ数)	
V100	日本語教育法概論A	2	1		1		
V100	日本語教育法概論B	2	1		1		
V200	現代日本語文法A	2	1		1		
V200	現代日本語文法B	2	1		1		
V200	日本語音声学	2	1				
V200	日本語語彙論	2			1		
V200	日本語教育方法論	2			1		
V200	日本語授業研究	2	1				
V200	日本文化概論	2	1				
V200	日本語と教育A	2	1				
V300	日本語と教育B	2	1				
V300	日本語と教育C	2			1		
V300	日本語教育演習	2			1		
V300	言語学入門	2			1		
V300	第二言語習得研究	2			1		



## ●履修対象学生

2023年度入学生対象

## ●副専攻の教育方針と教育目標

高度に複雑化し、変化の著しい現代の情報社会においては、既存の情報サービスやソフトウェアを活用するスキルだけでなく、多様な情報技術を基盤として、企業組織におけるビジネスモデルや人々の生活様式そのものの変革（デジタルトランスフォーメーション：DX）に対応できる力が求められている。ゆえに、この情報社会を生き抜く為には、利用者や開発者、もしくは運用者など、情報サービスに対するその立場や役割に関わらず、自らの専門分野と情報技術を融合し応用できる広い視野が必要になる。このような時代背景を踏まえ、本副専攻では、学部学科を問わず全ての学生を対象とし、人工知能・データサイエンス・IoTなどに代表される中核的な情報技術を実践的に学ぶとともに、これらを情報社会における諸問題の解決に繋げるための知識・技術・経験を得ることを教育目標とする。

## ●履修のポイント

本副専攻は、学部学科を問わず全ての学生を対象としており、特別な前提知識を要求せず、各科目の先修条件も定めていない。よって、各科目のグレードやシラバス、別途パンフレット等にて提示する推奨履修モデルを参照しながら、各学生の学力レベルや興味に応じて、段階的に学習を進めていくことができる。また、本副専攻は総計9科目からなり、デジタルトランスフォーメーション（DX）の概要、人工知能の概論から活用、データ分析の手法、ソフトウェア開発、セキュリティ対策、情報倫理など、幅広い学修領域を取り扱う。よって、各学生はその組み合わせにより、自らの知識・技術の個性をさらに磨くことができる。特に、「社会情報実践」は、データサイエンスおよび人工知能を活用したビジネスデータ分析、新たなアプリケーションの開発など、文系・理系それぞれに適した現代的なテーマの中から希望する内容を選択し、その問題解決への手法を実践的に学ぶ科目である。本副専攻で学んだことの集大成として、その履修を強く推奨する。

## ●副専攻取得時の注意点・その他の注意点

情報分野に興味がある・必要性を感じている・普段から活用している、このどれかに該当する学生であれば、その所属学科・専門分野を問わず、本副専攻の履修を歓迎する。また、教科書やマニュアル通りに作業するだけでなく、情報技術の新たな応用を見出すためにも、本学や各自の情報環境を日常的かつ積極的に活用する姿勢が求められる。なお、各科目は、授業運用及びコンピュータ教室定員等の条件により、履修者数を制限することがある。副専攻修得希望者は優先されるが、その場合でも抽選・面談等により履修者を選抜する可能性があるため、初回授業には必ず出席することが望ましい。

## 副専攻科目 カリキュラム

グレード ナンバー	科 目 名	単位数	春/秋学期 開講期間				備 考
			春学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	サマーセッション (全コマ数)	秋学期通常授業期間 (1週当たりのコマ数)	ウインターセッション (全コマ数)	
V100	社会情報概論	2	1		1		
V100	情報セキュリティ概論	2	1		1		
V100	情報テクノロジー概論	2	1		1		
V100	データサイエンス入門	2	1		1		
V200	データサイエンス基礎	2	1		1		
V200	人工知能	2	1		1		
V100	プログラミング基礎	2	1		1		
V200	プログラミング応用	2	1		1		
V300	社会情報実践	2	1		1		



## 海外派遣留学制度による単位認定

### 長期派遣留学

留 学 先	必選別	単位数
台湾・東海大学	☆	8
復旦大学	☆	8
シラキューズ大学	☆	8
ブリティッシュ・コロンビア大学	☆	8
アイスランド大学	☆	8
エセックス大学	☆	8
ストックホルム大学	☆	8
サラマンカ大学	☆	8
コペンハーゲン商科大学	☆	8
コペンハーゲン大学	☆	8
フンボルト大学	☆	8
オスロ大学	☆	8
ベルゲン大学	☆	8
トゥルク大学	☆	8
エックス・マルセイユ大学	☆	8
ブルガリア教育科学省	☆	8
モスクワ大学	☆	8
漢陽大学	☆	8

### 中期派遣留学

留 学 先	必選別	単位数
国民大学	☆	6
台湾・東海大学	☆	6
ウィーン大学	☆	6
デンマーク工科大学	☆	6
コペンハーゲン大学	☆	6
コペンハーゲン商科大学	☆	6
ブルゴーニュ大学	☆	6
極東連邦大学	☆	7
ブリティッシュコロンビア大学	☆	6
シラキューズ大学	☆	6
ハワイ東海インターナショナルカレッジ	☆	6
国立研究大学高等経済学院（HSE）	☆	6

### 短期派遣留学

留 学 先	必選別	単位数
漢陽大学	☆	2
北京大学	☆	2
西オーストラリア大学	☆	2
オークランド大学	☆	2
カリフォルニア大学リバーサイド校	☆	2
サンディエゴ州立大学	☆	2
ブリティッシュ・コロンビア大学	☆	2
ケント大学	☆	2
ウィーン大学	☆	2
アルカラ大学	☆	2
BOSEI フォルケホイスコーレ	☆	2
ブルゴーニュ大学	☆	2

モンクト王ラカバン工科大学	☆	1
ハワイ東海インターナショナルカレッジ	☆	2
マニトバ大学	☆	2
サラマンカ大学	☆	2
フンボルト大学	☆	2
モスクワ大学	☆	2

#### インターンシップ

留 学 先	必選別	単位数
オーストラリア・インターンシップ	☆	2
ワシントンセンター（企業インターンシップ）	☆	6

#### キャリア研修

留 学 先	必選別	単位数
サイアム大学（ホスピタリティー研修）	☆	2

## 2023年度資格取得等による単位認定一覧表

- 1) 2023年度入学生の資格取得等による単位認定科目です。
- 2) 認定科目に「\*」が記載されている科目は、「教職課程の教科に関する科目」として認定（集計）しない科目です。
- 3) 認定科目を修得済みの場合は、認定されません。同一名称科目を修得済みの場合も同様です。

認定学部・学科等			資格等の名称および級	認定法人等	認定科目・必選・単位数
体育学部	生涯スポーツ学科		④赤十字救急法救急員 または ⑤ First Aid (includes CPR)	④日本赤十字社 ⑤ American Red Cross	救急法 × 2
情報理工学部	情報科学科		情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	プログラミング実習 1 ○ 2 * 基本情報処理 1 × 2 *
			情報処理技術者試験 「応用情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	プログラミング実習 2 ○ 2 * 基本情報処理 2 × 2 *
	コンピュータ応用工学科		情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	基本情報技術 × 2 *
			情報処理技術者試験 「応用情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	基本情報技術 × 2 * プログラミング入門 ○ 4 *
			3次元 CAD 利用技術者試験準 1 級	(一社) コンピュータ教育振興協会	CAD 設計演習 × 2 *
	情報メディア学科		情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	情報メディア基礎テクノロジー 1 × 2
			情報処理技術者試験 「応用情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	情報メディア基礎テクノロジー 2 × 2
			CG エンジニア検定ベーシック	(公財) 画像情報教育振興協会 (CG-ARTS 協会)	メディアコンテンツ基本講義・演習 A × 2
			CG エンジニア検定エキスパート	(公財) 画像情報教育振興協会 (CG-ARTS 協会)	メディアコンテンツ基幹講義・演習 A × 2
			画像処理エンジニア検定エキスパート	(公財) 画像情報教育振興協会 (CG-ARTS 協会)	メディアコミュニケーション基本講義・演習 B × 2
建築都市学部	土木工学科		情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」 または 「基本情報技術者試験」 または 「応用情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	基礎情報処理 ○ 2
			測量士補 または 測量士	国土交通省国土地理院	測量学 1 × 2 * 測量学 2 × 2 * 測量実習 × 2 * ※卒業後に「測量士」を目指す場合は、上記科目は大学で履修し、修得する必要があるため、単位認定の申請はしないこと。
工学部	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	プログラミング × 2
		航空操縦学専攻	事業用操縦士 (種類：飛行機、等級：陸上多発)	国土交通省	事業用操縦士飛行実習 × 2 ※留学中、資格取得時に認定
			計器飛行証明 (種類：飛行機)	国土交通省	計器飛行証明飛行実習 × 2 ※留学中、資格取得時に認定

認定学部・学科等			資格等の名称および級	認定法人等	認定科目・必選・単位数
工学部	機械工学科		情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	(独) 情報処理推進機構	情報処理 × 2
			情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	プログラミング × 2 または 情報処理 × 2
			情報処理技術者試験 「応用情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	情報処理 × 2 プログラミング × 2
	機械システム工学科		情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	(独) 情報処理推進機構	情報処理 × 2
			情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	情報処理 × 2 または プログラミング × 2
			情報処理技術者試験 「応用情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	情報処理 × 2 プログラミング × 2
			技術英検 2 級	(公社) 日本技術英語協会	テクニカルイングリッシュ 1 × 2
			技術英検 1 級	(公社) 日本技術英語協会	テクニカルイングリッシュ 2 × 2
	電気電子工学科		情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	(独) 情報処理推進機構	プログラミング 2 × 2
			情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」 または 「応用情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	データ構造とアルゴリズム × 2
	生物工学科		情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」 または 「基本情報技術者試験」 または 「応用情報技術者試験」	(独) 情報処理推進機構	基礎情報処理 × 2
	応用化学科		甲種危険物取扱者試験 または 乙種危険物取扱者試験（全類を取得した場合のみ）	(一財) 消防試験研究センター	化学安全工学 1 × 2 化学安全工学 2 × 2
海洋学部	海洋理工学科	海洋理工学専攻	情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	(独) 情報処理推進機構	情報処理実習 × 2 プログラミング演習 × 2
			情報検定 情報活用試験 1 級 情報活用試験 2 級 情報活用試験 3 級 ※いずれの級でも認定	(一財) 職業教育・キャリア教育財団	情報処理実習 × 2
			情報検定 情報システム試験 「基本スキル」 「プログラミングスキル」 ※上記 2 分野に合格して認定	(一財) 職業教育・キャリア教育財団	プログラミング演習 × 2
			情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」 「応用情報技術者試験」 ※いずれの試験でも認定	(独) 情報処理推進機構	情報処理実習 × 2 プログラミング演習 × 2
			気象予報士	(一財) 気象業務支援センター	海洋気象学 ◇ 2

認定学部・学科等			資格等の名称および級	認定法人等	認定科目・必選・単位数
海洋学部	海洋理工 学科	海洋理工学専攻	測量士	国土交通省国土地理院	測量学 × 2 測量学実習 × 2
			環境計量士（濃度関係）	経済産業省	分析化学 × 2
		航海学専攻	情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	（独）情報処理推進機構	情報処理実習 × 2 プログラミング演習 × 2
			情報検定 情報活用試験 1 級 情報活用試験 2 級 情報活用試験 3 級 ※いずれの級でも認定	（一財）職業教育・キャリア 教育財団	情報処理実習 × 2
			情報検定 情報システム試験 「基本スキル」 「プログラミングスキル」 ※上記 2 分野に合格して認定	（一財）職業教育・キャリア 教育財団	プログラミング演習 × 2
			情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」 「応用情報技術者試験」 ※いずれの試験でも認定	（独）情報処理推進機構	情報処理実習 × 2 プログラミング演習 × 2
			気象予報士	（一財）気象業務支援センタ ー	航海気象学 × 2
	水産学科		情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	（独）情報処理推進機構	情報処理実習 × 2
			情報検定 情報活用試験 1 級 情報活用試験 2 級 情報活用試験 3 級 ※いずれの級でも認定	（一財）職業教育・キャリア 教育財団	情報処理実習 × 2
			情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」 「応用情報技術者試験」 ※いずれの試験でも認定	（独）情報処理推進機構	情報処理実習 × 2
			品質管理検定（QC 検定）3 級	（一財）日本規格協会	品質管理学 × 2
	海洋生物学科		情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	（独）情報処理推進機構	情報処理実習 × 2
			情報検定 情報活用試験 1 級 情報活用試験 2 級 情報活用試験 3 級 ※いずれの級でも認定	（一財）職業教育・キャリア 教育財団	情報処理実習 × 2
			情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」 「応用情報技術者試験」 ※いずれの試験でも認定	（独）情報処理推進機構	情報処理実習 × 2
			情報検定 情報システム試験 「プログラマ認定」	（一財）職業教育・キャリア 教育財団	情報処理実習 × 2
			公害防止管理者 （水質関係第 1 種公害防止管理者の み）	（一社）産業環境管理協会	水質学 × 2 * 水質学実験 ◇ 2 *

認定学部・学科等		資格等の名称および級	認定法人等	認定科目・必選・単位数
海洋学部	海洋生物学科	技術士（水産部門）	（公社）日本技術士会 文部科学省認定	水質学 × 2 * 水質学実験 ◇ 2 *
		技術士（環境部門）	（公社）日本技術士会 文部科学省認定	海洋生物多様性保全論 × 2 水質学 × 2 * 水質学実験 ◇ 2 *
		1級ビオトープ「計画」管理士 1級ビオトープ「施工」管理士 2級ビオトープ「計画」管理士 2級ビオトープ「施工」管理士 ※いずれの級でも認定	（公財）日本生態系協会	個体群生態学 × 2 * 群集生態学 × 2 *
		生物分類技能検定 2級〔水圏生物部門〕 1級〔動物部門〕（専門分野：魚類） ※いずれの級でも認定	（一財）自然環境研究センター	魚類学 × 2 ベントスの世界 × 2 プランクトンの世界 × 2 魚類学実験 ◇ 2 * 海洋生物学実験 ◇ 2 * 海洋生物学概論 ○ 2 *
人文学部	人文学科	経済学検定試験「ERE ミクロ・マクロ」	（特非）日本経済学教育協会	経済学 ◇ 2
文理融合学部	経営学科	情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	（独）情報処理推進機構	コンピュータ概論 ◇ 2
		情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	（独）情報処理推進機構	コンピュータ概論 ◇ 2
	地域社会学科	国内旅行業務取扱管理者	（一社）全国旅行業協会	観光業務演習 × 2 日本の文化と観光 × 2
		総合旅行業務取扱管理者	（一社）日本旅行業協会	観光業務演習 × 2 世界の文化と観光 × 2 ビジネスコミュニケーション × 2
	人間情報工学科	情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	（独）情報処理推進機構	コンピュータ概論 ○ 2
		情報処理技術者試験 「基本情報技術者試験」	（独）情報処理推進機構	コンピュータ概論 ○ 2 プログラミング入門 × 2 *
		情報処理技術者試験 「応用情報技術者試験」	（独）情報処理推進機構	コンピュータ概論 ○ 2 プログラミング入門 × 2 * コンピュータアーキテクチャ × 2 *
国際文化学部	地域創造学科	赤十字救急法救急員	日本赤十字社	救急処置法 × 2 *
生物学部	生物学科	中級バイオ技術者認定試験	（特非）（NPO 法人）日本バイオ技術教育学会	遺伝子工学 × 2
		上級バイオ技術者認定試験	（特非）（NPO 法人）日本バイオ技術教育学会	動物細胞科学 × 2 または 植物細胞科学 × 2
		生物分類技能検定 2級〔動物部門〕	（一財）自然環境研究センター	動物系統分類学 × 2 *
		生物分類技能検定 2級〔植物部門〕	（一財）自然環境研究センター	植物系統分類学 × 2

認定学部・学科等		資格等の名称および級	認定法人等	認定科目・必選・単位数
生物学部	海洋生物科学科	技術士（水産部門）	（公社）日本技術士会 文部科学省認定	水産増殖学 × 2 水産資源学 × 2 * 河川生態学 × 2 * 食品流通・管理学 × 2 海洋生物の調査・分析法 × 2 水産生物学実験 ◇ 2 水産資源実験 ◇ 2 河川生態学実験 ◇ 2
		技術士（環境部門）	（公社）日本技術士会 文部科学省認定	海洋化学 × 2 * 海洋生態学 × 2 河川生態学 × 2 * 生物多様性学 × 2 * 海洋化学実験 ◇ 2 河川生態学実験 ◇ 2
		1級ビオトープ計画管理士	（公財）日本生態系協会	海洋生態学 × 2 生物多様性学 × 2 * 河川生態学 × 2 * 海洋生物の調査・分析法 × 2 河川生態学実験 ◇ 2
		1級ビオトープ施工管理士	（公財）日本生態系協会	海洋生態学 × 2 生物多様性学 × 2 * 河川生態学 × 2 * 海洋生物の調査・分析法 × 2 河川生態学実験 ◇ 2
		生物分類技能検定 1級〔水圏生物部門〕（専門分野： 浮遊生物・遊泳生物・底生生物） 1級〔動物部門〕（専門分野：魚類）	（一財）自然環境研究センタ ー	浮遊生物学 × 2 * 魚類学基礎 × 2 魚類体系学 × 2 水産生物学 × 2 * 底生生物学 × 2 浮遊生物学実験 ◇ 2 魚類体系学実験 ◇ 2 水産生物学実験 ◇ 2
		技術士（応用理学部門）	（公社）日本技術士会 文部科学省認定	海洋物理 × 2 * 海洋化学 × 2 * 海洋堆積学 × 2 * 海洋化学実験 ◇ 2
		生物分類技能検定 2級〔水圏生物部門〕	（一財）自然環境研究センタ ー	浮遊生物学 × 2 * 魚類学基礎 × 2 魚類体系学 × 2 水産生物学 × 2 * 底生生物学 × 2
語学教育センター		実用英語技能検定準1級または1級 ※受験日より2年間有効	（公財）日本英語検定協会	英語リスニング&スピーキング ○ 2 英語リーディング&ライティング ○ 2
		TOEFL® - PBT 500点以上（ITP を含む）TOEFL® - iBT61点 以 上 ※いずれも受験日より2年間有効 ※TOEFLは、エデュケーションル テストィング サービスの登録商標 です。	Educational Testing Service TOEFL® テスト日本 事務局	英語リスニング&スピーキング ○ 2 英語リーディング&ライティング ○ 2



認定学部・学科等	資格等の名称および級	認定法人等	認定科目・必選・単位数
語学教育センター	TOEIC®650点以上（IPを含む） ※受験日より2年間有効 ※TOEIC®は、エデュケーション ルテストティング サービスの登録商 標です。	（一財）国際ビジネスコミュ ニケーション協会	英語リスニング&スピーキング ○2 英語リーディング&ライティング ○2
	IELTS™6.0以上 ※受験日より2年間有効	（公財）日本英語検定協会 ※ブリティッシュ・カウンシ ルと日本の IELTS を共同運 営	英語リスニング&スピーキング ○2 英語リーディング&ライティング ○2
	中国語検定試験4級 ※受験日より2年間有効	（一財）日本中国語検定協会	中国語入門1A ×1 中国語入門1B ×1
	中国語検定試験3級 ※受験日より2年間有効	（一財）日本中国語検定協会	中国語入門1A ×1 中国語入門1B ×1 中国語入門2A ×1 中国語入門2B ×1
	中国語検定試験1級・準1級・2級 ※いずれの級でも認定 ※受験日より5年間有効	（一財）日本中国語検定協会	中国語入門1A ×1 中国語入門1B ×1 中国語入門2A ×1 中国語入門2B ×1 中国語初級1A ×1 中国語初級1B ×1 中国語初級2A ×1 中国語初級2B ×1
	実用フランス語技能検定試験4級	（公財）フランス語教育振興 協会	フランス語入門1A ×1 フランス語入門1B ×1
	実用フランス語技能検定試験3級	（公財）フランス語教育振興 協会	フランス語入門1A ×1 フランス語入門1B ×1 フランス語入門2A ×1 フランス語入門2B ×1
	実用フランス語技能検定試験準2級	（公財）フランス語教育振興 協会	フランス語入門1A ×1 フランス語入門1B ×1 フランス語入門2A ×1 フランス語入門2B ×1 フランス語初級1A ×1 フランス語初級1B ×1
	実用フランス語技能検定試験2級以 上	（公財）フランス語教育振興 協会	フランス語入門1A ×1 フランス語入門1B ×1 フランス語入門2A ×1 フランス語入門2B ×1 フランス語初級1A ×1 フランス語初級1B ×1 フランス語初級2A ×1 フランス語初級2B ×1
	DELTA A1	日本フランス語試験管理セン ターフランス語資格試験	フランス語入門1A ×1 フランス語入門1B ×1 フランス語入門2A ×1 フランス語入門2B ×1
	DELTA A2	日本フランス語試験管理セン ターフランス語資格試験	フランス語入門1A ×1 フランス語入門1B ×1 フランス語入門2A ×1 フランス語入門2B ×1 フランス語初級1A ×1 フランス語初級1B ×1

認定学部・学科等	資格等の名称および級	認定法人等	認定科目・必選・単位数
語学教育センター	DELTA B1以上	日本フランス語試験管理センター フランス語資格試験	フランス語入門1 A × 1 フランス語入門1 B × 1 フランス語入門2 A × 1 フランス語入門2 B × 1 フランス語初級1 A × 1 フランス語初級1 B × 1 フランス語初級2 A × 1 フランス語初級2 B × 1
	ドイツ語技能検定試験 5 級	(公財) ドイツ語学文学振興会	ドイツ語入門1 A × 1 ドイツ語入門1 B × 1
	ドイツ語技能検定試験 4 級	(公財) ドイツ語学文学振興会	ドイツ語入門1 A × 1 ドイツ語入門1 B × 1 ドイツ語入門2 A × 1 ドイツ語入門2 B × 1
	ドイツ語技能検定試験 3 級	(公財) ドイツ語学文学振興会	ドイツ語入門1 A × 1 ドイツ語入門1 B × 1 ドイツ語入門2 A × 1 ドイツ語入門2 B × 1 ドイツ語初級1 A × 1 ドイツ語初級1 B × 1
	ドイツ語技能検定試験 2 級以上	(公財) ドイツ語学文学振興会	ドイツ語入門1 A × 1 ドイツ語入門1 B × 1 ドイツ語入門2 A × 1 ドイツ語入門2 B × 1 ドイツ語初級1 A × 1 ドイツ語初級1 B × 1 ドイツ語初級2 A × 1 ドイツ語初級2 B × 1
	「ハングル」能力検定試験 5 級	ハングル能力検定協会	韓国語入門1 A × 1 韓国語入門1 B × 1
	「ハングル」能力検定試験 4 級	ハングル能力検定協会	韓国語入門1 A × 1 韓国語入門1 B × 1 韓国語入門2 A × 1 韓国語入門2 B × 1
	「ハングル」能力検定試験 3 級	ハングル能力検定協会	韓国語入門1 A × 1 韓国語入門1 B × 1 韓国語入門2 A × 1 韓国語入門2 B × 1 韓国語初級1 A × 1 韓国語初級1 B × 1
	「ハングル」能力検定試験準 2 級以上	ハングル能力検定協会	韓国語入門1 A × 1 韓国語入門1 B × 1 韓国語入門2 A × 1 韓国語入門2 B × 1 韓国語初級1 A × 1 韓国語初級1 B × 1 韓国語初級2 A × 1 韓国語初級2 B × 1
	韓国語能力試験 (TOPIK I) 1 級	(公財) 韓国教育財団	韓国語入門1 A × 1 韓国語入門1 B × 1 韓国語入門2 A × 1 韓国語入門2 B × 1

認定学部・学科等	資格等の名称および級	認定法人等	認定科目・必選・単位数
語学教育センター	韓国語能力試験（TOPIK I）2 級	（公財）韓国教育財団	韓国語入門 1 A × 1 韓国語入門 1 B × 1 韓国語入門 2 A × 1 韓国語入門 2 B × 1 韓国語初級 1 A × 1 韓国語初級 1 B × 1
	韓国語能力試験（TOPIK II）3 級以上	（公財）韓国教育財団	韓国語入門 1 A × 1 韓国語入門 1 B × 1 韓国語入門 2 A × 1 韓国語入門 2 B × 1 韓国語初級 1 A × 1 韓国語初級 1 B × 1 韓国語初級 2 A × 1 韓国語初級 2 B × 1
	ロシア語能力検定試験 4 級	ロシア語能力検定委員会	ロシア語入門 1 A × 1 ロシア語入門 1 B × 1 ロシア語入門 2 A × 1 ロシア語入門 2 B × 1
	ロシア語能力検定試験 3 級	ロシア語能力検定委員会	ロシア語入門 1 A × 1 ロシア語入門 1 B × 1 ロシア語入門 2 A × 1 ロシア語入門 2 B × 1 ロシア語初級 1 A × 1 ロシア語初級 1 B × 1
	ロシア語能力検定試験 2 級以上	ロシア語能力検定委員会	ロシア語入門 1 A × 1 ロシア語入門 1 B × 1 ロシア語入門 2 A × 1 ロシア語入門 2 B × 1 ロシア語初級 1 A × 1 ロシア語初級 1 B × 1 ロシア語初級 2 A × 1 ロシア語初級 2 B × 1
	ロシア語検定試験入門レベル	ロシア連邦教育科学省	ロシア語入門 1 A × 1 ロシア語入門 1 B × 1 ロシア語入門 2 A × 1 ロシア語入門 2 B × 1
	ロシア語検定試験基礎レベル	ロシア連邦教育科学省	ロシア語入門 1 A × 1 ロシア語入門 1 B × 1 ロシア語入門 2 A × 1 ロシア語入門 2 B × 1 ロシア語初級 1 A × 1 ロシア語初級 1 B × 1
	ロシア語検定試験第 1 レベル以上	ロシア連邦教育科学省	ロシア語入門 1 A × 1 ロシア語入門 1 B × 1 ロシア語入門 2 A × 1 ロシア語入門 2 B × 1 ロシア語初級 1 A × 1 ロシア語初級 1 B × 1 ロシア語初級 2 A × 1 ロシア語初級 2 B × 1
	スペイン語技能検定 6 級	（公財）日本スペイン協会	スペイン語入門 1 A × 1 スペイン語入門 1 B × 1

認定学部・学科等	資格等の名称および級	認定法人等	認定科目・必選・単位数
語学教育センター	スペイン語技能検定 5 級	(公財) 日本スペイン協会	スペイン語入門 1 A × 1 スペイン語入門 1 B × 1 スペイン語入門 2 A × 1 スペイン語入門 2 B × 1
	スペイン語技能検定 4 級以上	(公財) 日本スペイン協会	スペイン語入門 1 A × 1 スペイン語入門 1 B × 1 スペイン語入門 2 A × 1 スペイン語入門 2 B × 1 スペイン語初級 1 A × 1 スペイン語初級 1 B × 1 スペイン語初級 2 A × 1 スペイン語初級 2 B × 1
	DELE A1レベル	スペイン教育文化スポーツ省 セルバンテス文化センター	スペイン語入門 1 A × 1 スペイン語入門 1 B × 1 スペイン語入門 2 A × 1 スペイン語入門 2 B × 1 スペイン語初級 1 A × 1 スペイン語初級 1 B × 1
	DELE A2レベル以上	スペイン教育文化スポーツ省 セルバンテス文化センター	スペイン語入門 1 A × 1 スペイン語入門 1 B × 1 スペイン語入門 2 A × 1 スペイン語入門 2 B × 1 スペイン語初級 1 A × 1 スペイン語初級 1 B × 1 スペイン語初級 2 A × 1 スペイン語初級 2 B × 1
	日本語能力試験 N 1	(公財) 日本国際教育支援協会	アカデミックジャパニーズ × 2 総合日本語 × 2 ※留学生カリキュラム適用者のみ認定。
理系教育センター	情報処理技術者試験 「IT パスポート試験」	(独) 情報処理推進機構	社会情報概論 × 2 ※東海大学数理データサイエンス AI 教育プログラムの認定を目指す場合は、授業を受講して合格する必要があるため単位認定の申請はしないこと。
	統計検定 3 級以上	(一財) 統計質保証推進協会	データサイエンス入門 × 2 ※東海大学数理データサイエンス AI 教育プログラムの認定を目指す場合は、授業を受講して合格する必要があるため単位認定の申請はしないこと。
	情報処理技術者試験 「情報セキュリティマネジメント試験」	(独) 情報処理推進機構	情報セキュリティ概論 × 2
	G 検定	(一社) 日本ディープラーニング協会	人工知能 × 2 ※東海大学数理データサイエンス AI 教育プログラムの認定を目指す場合は、授業を受講して合格する必要があるため単位認定の申請はしないこと。